請求ヲ爲スコトヲ得ス夫婦ノ一方カ離婚ノ訴ヲ起シテ裁判ノ確定セサルニ先チ死亡シタルトキハ其相續人ハ此訴訟上ノ權利ヲ繼承シテ離婚ノ訴ヲ繼續スルコトヲ得ス何トナレハ婚姻ハ夫婦一方ノ死亡ニ因リテ既ニ解消シ終リタルモノナレハナリ

第三款　親子

親子ヲ分チテ實子及養子トナス實子ヲ細分シテ嫡出子、私生子、庶子トナス或ハ佛國ノ如キニ於テハ嘗テ此區別ノ外亂倫ノ子、姦通ノ子等ノ區別ヲ認メ普通ノ私生子トノ間ニ權利義務ヲ異ニシタレトモ今日ニ於テハ何レノ國家モ總テ此等ヲ私生子ノ中ニ包含セシムルコトトナセリ

第一項　實子

嫡出子タルニハ其子カ父ノ子ナルコト及母カ婚姻ノ繼續中ニ懷胎シタルコトノ二個ノ要件ヲ要ス（第八百二十條）而シテ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト見ル然レトモ斯ル法律上ノ推定ニ對シテハ反證ヲ擧クルコトヲ得ヘク此ノ訴權ヲ名ツケテ否認訴權ト云フ自己ノ子トスルコトヲ認ムルヲ否ム權利トノ意味ナリ否認訴權ハ父ニ專屬シテ母ニ屬セス夫カ禁治產者ナルトキハ其法定代理人ヲシテ親族會ノ同意ヲ得テ否認訴權ヲ行ハシムヘシ（第八百二十二條人事訴訟手續法第二十八條）

子ノ出生前夫カ死亡シタル時又ハ子カ出生後ニ於テモ父カ否認ノ訴ヲ起サスシテ死亡シタル時ハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者竝ニ夫ノ三親等内ノ血族ハ夫ノ死亡後一年内ニ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得夫カ否認ノ訴ヲ起シツツ死亡シタル時ハ子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者又ハ夫ノ三親等内ノ血族ハ夫ノ訴訟手續ヲ承繼ス

庶子トハ婚姻外ノ子ニシテ父ノ之レヲ認メタルモノヲ云ヒ私生子トハ否ラサルモノヲ云フ私生子カ父ノ認知ニヨリテ庶子トナルコトハ第八百二十七條第二項ノ規定ニ由リテ明カナリ母ノミカ認知シタル子ハ庶子トナルコト能ハス認知セラルルコトヲ拒否スルノ權利ヲ有スル者ハ子及利害關係人ナリ（第八百三十四條）

第二項　養子

養子縁組ノ成立ニハ實質上ノ要件ト形式上ノ要件トアリ實質上ノ要件ヲ分チテ養親トナルニ要スル條件及養子トナルニ要スル條件トナス

甲　養親ニ關スル實質上ノ要件左ノ如シ

一　年齢

養親タラントスルモノハ成年以上ニシテ且ツ養子トナル者ヨリ年長ナルコトヲ要ス（第八百三十七條第八百三十八條）

二　尊屬親ハ縱令自己ヨリ年少者ナルモ之レヲ養子ト爲スコトヲ得ス（第八百三十八條）

三　後見人ハ後見ノ繼續中被後見人ヲ養子トナスコトヲ得ス又後見ノ關係カ止ミタル後ニ於テモ管理ノ計算ヲ終ルマテハ被後見人ヲ養子トナスコトヲ得ス

四　養子ヲ爲サントスル者ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

五　家督相續ヲ爲スヘキ男子ヲ有スル者ハ男子ヲ養子トナスコトヲ得ス女子ノ婿ト爲ス爲メニスルハ此限ニ在ラス（第八百三十九條）

六　當事者ノ承諾（第八百五十一條第八百四十八條）

當事者ノ承諾トハ養子ヲ爲サントスル養親自身ノ承諾ト云フノ意味ナリ養親ノ承諾ハ必スシモ養子ヲナスノ當時ニ於テ之レアルコトヲ要スルモノニアラス或場合ニ於テハ遺言書ヲ以テ養子トナスコトヲ得ヘシ

七　成年ノ子カ養子ヲ爲スニハ其家ニアル父母ノ同意ヲ得ヘシ家族カ養子ヲナスニハ戸主ノ同意ヲ得サルヘカラス（第八百四十四條第七百五十條第一項）

八　皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス（皇室典範第四十二條）

乙　養子ニ關スル實質上ノ要件ハ左ノ如シ

一　父母ノ許可（第八百四十三條第八百四十四條）

繼父母又ハ嫡母カ養子縁組ノ承諾ヲ與ヘサルトキハ親族會ノ承諾ヲ得ハ足レリトス父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ或ハ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノミノ承諾ヲ以テ足レリトス父母ノ

雙方カ右ノ如キ狀態ニアルトキハ後見人及親族會ノ同意ヲ要ス勿論右ハ養子トナルヘキ者カ滿十五年ニ達セサル場合ニ限ル

二　一家ノ養子トナリタル者カ更ニ轉シテ他家ノ養子トナラントスル場合ニハ實家ニアル父母ノ同意ヲモ得サルヘカラス（第八百四十五條）但シ妻カ夫ニ從ヒテ他家ニ入ル場合ハ實家ノ父母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

三　戶主ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス（第七百五十條）

四　養子トナリタル者カ更ニ轉シテ他家ノ養子トナラントスルトキハ養家ノ戶主ノ承諾ト實家ノ戶主ノ承諾トヲ併セ得サルヘカラス（第七百四十一條第一項）

五　養子夫レ自身ノ承諾ヲ要ス其理由ハ養親タルノ要件第六ニ述ヘタルコトト同シ民法第八百五十一條第一號ニハ人違ヒ其他ノ事由ニヨリ當事者間ニ緣組ヲナスノ意思ナキトキハ養子緣組ハ無效ナルコトヲ定メタリ

六　皇族ハ華族以外ノ者ノ養子トナルコトヲ得ス

丙　養子緣組ニ關スル形式上ノ要件ハ民法第八百四十一條乃至第八百五十條ニ定ムル所ニシテ其大要ヲ擧レハ左ノ如シ

一　戶籍吏ニ屆出ルコト

二　其屆出ハ當事者雙方竝ニ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ヲ以テ又ハ書面ヲ以テ爲スヘキコト

三　戶籍吏カ右ノ屆出ヲ受理スルコト此ノ受理ヲ爲スニ要スル條件ハ法文ノ各條ニ付テ見ルヘシ

丁　養子緣組ノ無效ナル場合ハ左ノ如シ

一　人違ヒ其他ノ事由ニヨリ當事者カ緣組ヲナスノ意思ヲ有セサリシトキ

二　當事者カ緣組ノ屆出ヲナササリシトキ

戊　養子緣組ノ取消サルヘキ場合ハ左ノ如シ

一　未成年者カ養子ヲナシタルトキ、未成年者カ養子ヲナシテ成年ニ達シタル後六箇月ヲ經過スルモ取消ヲ爲ササリシトキハ追認セラレタルモノト見ル（第八百五十三條第八百三十七條）

二　尊屬親ヲ養子トナシタルトキ、年長者ヲ養子トナシタルトキ、法定ノ推定家督相續人アルニ拘ハラス養子ヲナシタルトキハ養親、養子、戶主又ハ親族ヨリ取

消ヲ請求スルコトヲ得（第八百五十四條、第八百三十九條）

三　後見人カ後見人ノ繼續中ニ又ハ後見ノ管理ノ計算ヲ終ラサル内ニ被後見人ヲ養子トナシタルトキハ養子及ヒ養子ノ實家ノ親族ノミ取消權ヲ有ス（第八百五十五條、第八百四十條）

四　配偶者アル者カ配偶者ノ同意ヲ得スシテ養子ヲ爲シタルトキ又配偶者ノ同意ヲ得スシテ養子トナリタルトキハ該配偶者ハ六箇月ノ時效ヲ以テ取消スコト得（第八百五十六條、第八百四十一條）

五　未成年ノ子カ養子ヲナシ又ハ十五歳以上ノ子カ養子トナルニ其家ノ父母ノ同意ヲ得サリシトキ、養子カ再養子トシテ他家ニ入ルニ當リ實家ノ父母ノ同意ヲ得サリシトキ又父母ノ一方カ意思ヲ表示スルコト能ハサルノ狀態ニ在リシトキ他ノ一方ノ同意ヲ得サリシトキノ如キハ同意ヲ與フヘカリシ者ヨリ取消ヲ請求スルコトヲ得（第八百五十七條、第八百四十四條、第八百四十六條、第七百七十二條、第七百七十三條）

六　婿養子緣組ノ場合ニ於テハ婚姻ノ無效又ハ取消ヲ理由トシテ養子緣組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得（第八百五十八條）

七　詐欺又ハ强迫ニヨリテ養子緣組ヲナシタルトキハ其詐欺又ハ强迫ヲ受ケタル者ヨリ六箇月ノ時效ヲ以テ取消スコトヲ得（第八百五十九條、第七百八十五條）

養子緣組ノ效力ニ關シ一言センニ養子ハ實子ト同一ナル權利義務ヲ有ス民法第八百六十條ニ養子ハ緣組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ストアリ凡テ養子ハ實子ト同一視セラルルカ故ニ親權、相續權、扶養ノ義務、婚姻ノ妨碍等ノ權利義務ノ關係ハ全ク嫡出子ト同一ナリ然レトモ養子ハ養家ニ於ケル權利義務ヲ得タルノ故ヲ以テ實家ニ於ケル權利義務ヲ喪失スルモノニアラス從テ養家ニ於ケル權利義務ト實家ニ於ケル權利義務トカ相衝突スルコトアリ斯ル場合ニ於テハ法律ニ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ要ス（第九百五十六條）

養子緣組ノ效力トシテ養子ハ養親ノ家ニ入ル（第八百六十一條）

終リニ養子離緣ノ原因ヲ擧ケン養子ノ離緣ニ當事者ノ合意ニ因ルモノ即チ協議ノ離緣ト强制ノ離緣即チ裁判上ノ離緣トアリ强制ノ離緣トハ特定ノ原因アルモノニ限リ請求ニ應シテ裁判所カ判決ヲ以テ離緣ノ許可ヲ與フルモノヲ云フ

第一　協議上ノ離緣

一　實質上ノ要件

イ　當事者ノ合意

ロ　十五歳未滿ノ養子カ離緣ヲ爲サントスルトキハ養親ハ養子緣組承諾ノ權利者ト協議ノ上之レヲ定ム（第八百六十二條、第八百四十三條、第八百四十六條、第七百七十二條）

ハ　養子カ未タ戸主トナラサルコト（第八百六十二條、第八百七十四條）

ニ　十五歳以上二十五歳未滿ノ養子カ協議ノ離緣ヲ爲サントスルトキハ第八百四十四條ノ規定ニヨリ緣組ニ合意ヲ與フル權利者ノ合意ヲ受ケサルヘカラス禁治產者ノ離緣ニハ後見人ノ同意ヲ要セス

二　形式上ノ要件

養子離緣ノ形式上ノ要件ハ戸籍吏ニ對シテ屆出ヲ爲スコトナリ

第二　强制ノ離緣即チ離緣ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得ヘキ原因左ノ如シ（第八百十六條）

一　一方カ他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

二　一方カ他方ヨリ惡意ヲ以テ委棄セラレタルトキ

三　養子カ養親ノ直系尊屬親ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルコト

四　一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五　養子ニ家名ヲ汚シ又ハ家產ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ

六　養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ

七　養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

八　一方カ他方ノ尊屬親ニ對シ虐待ヲナシ又ハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九　婿養子緣組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ養家ノ女子ト婚姻ヲナシタル場合ニ離緣若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ

養子離緣ノ效力ハ左ノ如シ

一　養子ハ離緣ト同時ニ嘗テ實家ニ於テ有シタル身分ヲ回復ス但シ之レカ爲メニ第三者カ已ニ實家ニ於テ取得シタル權利ヲ妨クルコトヲ得ス（第八百十五條）

二　夫婦養子ノ場合及養子カ養親ノ緣女ト婚姻シタル時ニ於テ妻カ離緣ニヨリテ養家ヲ去ルトキハ夫ハ（一）妻ト共ニ養家ヲ去リ離緣ヲ爲スカ（二）離婚ヲ爲シテ離緣ヲ爲サス己レ獨リ養家ニ止ルカ二者其ノ一ヲ擇ハサルヘカラス蓋シ夫ハ養家

ニアルニ拘ハラス養家ヲ去リタル妻ト夫婦ノ關係ヲ持續スルコト能ハサレハナリ（第七百八十六條、第七百四十五條第七百八十八條）

第三項　親權

親權ノ效力ハ之ヲ別チテ身上權及財產權トナス

第一　身上權

一　監護權即チ子ヲ監護シ保護スルコトヲ云フ（第八百七十九條）

二　敎育（第八百七十九條）

子カ特別財產ヲ有スルトキ親ハ之レヲ以テ子ヲ敎育スヘク之ニ反シテ子カ特別財產ヲ有セサル時ハ親ヨリ之レヲ支出ス

三　子ノ居所ヲ定ムルノ權（第八百八十條）

民法第七百四十九條第一項ニ家族ハ戶主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ストアリ若シ親ト戶主トカ異リタル人ニシテ其ノ示ス所ノ居所カ相異ルトキハ何レニ從フヘキヤノ疑アリ此場合ニ子カ戶主ノ意思ニ反シ親ノ意思ニ從ヒテ居所ヲ定メタルトキハ戶主ハ子ニ（家族）對シテ扶養ノ義務ヲ免レ子ハ親ノ定メタル居所ニ從フ子カ親ノ命シタル居所ニ從ハサルトキハ如何ナル制裁ヲ與フヘキヤ民法ニ何等ノ規定ナキハ缺點ナリ

四　兵役ノ出願ニ許可ヲ與フルノ權（第八百八十一條）

五　懲戒ノ權　親ハ懲戒權ヲ有スレトモ其方法ハ刑法其他ノ刑罰法ニ牴觸スヘカラス親カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニヨリ裁判所ハ親權ノ喪失ヲ宣告ス親ハ又裁判所ノ許可ヲ得テ六箇月以內ニ限リ子ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得（第八百八十二條、第八百九十六條）

六　子カ職業ヲ營ムニ關シ許可ヲ與フルノ權及其許可ヲ取消シ又ハ制限スルノ權（第六條、第八百八十三條）

第二　財產權

一　財產管理權

親ハ子ノ財產ヲ管理スルコトヲ辭スルコトヲ得ス但シ母ハ親權ヲ行フニ當リ財產管理ヲ辭スルコトヲ得親カ子ノ財產ヲ管理スルノ權利ニ對シテ二個

ノ例外アリ

甲　未成年ノ子カ營業ヲ許サレタル場合（第六條）

乙　第三者カ無償ヲ以テ子ニ財産ヲ與ヘ其財産ニ關シテハ親權者ヲシテ管理セシメサルコトヲ條件トシタル場合ニ右第三者カ特ニ其財産ノ管理人ヲ指定セサリシ時又ハ指定セラレタルモ該被指定者ノ管理權カ消滅シタル時或ハ前管理人ヲ改任スルノ必要アルニ拘ハラス第三者カ他ノ管理人ヲ指定セサリシ場合ニハ裁判所ハ子又ハ其親族又ハ檢事ノ請求ニ依リ管理者ヲ定ム（第八百九十二條）

親權者カ子ノ財産ヲ管理スルニハ自己ノ財産ニ關スルト同一ノ注意ヲ以テスレハ足レリ親權ノ下ニ立ツ子ニ配偶者アルトキハ親權者ハ併セテ該配偶者ノ財産ヲ管理ス其注意ハ亦自己ノ財産ニ對スルト同一ナル注意ヲ以テ足ル但シ夫婦財産制ニ於テ未成年者タル夫カ妻ノ財産ニ關シ善良ナル管理者ノ義務ヲ負フヘシト定メタルトキハ親權者ハ之レト同一ノ責任ヲ有ス（第四條、第八百八十五條、第八百八十九條）

子カ親權ヲ脫スル時ハ親權者ハ遲滯ナク管理中ノ計算ヲ爲ササルヘカラス

子カ尙ホ未成年ナルニ親權者カ親權ヲ失ヒタルトキハ後ノ親權者又ハ後見人ハ親權或ハ後見ノ權利ヲ行フカ故ニ親權ヲ失ヒタル者ハ管理ノ計算ヲナスノ要ナシ財産管理者タル父母カ親權ヲ行フニ當リ子ノ爲メニ財産目錄ヲ作ルヘシトノ規定カ我法文ニ存セサルハ一大缺點ナリト言ハサルヘカラス（第八百九十條、第八百九十一條）

二　代表權　親權ヲ有スル父又ハ母カ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ其行爲カ未成年者ノ所有スル財産ニ關スルトキハ未成年者ヲ代表シタルモノト見ル代表權ハ獨リ財産ノ使用、保存、改良ニ關スルノミナラス更ニ財産ノ處分ニ及フモノナリ故ニ親權者ハ子ノ財産ニ關シテ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ未成年者ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニハ未成年者ノ同意ヲ得ルニアラサレハ代表權ヲ行フコト能ハス又代表權ハ財産ニ限ルカ故ニ親權者ハ未成年者ノ身上ニ關シ何等代表權ヲ有スルコトナシ（第八百八十四條）

三　同意權　未成年者カ職業ヲ營ムニ付テハ親權者ノ同意ヲ得サルヘカラス（第八

（百八十三條）

父カ有スル親權ト母カ有スル親權トハ同一ニアラス母ノ行フ所ノ親權ハ父ノ行フ所ノ親權ニ比シテ種々ノ制限ヲ受ク即チ母ハ親族會ノ同意ヲ得サレハ子ノ行爲ヲ代表スルコトヲ得ス或ハ子ノ行爲ニ同意ヲ與フルコトヲ得サル場合甚タ多シ若シ此等ノ場合ニ母カ親族會ノ同意ヲ得サリシトキハ子又ハ其法定代理人ハ其行爲ヲ取消スコトヲ得ヘシ親權者ノ利益ト未成年者ノ利益トカ衝突スルコトアリ又親權者カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニハ其數人ノ間ニ利益ノ衝突ヲ來スコトアリ斯ル場合ニハ親權者ハ親族會ニ向ツテ特別代理人ノ選定ヲ要求セサルヘカラス我民法ハ只此請求ヲ爲スヘキ義務アルコトヲ規定スルニ止リ之カ請求ヲナササリシ場合ノ救濟法ヲ規定セス是レ法文ノ缺點ナリ（第八百八十六條第八百八十七條第八百八十八條）

（百八條）

親權者カ親權ヲ濫用シタル場合若クハ親權者ニ甚タシキ不行跡アル場合ニハ親族又ハ檢事ノ請求ヲ待チ裁判所ノ宣告ヲ以テ親權ヲ喪失セシムルコトヲ得ヘシ親權者ノ管理カ失當ナル場合ニハ裁判所ハ親權者ヲシテ管理權ノミヲ喪失セシムルコトヲ得ヘシ親權者カ管理權ノミヲ失ヒタルトキハ他ノ親權者管理權ヲ行ヒ若シ他ノ親權者即チ母之レナキトキハ後見人管理權ノミヲ有ス（第八百九十六條乃至第八百九十八條第九百條）

第四款　扶養ノ義務

扶養ノ義務トハ或人カ自ラ生活又ハ學修スル能ハサル場合ニ他ノ某者カ之レヲ養ヒ又ハ教育スルノ義務ヲ云フ扶養スルトハ必スシモ金錢ヲ給與スルニ限ルモノニアラス直接ニ衣食住ヲ給スルコトモ又所謂扶養ナルモノノ中ニ包含セラル扶養ノ額及種類ハ權利者及ヒ義務者ノ身分地位ニ由リ差異アリ（第九百六十條第九百六十一條）

扶養ノ義務ヲ負フモノハ第一戸主、第二夫婦、第三直系血族、第四兄弟姉妹、第五夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬親トノ間ナリ第五ノ場合ハ其家ニ在ルモノニ限ル扶養ノ義務ヲ負フモノカ許多アル場合ニ先ツ扶養ヲナスヘキモノノ順序ハ左ノ如シ

第一　配偶者
第二　直系卑屬（直系卑屬數人アルトキハ親等ノ近キモノヲ義務者ト爲ス）
第三　直系尊屬（同上）
第四　戸主
第五　夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬親ニシテ其家ニ在ルモノトノ間（第二第三ニ同シ）
第六　兄弟姉妹

同親等ノモノ二人以上アルトキハ其家ニ在ル者先ツ扶養ノ義務ヲ負フ家ニ在ル者數人アルトキハ資力ニ應シテ扶養ヲ分擔ス家ニ在ル者ナクシテ家ニ在ラサル者數人アルトキハ又各其資力ニ應シテ分擔ス（第九百五十四條乃至第九百五十五條）

扶養權利者ノ數多クシテ權利者ノ全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコト要ス（第九百五十七條）

第一　直系尊屬
第二　直系卑屬
第三　配偶者
第四　夫婦ノ一方ト其家ニアル他ノ一方ノ尊族親トノ間
第五　兄弟姉妹
第六　前五號ニ掲ケサル家族

第五款　戸主及家族

戸主トナルノ方法ヲ分チテ家督相續ニ因ルモノト新ニ戸主トナルモノトノ二種トナス如何ナル者カ家督相續ヲナスカハ相續法ニ讓ル第二種ノモノ即チ新ニ戸主トナルノ方法ハ左ノ如シ

第一　婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ離婚又ハ離緣ニ因リテ實家ニ復歸スヘキ場合ニ實家カ廢絶シタルトキ
第二　家族カ離籍セラレタル場合
第三　婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ離緣又ハ離婚ヲナシテ實家ヘ復歸セントシタル場合ニ其復歸ヲ拒絶セラレタルトキ

第四　父母共ニ知レサル子（捨子迷子ノ如キモノ）

第五　私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキ

第六　戸主死亡シ家督相續人ナキトキハ其家ハ絶家シ其家族ハ一家ヲ創立シテ戸主トナル

第七　分家シタル家族ハ戸主トナル分家ヲ爲サントスルトキハ戸主ノ同意ヲ得サルヘカラス家督相續人ハ分家ヲ爲スコトヲ得ス

第八　家族カ廢絶シタル本家、分家、同家、其他親族ノ家ヲ再興スルトキハ其家ノ戸主トナル

以上第一乃至第七ハ一家創立ノ場合ニシテ第八ハ廢絶家再興ノ場合ナリ

家族ヲ分チテ本來ノ家族及傳來ノ家族トス本來ノ家族トハ出生ニ因ルモノヲ云ヒ傳來ノ家族トハ生レナカラニシテ其家ノ家族ニアラサルモ後ニ至リテ其家ノ家族トナルモノヲ云フ傳來ノ家族トナルノ方法ハ左ノ如シ

第一　婚姻

第二　婚姻ノ後夫カ他家ニ入レハ妻ハ其家ノ家族トナル夫カ一家ヲ創立スルトキ亦同シ

第三　養子

第四　婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ實家ニ在ル自己ノ親族ニシテ養親ノ親族ニ非サル者ヲ引取リタルトキハ此等ノ者ハ婚家又ハ養家ノ家族トナル

第五　婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ノ家族トナリタル者カ實家ニ復歸スルトキハ實家ノ家族トナル

第六　戸主カ變更シタル時ハ舊戸主及其家族ハ新戸主ノ家族トナル

第七　戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戸主ノ同意ヲ得テ家族トナルコトヲ得

第八　婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタルトキハ直チニ該他家ノ家族トナルモ此場合ニ於テハ婚家又ハ養家ノ戸主並ニ實家ノ戸主ノ同意ヲ得サルヘカラス

第六款　後見

後見ノ目的ハ被後見人ヲ保護スルニ在ルカ故ニ後見人ハ左ノ場合ノ一ニ非サレハ後見人タルヲ辭スルコトヲ得ス

一　軍人トシテ現役ニ服スルコト

二　被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト

三　自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者カ適法ノ理由アリテ後見人トナラサリシニ因リ自己カ後見人トナリ居リタルニ先ニ後見人タルヘキ人カ後見人タラサリシ事由ノ消滅シタルコト

四　禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血族及ヒ戸主ハ此限ニアラス

五　此他正當ノ事由

後見人ハ未成年者ニモ禁治産者ニモ付スルモノニシテ未成年者ニ對シテハ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキニ後見人ヲ付シ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルト同時ニ後見人ヲ付ス（第七條第八條人事訴訟手續法第五十二條）

未成年者ノ後見人ヲ遺言後見人（一名指定後見人）若クハ選定後見人若クハ法定後見人トナス遺言後見人トハ最後ニ親權ヲ行フ者カ遺言ヲ以テ指定タシル後見人ナリ（第九百一條）家族ニシテ後見人トナル者無キトキハ戸主ハ當然ニ後見人トナル之ヲ名ケテ法定後見人ト云フ（第九百三條）遺言後見人モ法定後見人モ共ニ之レナキトキ或ハ之レアルモ辭シタルカ又ハ後見人ノ資格ニ缺クルトキハ親族會ヲシテ後見人ヲ選定セシム之ヲ名ケテ選定後見人ト云フ（第九百四條、第九百七條、第九百八條）

禁治産者ノ後見人ヲ當然後見人若クハ法定後見人若クハ選定後見人トナス未成年ニ對シテハ親權者アルトキハ後見人ヲ要セサレトモ禁治産者ハ成年ナルコトアリ故ニ此場合ニハ其父又ハ母ハ子タル禁治産者ニ對シテ親權ヲ有セスト雖モ子カ禁治産者タルノ故ヲ以テ當然ニ其後見人トナル之ヲ名ケテ當然後見人ト云フナリ禁治産者タル夫ニ對シテハ妻其後見人トナリ妻カ後見人トナラサルトキ又ハ夫カ未成年ナルトキハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人トナル妻カ禁治産者ナルトキハ夫其後見人トナリ夫カ後見人トナラサルトキハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人トナル（第九百二條）禁治産者ニ對スル法定後見人及ヒ

選定後見人ハ未成年者ニ對スルモノニ同シ

準禁治産者ニ對スル保佐人ノ規定ハ禁治産者ニ對スル後見人ノ規定ノ準用ナリ保佐人ト準禁治産者トノ間ニ利害ノ衝突ヲ來スコトアリ又保佐人ヲ以テ自己ノ代表者トナス所ノ第三者ト準禁治産者トノ間ニ利害ノ衝突ヲ來スコトアリ此場合ニ於テハ保佐人ハ親族會ニ請求シテ臨時保佐人ヲ選任セシムヘシ（第九百九條）

後見人ヲ監督セシメンカ爲ニ後見監督人ヲ置ク後見監督人ニハ遺言（又ハ指定）後見監督人ト選定後見監督人トノ二種アリ最後ノ親權者カ指定シタル者ハ前者ニシテ此ノ指定ヲナサスシテ最後ノ親權者カ死亡シタルトキハ後見人ハ裁判所ニ向テ親族會ノ招集ヲ請求シ親族會ヲシテ後見監督人ヲ選定セシム後見監督人ノ生スル以前ニ於テハ後見人ハ後見ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

後見監督人ノ職務ハ(一)後見人ヲ監督シ被後見人ノ財産調査及財産目錄ノ調製ニ立合ヒ(二)後見人缺ケタルトキハ新タナル後見人ノ任務ニ就クコトヲ促シ(三)急迫ナル事情アル場合ニ必要ナル處分ヲナスコト(四)被後見人ト後見人トノ間ニ又ハ被後見人ト後見人ノ代表者トノ間ニ利害ノ衝突アル場合ニ被後見人ヲ代表ス

ルコト(五)善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ監督ヲ爲スコト是レナリ

後見ノ事務ヲ大別シテ被後見人ノ身上ニ對スル事務及被後見人ノ財産ニ關スル事務トノ二種トナス

後見人カ未成年者タル被後見人ノ身上ニ對スル事務トハ被後見人ヲ監護シ教育スルコト及ヒ兵役ノ出願ニ許可ヲ與フルコト是レナリ（第九百二十一條、第八百八十一條、第八百八十三條）後見人カ禁治産者タル被後見人ノ身上ニ對スル事務トハ第九百二十二條第一項ニ「禁治産者ノ後見人ハ禁治産者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ力ムルコトヲ要ス」トアル是レナリ兩者ニ通有ナル事項ハ被後見人カ戶主ナル場合ニ後見人カ代リテ戶主權ヲ行フコト是レナリ

財産ニ關スル事務トハ(一)財産目錄ヲ調製スルコト(二)後見人カ被後見人ニ對スル債權債務ヲ申出ツルコト(三)一年ニ少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀態ヲ親族會ニ報告スルコト(四)被後見人カ包括財産ヲ取得シタルトキハ後見人ハ後見開始ノ際ト同一ノ行爲ヲナスコト(五)被後見人ノ經常費用ノ年額ヲ豫定スルコト(六)被後見人ノ財産ノ管理又ハ被後見人ノ財産ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代

表スルコト(七)被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢ヲ寄託スルコト(八)後見人カ被後見人ニ代リテ財産上重大ナル行爲ヲ爲ス場合ニ親族會ノ同意ヲ得ルコト(九)後見人カ被後見人ノ財産ヲ賃借スルニハ親族會ノ同意ヲ得ヘキコト(十)後見人カ被後見人ニ向ヒテ相當ノ擔保ヲ供スルコト等是レナリ

後見人カ死亡シタルトキ、又ハ辭シタルトキ又ハ免黜セラレタルトキ、資格ヲ失ヒタルトキ、後見人カ失踪シタルトキ、戸主タルニ因ル後見人ハ戸主ヲ止メタルトキ、配偶者タルニ因ル後見人ハ配偶者タルコトヲ止メタルトキニ後見ハ終了ス次ニ被後見人ノ方面ヨリ見レハ未成年者又ハ禁治産者カ死亡シタルトキ、未成年者カ成年ニ達シタルトキ、禁治産者カ禁治産ヲ解カレタルトキ、未成年者カ他家ノ養子トナリタルトキ、戸主カ後見人タル場合ニ被後見人カ戸主ノ家ヲ去リタルトキニ後見ハ終了ス

第七款　親族會

親族會トハ未成年者又ハ禁治産者ニ對シ後見人、保佐人、後見監督人等ノ行爲ヲ監督シテ該未成年者又ハ禁治産者ノ利益ヲ保護センカ爲メニ親族又ハ其他關係ノ密ナル者ヲ以テ組織スル一種ノ會合ヲ云フ親族會ヲ招集スルモノハ無能力者ノ住所地ノ區裁判所ナリ而シテ其招集ヲ請求スル者ハ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、檢事又ハ利害關係人ナリ

何人ヲ親族會員トナスヘキヤハ第九百四十五條ノ規定スル所ニシテ先ツ其數ヲ三人以上ト定メタリ而シテ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ又遺言ニヨリテ親族會員ヲ指定スルコトヲ得若シ其遺言ニヨル指定者カ三人以下ナリシトキハ他ハ補充スルモノト知ルヘシ親族會員カ死亡シ又ハ辭退シ又ハ罷免セラレタルトキハ殘レル會員ヨリ區裁判所ニ請求シテ之ヲ補缺ス而シテ區裁判所ハ該請求者タル會員或ハ第九百四十四條ニ列擧シタル者ヲシテ補缺スヘキ會員ヲ指定セシムルコトヲ得親族會ノ議長ニ關シテハ何等ノ規定ナキカ故ニ親族會員ヨリ互選スルモノト解セサルヘカラス

本人、戸主、家ニ在ル父母、配偶者、本家竝ニ分家ノ戸主、後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得此ノ意見ヲ述ヘンカ爲メニ親族會ノ

招集アリタルトキハ親族會ヨリ之ヲ以上ノ人々ニ通知セサルヘカラス

第五節　相續

第一款　相續ノ概念

民法相續編ニ於テハ純然タル相續ニ關スルモノノ外遺言ニ關スルモノヲ併セ規定ス遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ效力ヲ生スルコト相續ト相同シキノ點竝ニ遺言ノ大部分ハ遺贈ニ關スルモノニシテ遺贈ハ遺產相續ノ場合ト同一ノ權利義務ノ承繼ヲ來タス等ノ點ヨリ便宜上相續編ニ編入シタルニ外ナラス相續トハ先人ニ屬シタル權利義務ヲ包括的ニ承繼スルコトヲ云フ相續ニ身分ノ相續ト財產ノ相續トアリ現今歐洲諸國ニ於テハ身分ノ相續ナルモノ殆ト認メラレサル有樣ナルモ我カ法律ニ於テハ身分相續、財產相續ノ二者ヲ併セ認ム惟フニ我國ノ現狀ハ家族制度ト個人制度トヲ混合セル時代ナルカ故ニ古來ノ慣習ナル家長權相續ヲ遽カニ廢滅ニ歸セシムヘキニアラス是ヲ以テ一方ニ於テハ家長權ノ相續即チ家督相續ヲ認ムルト同時ニ他方ニ於テハ家族ト雖モ獨立シテ財產ヲ有スルコトヲ認メ其結果トシテ財產相續即チ遺產相續ヲモ併セ認メタルモノナルヘシ家督相續ハ先人ノ身分ヲ承繼スルヲ主眼トシ之レニ附隨トシテ財產ヲ承繼ス之レニ反シテ遺產相續ハ單ニ先人ノ財產ノミヲ承繼スルモノナリ

相續人ノ權利即チ相續權發生ノ時期ヲ相續ノ開始ト云フ此時期ノ到來スルニ至ルマテハ相續人ハ將來ニ於テ相續ヲ爲スナルヘシトノ單純ナル希望ヲ有スルニ過キスシテ所謂相續權ヲ有スルモノニ非ス何人カ果シテ相續人タルヘキカ及其相續人カ果シテ法定ノ資格ヲ有スルヤ否ヤノ問題ハ一ニ相續開始ノ時ニ於テ初メテ決セラルヘキモノナリ其他相續財產又ハ遺留分ノ算定、相續權回復ノ請求權ニ關スル時效ノ起算點ノ如キモ亦此時期ニ於テスルモノナルカ故ニ相續ノ開始時期ハ相續ニ關シ最モ重要ナル基礎ヲ爲スモノナリ

一般權利能力ノ原則トシテ相續開始ノ時ニ現ニ生存セル自然人ハ相續人タル資格即チ相續權享有能力ヲモ有スルコト勿論ナリ民法ハ更ニ此原則ヲ擴張シテ相續權享有能力ヲ胎兒ニ及ホセリ蓋シ胎兒ハ不日出產スルコト明カナルモノニシテ只其母體ヲ離レテ社會ニ現出スルコトカ相續開始ノ時期ヨリ遲レタルノミ

然ルニ之カ爲メニ全然其兒ノ相續ヲ認メサルカ如キハ公益上其當ヲ得タルモノニ非ス是レ相續ニ關シ此例外ヲ認ムル所以ナリ（第九百六十八條、第一照總論第十八章第三節對編）

第二款　家督相續

家督相續ハ左ノ原因ニヨリテ開始ス（第九百六十四條）

一　戸主カ死亡スルカ又ハ隱居スルカ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキ

二　戸主カ婚姻又ハ養子緣組ヲ取消サレタルニヨリテ婚家又ハ養家ヲ去リタルトキ

三　女戸主アル所ニ入夫カ來リテ婚姻ヲナストキ又ハ入夫カ離婚ヲナシタルトキ

家督相續ニ在テハ相續人ハ一人ニ限ル是レ家督相續ハ家長權（戸主權）ヲ相續スルモノナル點ヨリ見テ當然ナリ而シテ相續人ナル資格ヲ有スル者ニシテ法定ノ順位ニ在ル者ハ之ヲ家督相續人ト稱シ家督相續人ハ相續ノ開始ト同時ニ當然ニ家督ヲ相續スヘキモノトス家督相續人タルヘキ者ナルニ拘ラス或場合ニ於テ法律上當然家督相續ヨリ除斥セラルル場合アリ又特定ノ事由アル者ニ對シ請求ニヨリ裁判所ニ於テ相續權ヲ喪失セシムルコトヲ定ムル場合アリ前者ハ不適位ト稱シ後者ハ廢除ト云フ（第九百六十九條、第九百七十五條）

家督相續人ハ之レヲ三種ニ區別スルヲ得曰ク、法定家督相續人曰ク、指定家督相續人曰ク、選定家督相續人是ナリ、法定家督相續人トハ法律ノ規定ニヨリ當然家督相續ヲ爲スヘキ者ヲ云ヒ更ニ之ヲ小別シテ二トス一ハ被相續人ノ直系卑屬ニシテ一ハ其直系尊屬ナリ被相續人ノ直系卑屬間ニ於ケル相續順位ハ最近親族ヲ先ニシ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ年長者ヲ先ニシ年少者ヲ後ニス（第九百七十條）被相續人ノ直系卑屬ニシテ第一順位ニ在ルモノヲ法定ノ推定家督相續人ト云フ法定ノ推定家督相續人ハ相續開始ニ由リ總テノ者ニ優先シテ相續權ヲ有ス被相續人ノ直系尊屬タル法定家督相續人ハ被相續人ノ直系卑屬タル法定家督相續人又ハ指定家督相續人若クハ第一種選定家督相續人無キ場合ニ於テ相續權ヲ有スルモノトス

指定家督相續人トハ被相續人ノ指定ニヨリテ家督相續人トナリタル者ヲ云フ

相續人ノ指定ハ死亡又ハ隱居ニヨル家督相續ノ場合ニノミ爲シ得ルモノトス（第九百七十九條）法定ノ推定家督相續人アル者ハ相續人ヲ指定スルコトヲ得ス法定推定家督相續人ナキトキ相續人ヲ指定シ置キタルモ後ニ至リ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ前ニ爲シタル家督相續人ノ指定ハ其效力ヲ失フ（第九百七十九條）

選定家督相續人トハ被相續人以外ノ特定人即チ被相續人ノ父又ハ母若クハ親族會ノ選定ニヨル家督相續人ナリ更ニ此レヲ小別シテ二種トナス第一種ハ第九百八十二條ニ規定スル所ニシテ法定又ハ指定相續人ナキ場合ニ選定スル者ニシテ其選定ヲナスニハ左ノ順序ニ從フヘキモノトス

第一　家付ノ娘タル配偶者
第二　兄弟
第三　姉妹
第四　第一號ニ該ラサル配偶者
第五　兄弟姉妹ノ直系尊屬

第二種ハ第九百八十五條ニ規定スル所ノ者ニシテ前掲凡テノ家督相續人アラサル場合ニ選定セラルルモノトス入夫婚姻ノ場合ニ於テハ如上ノ相續順位ニ拘ラス入夫ハ當然戶主トナル（第九百七十一條第九百三十六條）

家督相續ハ相續人ヲシテ戶主タル身分ヲ承繼セシメ其結果トシテ前戶主ノ有シタル權利義務ノ內其一身ニ專屬セサルモノ凡テヲ承繼セシムルモノナリ（第九百八十六條）系譜、祭具及ヒ墳墓ハ家督相續ノ特權トシテ必ラス相續セシムヘキモノト（第九百八十七條）

國籍喪失ニヨリ家督相續カ開始シタル場合ニ於テハ家督相續人ハ當然ノ權利トシテ戶主權及家督相續ノ特權ニ屬スル權利（系譜、祭具及墳墓ノ所有權）及法定遺留分ヲ承繼ス日本人タル戶主カ日本人ニ非サレハ有スルコト能ハサル權利ヲ有シタルニ其人カ國籍ヲ喪失シタルトキハ其後一箇年以內ニ右ノ權利ヲ日本人ニ讓渡ササレハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス日本人タル家族カ日本人ニアラサレハ有スルコト能ハサル權利ヲ有シタルニ其人カ國籍ヲ喪失シタルトキハ其後一箇年以內ニ右ノ權利ヲ日本人ニ讓渡ササレハ其權利ハ國庫ニ歸屬ス

第三款　遺産相續

遺産相續開始ノ原因ハ家族ノ死亡ノ場合ニ限ル

家督相續ハ一人主義ナレトモ遺産相續ハ數人相續主義ナリ隨テ遺産相續ニ關シ第一順位ニ在ルモノ數人アルトキハ各自共同シテ相續ヲ爲スヘキモノトス

遺産相續ノ場合ニ於ケル相續人ノ種類及ヒ其相續順位左ノ如シ

一　直系卑屬

二　配偶者

三　直系尊屬

四　戸主

上掲直系卑屬間及ヒ直系尊屬間ニ於テハ最近親ヲ先ニス同一順位ニ在ル相續人數多アルトキハ其各自ノ相續分ハ同一ナレトモ直系卑屬カ數人アルトキハ庶子及私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ半ハトス遺産相續人ニ付テモ亦不適位及廢除ニヨリテ相續ヨリ排斥セラルル場合アリ而シテ其場合ハ家督相續ニ於ケ

ルト大同小異ナリ（第九百九十七條乃至第千條）

遺産相續ハ純然タル財産相續ナリ即チ相續人ハ相續開始ニヨリ被相續人ノ財産ニ屬シタル權利義務ニシテ其一身ニ專屬セサルモノヲ承繼スルモノトス數人カ遺産ヲ相續シタル場合ニ於テハ相續財産ハ其共有ニ屬ス共同相續人ノ凡テハ皆各々相續分ニ應シテ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス（第千一條乃至第千三條）

遺産ノ分割ニ付テハ一般共有物ノ分割ト原則ヲ異ニシ之レヲ以テ附與的行爲トセスシテ認定的行爲トセリ換言セハ遺産ノ分割ハ分割ノ時ヨリ相續人ノ專屬トナリタルモノトセスシテ相續開始ノ時ヨリ各相續人ノ專有タリシモノトスル主義ヲ採レリ（第千十二條）認定主義ハ分割者間ノ圓滑ヲ保ツ點ニ於テ便宜ナルモ之レカ爲メ第三者ヲ害スル惧アリ附與主義ハ第三者ヲ保護スル上ニ於テ間然スル所ナキモ分割者間ニ紛爭ヲ起スノ惧ナシトセス民法カ遺産ノ分割ノ場合ニノミ認定主義ヲ取リタルハ共同遺産相續人ハ各自密接ナル親族關係ヲ有スルモノナレハ其間ノ利害ノ衝突ヲ避ケ相續人相互間ノ感情ヲ害スルカ如キコト無カラシメンカ爲メニ外ナラス

第四款　相續ノ承認及拋棄

嚴正ナル家族制度ノ下ニ於テハ相續ハ公法的事項ニ屬シ各人ノ自由處分ヲ許サス然ルニ個人制度ノ下ニ於テハ相續ハ包括的遺產ノ移轉ニ過キスシテ純然タル私法的事項ニ屬スルヲ以テ之レヲ引受クルト否トハ相續人ノ自由ニ任スルヲ原則ト爲ス

吾國從來ノ相續制ニ於テハ相續人ハ相續開始ト同時ニ必ス相續ヲ爲ササル可ラサルモノトシ相續ノ拋棄ハ決シテ之ヲ許ササリシ而シテ民法ハ家族制度ヲ基礎トシテ相續法ヲ定メタルモ相續ヲ以テ私法的事項ト爲シタル結果相續人ニ相續ヲ引受クルト否トノ自由ヲ與フ

相續ノ承認トハ相續人カ既ニ開始セル相續ヲ確認スル單獨行爲ヲ云ヒ相續ノ拋棄トハ相續人カ既ニ開始セル相續ヲ否認スル單獨行爲ヲ云フ相續ノ承認ヲ分テ單純承認及限定承認ノ二トス前者ハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ繼承スルモノニシテ後者ハ相續ニ因テ得タル積極的財產ノ限度ニ於テノミ被相續人ノ義務

ヲ繼承スルモノヲ云フ相續人ハ相續ノ單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲シ得ルヲ原則トシ只例外トシテ(一)第一種法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス(二)隱居ニ因ル家督相續人ハ限定承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス(第千二百五十條第七條)

承認及ヒ拋棄ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三箇月內ニ爲ササル可ラス相續人カ承認及ヒ拋棄ヲ爲ササル間ハ其固有財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財產ヲ管理スルコトヲ要ス一旦承認又ハ拋棄ヲ爲シタル以上ハ一般取消原因ノ存スル場合ノ外最早之レヲ取消スコトヲ得ス(第千二十二條)一定ノ場合ニ於テハ相續人カ單純承認ヲナシタルモノト看做シ其反證ヲ許サス是レ第千二十四條ニ揭クル場合ニシテ即チ左ノ如シ

一　相續人カ相續財產ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ

二　相續人カ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三箇月內ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ササリシトキ

三　相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財產ノ全部若クハ一部ヲ隱匿シ私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財產目錄中ニ記載セサリシトキ

但其相續人カ抛棄ヲ爲シタルニヨリテ相續人トナリタル者カ承認ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

限定承認ノ場合ニ於テハ相續人ハ相續ニヨリテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキモノナルカ故ニ財産ノ混同ヲ許サス被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セサリシモノト見做スヘク其債務及ヒ遺贈ノ辨濟ニ付テモ法定ノ手續ヲ爲ササル可ラス

抛棄ハ相續開始ノ時ニ溯リテ其效力ヲ生シ抛棄ヲ爲シタル者ハ抛棄ニヨリテ初メヨリ相續人タラサリシト同一ノ效力ヲ生ス

數人ノ遺産相續人アル場合、其一人カ抛棄ヲ爲シタルトキハ其相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ之レニ歸屬スルモノトス

第五款　相續財産ノ分離

財産分離ノ制度ハ相續債權者及ヒ受遺者ト相續人ノ固有ノ債權者トヲシテ相續財産ト相續人ノ固有財産トヲ各別ニシテ各其財産ニ付キ之レヲ目的トセサリシ權利者ニ優先シテ辨濟ヲ受ケシムルノ制度ナリ單純承認ノ場合ニ於テハ相續財産ト相續人ノ固有財産トハ混同シ而シテ相續債權者及ヒ相續人ノ固有ノ債權者ハ此財産ニ付キ共同シテ辨濟ヲ受クルコトトナルカ故ニ被相續人ニ辨濟ノ資力アリタルモ相續人無資力ナリシ場合ニ於テハ相續債權者ハ之レカ爲メ損害ヲ受クルニ至ルヘク之レニ反シ相續財産ヲ以テ相續債權者ニ辨濟スルニ足ラサルトキハ相續人固有ノ債權者ヲ害スルニ至ルヘシ之レヲ以テ相續債權者、受遺者又ハ相續人ノ固有ノ債權者ニ財産分離ノ請求權ヲ與ヘ以テ相續開始ニヨリテ生スル不時ノ損害ヲ免レシメンコトヲ期セリ多數ノ立法例ニ於テハ相續人ノ固有ノ債權者ニ財産分離請求權ヲ與ヘサルヲ常トス然レトモ相續債權者及ヒ相續人ノ固有ノ債權者モ共ニ之ヲ保護セサルヘカラサルカ故ニ民法ハ相續人ノ固有ノ債權者ニ對シテモ均シク分離請求權ヲ與ヘタリ限定承認ノ場合ニ於テハ相續人ハ相續ニヨリテ得タル限度ニ於テノミ相續債權者等ニ辨濟ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ財産分離ノ要ナキカ如キモ元來財産分離ハ債權者保護ノ目的ニ出テ限定承認ハ相續人保護ノ目的ニ出ツルモノニシテ二者其效果ヲ異ニシ或場合ニ於テハ

限定承認ノ效力消滅シテ單純承認ト看做サルルコトアルカ故ニ限定承認ノ場合ト雖モ財産分離ノ要アルモノトス

財産分離ノ手續ニ關シテハ第千四十二條以下ヲ見ルヘシ

第六款　相續人ノ曠缺

相續開始ノ時ニ方リテ相續人アルコト分明ナラサルトキ永ク其財産ヲ放擲シ置クハ公私經濟上當ヲ得タルモノニ非ス故ニ此場合ニ於テ其相續人ノ分明ナルニ至ルカ又ハ相續人ナキコト分明ナルニ至ルマテ相續財産ヲ法人トシ管理人ヲ設ケテ相續財産ヲ處理セシム而シテ後日相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存在セサリシモノト看做サルルモノトス但シ管理人カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ之レカ爲メニ其效力ヲ失フコトナシ管理人カ相續人ノ現出ヲ促カス爲メ法令ノ定メタル手續ヲ履ミタル後尚ホ相續人タル權利ヲ主張スル者無キトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬ス（第千五十一條乃至第千五十九條）

第七款　遺言

遺言トハ人カ其死後ニ於テ效力ヲ生セシムル目的ヲ以テ生前ニ爲ス所ノ要式行爲ナリ法律カ遺言ヲ以テ要式行爲ト爲シタル所以ノモノ（第千六十條）ハ遺言ハ遺言者ノ死後ニ效力ヲ生スルモノニシテ而カモ死後之レヲ改竄スルニ由ナキカ故ニ生前ニ於ケル意思表示ヲ確實ナラシメンカ爲メニ外ナラス（第千六十條）

遺言能力ニ付テハ一般能力ニ關スル規定ヲ適用セス苟モ意思能力ヲ有シ滿十五年ニ達シタル者ハ何人ト雖モ遺言ヲ爲スコトヲ得ヘシ遺言能力ハ其遺言ヲ爲ス時ニ於テ存スルヲ要スルコト勿論ナリ（第千六十一條乃至第千六十三條）

被後見人ハ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益トナルヘキ遺言ヲ爲スコトヲ得ス是レ後見人ノ威力ニ壓セラレ意思ニ反スル遺言ヲ爲スノ惧アルカ故ナリ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニ於テハ前述ノ惧ナキカ故ニ右ノ制限ニ隨フヲ要セス（第千六十六條）

遺言者ハ遺留分ニ關スル規定ニ反セサル限度ニ於テ包括又ハ特定ノ名義ヲ以

テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得包括受遺者ハ遺産相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス胎兒モ亦受遺者タルコトヲ得不適位者ハ受遺者ト爲ルコトヲ得ス（第千六十四條第千六十五條第千九十二條）

遺言ノ方式ニ普通方式、特別方式ノ二アリ普通方式ハ普通ノ場合ニ準據スヘキ方式ニシテ自筆證書、公正證書、祕密證書ノ三者中一ニ依ルヘキモノトス自筆證書ニヨル遺言ハ遺言者カ遺言ノ全文、日附及氏名ヲ自書シテ爲ス所ノモノナリ公正證書ニヨル遺言ハ證人ノ立會ニヨリテ公證人ニ作成セシムルモノニシテ祕密證書ニヨル遺言ハ遺言書ヲ封シ公證人ノ前ニ封書ヲ提出シテ之レヲ爲スモノナリ（第千六十八條乃至第千七十條）

特別方式ハ特別ノ事情ノ存スル場合ニ於テ特別ノ人ノミカ準據スルヲ得ル所ノモノニシテ其場合ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　死亡ノ危急ニ迫リタル者ノ遺言

二　傳染病ノ爲メ交通遮斷ノ場所ニ在ル者ノ遺言

三　從軍中ノ軍人、軍屬ノ遺言

四　艦船中ニ在ル者ノ遺言

特別方式ニヨリテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六ケ月間生存スルトキハ無效トナル

遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ爲スコトヲ得ス遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス遺言ニヨリ遺贈ヲ受ケタル者ハ之レカ承認又ハ拋棄ヲ爲スノ權利アリ（第千八十八條）遺言ニ別段ノ意思表示ナキ場合ニ於テハ遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス（第千八十七條第千八十八條第千九十六條）

遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ受遺者カ遺贈ヲ拋棄シタル場合ニ於テハ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス負擔付遺贈ヲ受ケタル者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得

遺贈ノ目的ハ原則トシテ遺言者ノ死亡ノ時ニ於ケル現狀ヲ以テ引渡サルヘキモノナリ（第千百四條第千九十四條第千百一條第千百三條）

相續人ハ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルモノナルカ故ニ遺言ヲ執行スルコトモ亦其任務ナリト謂ハサル可カラス然レトモ遺言ハ多クノ場合ニ於テ相續人ノ

利益ニ反スルカ故ニ相續人ニ之レカ執行ヲ爲サシムルハ危險ナリト云フヘシ是レ遺言者ヲシテ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得セシムル所以ナリ故ニ相續人ハ遺言執行者ナキ場合ニ於テノミ遺言執行ノ任ニ當ルヘキモノナリ遺言ノ執行ニ關シテハ第千百六條以下第千百二十三條ニ規定セリ

遺言ハ遺言者ノ死亡ニヨリテ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ遺言者ハ其死亡ニ至ル迄ハ何時ニテモ遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得ヘシ遺言ノ取消ハ遺言ノ方式ニ從フテ爲スコトヲ要ス（第千百二十四條）

左ノ場合ニ於テハ遺言ハ默示ニテ取消サレタルモノト看做サル

一　前ノ遺言ト後ノ遺言ト牴觸スルトキハ其牴觸スル部分ニ付テ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス（第千百二十五條）

二　遺言カ遺言後ノ生前行爲ト牴觸スル場合ニ在リテ其牴觸スル部分ニ於テ遺言ハ取消サレタルモノト看做ス（第千百二十五條）

三　遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス（第千百二十六條）

四　遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦（三）ノ場合ニ同シ（第千百二十六條）

第八款　遺留分

遺留分トハ相續財産ノ一部ニシテ被相續人ノ自由ニ之ヲ處分スルコトヲ許サスシテ必ラス被相續人ニ遺留セサル可ラサルモノヲ云フ

遺留分制度ノ基礎如何ニ付テハ學者間說ヲ異ニス吾民法ハ從來ノ慣習ト公益上ノ必要トニ鑑ミ此制度ヲ設ケタル者ナリ法定ノ家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受クヘク其他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受クヘク遺産相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ケ遺産相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク（第千百三十一條）

遺産相續人數人アル場合ハ右ノ割合ニヨリテ受クヘキ部分ヲ各自ニ分割スヘキモノナリ而シテ其嫡出子ト庶子又ハ私生子トノ間ニ於テハ二ト一ノ比例ヲ以

テ分ツヘキモノタルコト遺留分ニ關シ第千四條ヲ準用スルニヨリテ知ルヘシ（第千四百六十條）

遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價格ニ相續開始前一年間ニ爲シタル贈與財産ノ價格ヲ加ヘ其内ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之レヲ算定ス家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價格ヲ算入セス（第千百三十二條）遺留分ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者及其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ相續開始前一年間ニ爲シタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得（第千百三十二條第千百三十四條）減殺ノ手續ニ付テハ第千百三十五條以下ヲ見ルヘシ

第六章　商法

商法ヲ廣義ニ定義スルトキハ商ニ關スル法規ノ全體ナリト云フコトヲ得ヘシ此意義ニ於テ商法ハ國際的商法、公法的商法、私法的商法ノ總テヲ含ム以下論スル所ノモノハ上ニ所謂私法的商法ニ屬シ特ニ我國ニ於テ商法ト名ケテ發布セラレタル法典ノ範圍ニ限ルモノトス商法ハ商ニ關スル私法的法規ナリ私法的法規即チ私法ノ何タルカハ已ニ説明セリ商ノ何タルカハ學説一定セス左ニ尤モ至當ト信スル定義ヲ掲ク

商トハ貨物ノ轉換ヲ媒介スル營利行爲ノ全體ナリ

我カ商法ハ第一編總則、第二編會社、第三編商行爲、第四編手形、第五編海商ノ編別ニ依ル

第一節　總則

第一款　法例

商ノ法源ハ商事成文法、商事慣習法及民法ナリ而シテ其適用ノ順序ハ第一ニ商事成文法ニ依ルヘク商事成文法ノ規定無キ場合ニ商慣習法ニ依ルヘク商慣習法モ無キ場合ニ民法ノ適用ヲ受クヘキモノトス（第一條）商ニ關スル法律行爲ヲ商行爲ト云フ商行爲ニ付テハ後ニ説明スル所アリ公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ別段ノ定メナキ限リニ於テ商法ノ規定ヲ適用スヘキモノトス（第二條）法律行爲ニ相手方アル場合ニ於テ其行爲ハ當事者ノ一方ニ對シテノミ商行爲タル場合アリ之ヲ一方的商行爲ト云フ一方的商行爲ニ付テハ商法ノ規定ヲ雙方ニ適用スヘキモノトス（第三條）

第二款　商人

商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ云フ營業トハ收益ノ定マリタル源泉トスル意思ヲ以テ繼續シテ同種ノ商行爲ヲ爲スヲ云フ自己ノ名ヲ以テスルトハ行爲ニ關スル法律上ノ效果カ其人ニ及フコトヲ云フ

未成年者又ハ妻ハ法定代理人又ハ夫ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ム場合アリ（民法第六條）

（第十五條）又後見人カ被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ム場合アリ此等ノ場合ニ於テハ之カ登記ヲ爲スコトヲ必要トス

第三款　登記

商法上登記スヘキ事項ハ法典ノ各所ニ規定セラル

元來民法上ノ登記ハ之ニ依リテ第三者ノ善意タルト惡意タルトヲ問ハス絶對ニ之ニ對抗スルコトヲ得ルモノナリ之ニ反シテ商法上ノ登記ハ全ク其原則ヲ異ニシ單ニ登記事項ノ認知ヲ推定スルニ過キス即チ既ニ登記アリ又之ヲ公告シタル後ト雖モ第三者カ正當ノ事由ニヨリテ之ヲ知ラサリシトキハ之ニ對シテ登記事項ヲ主張スルコトヲ得ス（第十二條）但會社設立ノ登記ノミハ本店所在地ニ於テ登記ヲ爲スニヨリテ絶對ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ（第四十五條）

登記ト其公告トカ牴觸スル場合ニ於テモ登記ニ效力ヲ保持セシメ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシム（第十四條）

第四款　商號

商號ハ商人カ商業ヲ營ムニ當リテ自己ヲ表示スル爲メニ用フル名稱ナリ一旦世上ニ信用ヲ得タル名稱ハ永ク之ヲ續用スルコト營業上便宜ナルカ故ニ營業上特別ノ名稱ヲ用フルコトヲ認メ營業主ノ交替スルコトアルモ永ク其名稱ヲ用フルヲ得セシム是レ商號ナル制度ノ認メラルル所以ナリ

會社ハ設立前ヨリ名稱ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ設立ト同時ニ其名稱ヲ定ムルコトヲ要スルハ勿論ナリ我商法ハ商號自由ノ主義ヲ採リ商人ハ如何ナル名稱ヲ以テモ自己ノ商號ト爲スコトヲ得セシム但會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要シ（第十七條）會社ニ非サル商人ハ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス（第十八條）商號ハ一旦之ヲ登記シタルトキハ爾後同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メ他人ヲシテ同一又ハ類似ノ商號ヲ用フルコトヲ得サラシムルノ效力ヲ生ス之レヲ商號專用權ト云フ商號ハ之レヲ他ニ讓渡スコトヲ得蓋シ信用アル商號ハ商

業上大ナル價値アルモノニシテ實際ニ於テ此カ讓渡ヲ爲スコト屢々行ハルル所タリ（第十九條第二十一條第二十二條）

第五款　商業帳簿

商業帳簿ハ商人カ其商業上ノ計算ヲ記載スル所ノ帳簿ナリ商人ハ必ス商業帳簿ヲ備付クルノ義務アリ（小商人ヲ除ク第七條）蓋シ商業ノ確實ヲ保シ取引ノ安全ヲ計ル上ニ於テ商人ニ此義務ヲ認ムルハ最モ必要ナレハナリ商人ノ一般義務ニ屬スル帳簿ハ日記帳、財産目錄、貸借對照表ノ三個ナリ

第六款　商業使用人

商業使用人ニ支配人、番頭、手代及其以外ノ使用人アリ

支配人ハ代理權ノ最モ廣汎ナルモノニシテ主人ニ代リテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス隨テ支配人ノ選任及其代理權ノ消滅アリタル場合ニハ必ス登記ヲ必要トシ又支配人ハ營業ヲ爲スコトヲ禁止セラ

ルルノ義務ヲ負フ（第三十條第三十一條第三十二條）

番頭、手代ハ主人ヨリ委任サレタル營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ニ關シテノミ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス其他ノ使用人ハ原則トシテ主人ニ代リテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セス要スルニ主人ト支配人及番頭、手代トノ間ノ法律關係ハ委任及雇傭ニ屬シ主人ト其他ノ使用人トハ單ニ雇傭關係ニ立ツモノト見テ可ナリ（第三十三條第三十四條）

第七款　代理商

代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ云フ代理商ハ自己ノ營業所ニ於テ業務ヲ執行スルコト且營業上ノ費用ハ自ラ負擔スルモノナルコトノ二點ニ付テ商業使用人ト相異ナリ而シテ代理商ト本人トノ關係ハ全ク委任關係ニシテ雇傭關係ヲ交ユルコトナシ代理商ハ競業ヲ爲スコトヲ禁止セラルルノ義務ヲ負フ（第三十八條）競業禁止ト營業禁止ト異ナル所ハ營業禁止ハ凡テ營業ノ如何ヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ禁セラルルモノナルモ競業禁止ハ本人ノ營業部類ニ屬スルモノニ限リ之ヲ禁セラルルノ點ニ在リ

第二節　會社

會社ハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ナリ會社ヲ實質上ヨリ觀察スルトキハ多數ノ財産ヲ集合シ以テ共同事業ヲ營ムヲ目的トスルモノニシテ此意味ニ於テ民法上ノ組合ト設立ノ基礎ヲ同フス而モ會社ハ凡テ法人ニシテ組合ハ否ラス隨テ兩者其法律上ノ性質ヲ異ニス（第四十條）

前述セル如ク我商法ノ所謂會社ニ合名會社、合資會社、株式會社、株式合資會社ノ四種アリ會社ノ設立ニ關シテハ法律ハ自由設立主義ヲ採リ苟モ法律ニ違反セサル限リハ特ニ官廳ノ許可等ヲ受クルノ要ナク自由ニ之ヲ設立スルコトヲ得會社ノ設立要件ハ會社ノ種類ニヨリテ異ナル而シテ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ何レノ種類ノ會社ニ在リテモ登記ヲ爲ササル可ラス會社ハ設立、登記後ニ非サレハ開業ノ準備ニ着手スルコトヲ得ス（第四十六條）

第一款　合名會社

合名會社ハ無限責任社員ノミヲ以テ組織スル會社ナリ即チ合名會社ノ社員ハ會社債務ニ付キ第三者ニ對シテ無限ニ責任ヲ負フモノトス

合名會社ハ定款ノ作成ニヨリテ成立ス定款ニハ必ラス一定ノ事項ヲ記載セサル可ラス合名會社ハ社員及社員ノ出資ニ成ル所ノ資本ヲ基礎トス（第四十九條第五十條）

合名會社ノ社員タル資格ヲ取得スル原因ニハ左ノ三個ノ場合アリ

一　會社ノ設立者トナルコト即チ會社設立ノ際定款ニ署名スルコト

二　會社設立後入社スルコト

三　社員ノ持分ヲ讓受クルコト

社員ハ總テ必ス出資ヲ爲スノ義務アリ而シテ其出資ノ目的ト爲シ得ルモノハ財產、勞務及信用ノ三トス

社員ハ競業禁止ノ義務ヲ負フ（第六十條）社員ハ會社財產ノ分配ヲ受クル權利アリ此權利ハ分テ(一)利益ノ配當ヲ受クル權利(二)持分ノ拂渡ヲ受クル權利(三)殘金財產ノ

分配ヲ受クル權利ノ三ト爲スコトヲ得ヘシ各社員ハ定款ニ別段ノ定メナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ（第五十六條）定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メサルトキハ各社員會社ヲ代表スル權限ヲ有スルモノトス（第六十一條）會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上及ヒ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

會社ハ代表社員カ其職務ヲ行フコトニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス會社ハ法人トシテ一個ノ人格ヲ有スルカ故ニ會社ノ權利義務ハ社員ノ權利義務ト全ク別物ナリ然ルニ會社財產ヲ以テ會社債務ヲ完濟スルコト能ハサトキハ各社員連帶シテ辨濟ノ責ニ任スヘキモノトスルコト法文ノ定ムル所ナリ蓋シ合名會社ハ社員ノ人的信用ヲ基礎トシテ設立セラレタルモノナレハ債務者ヲ保護センカ爲メニ此ノ如キ規定ヲ設クルノ必要アレハナリ（第六十二條第六十三條）

社員ハ(一)會社解散ノ場合(二)持分全部ノ讓渡(三)退社ノ何レカニヨリテ其資格ヲ喪失ス（第六十八條乃至第七十三條）

會社ノ資本ハ各社員ノ出資ノ價格ノ總計ナリ會社ノ資本ト會社ノ財產トハ之

ヲ同一視スヘカラス資本ハ抽象的ノモノニシテ一ノ思想上ノ計算ナリ隨テ資本ハ定款變更ノ手續ニヨリテ之ヲ增減スル場合ノ外常ニ一定セルモノナリ之ニ反シテ會社財產ハ具體的ノモノニシテ會社ノ損益若クハ物價ノ高低ニ伴ヒ變動スルモノナリ

合名會社ハ社員ノ意思ニヨリ又ハ法定原因ノ發生ニヨリテ解散ス（第七十條四）會社カ合併又ハ破產以外ノ原因ニヨリテ解散シ而カモ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財產ノ處分方法ヲ定メサルトキハ清算ヲ爲ササル可カラス會社ハ解散後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙存續スルモノト看做サル（第八十條四）清算手續ニ關シテハ第八十四條乃至第百三條ニ規定スル所ヲ見ルヘシ

第二款　合資會社

合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ組織スル會社ナリ無限責任社員ノ何タルカハ前款已ニ說明セル所ナリ有限責任社員トハ自己ノ出資ヲ限度トシテ責任ヲ負ヒ其他ニ何等ノ責任ヲ負ハサル社員ヲ云フ合資會社ノ無限責任社員カ會社並ニ第三者ニ對スル關係ハ合名會社社員ノ地位ト殆ト同一ナルカ故ニ商法ハ合資會社ニ付キ別段ノ定メアル場合ノ外合名會社ニ關スル規定ヲ準用スル旨ヲ定ム隨テ合資會社ニ關スル特別規定ハ殆ト有限責任社員ニ關スルモノナリ（第百五條）

有限責任社員ハ金錢其他ノ財產ノミヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得（第百八條）有限責任社員ハ業務ヲ執行シ及ヒ會社ヲ代表スルノ權限ヲ有セス（第百十五條）同時ニ競業禁止ノ制限ヲ受クルコトナク會社業務ヲ監督スルノ權利アリ

合資會社ニ特別ナル解散原因二アリ（一）無限責任社員全員ノ退社（二）有限責任社員全員ノ退社是ナリ而シテ後ノ場合ニ於テハ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス（第百十八條）

第三款　株式會社

株式會社ハ資本ヲ株式ニ分割シ社員ハ其有スル株式ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スル會社ナリ株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス發起

人カ定款ヲ作成シ且株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニヨリテ成立ス之ヲ同時設立ト云フ之ニ反シテ發起人カ株式總數ヲ引受ケサルトキハ更ニ株式ノ募集ヲ爲ササル可ラス之ニ依リテ株式全部ノ引受アリタルトキハ發起人ハ引受人ニ第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後創立總會ノ終了ニヨリテ成立スルモノトス之ヲ漸次設立ト云フ（第百十九條第百二十條第百二十三條第百三十九條）

株主ハ會社ニ對シ株金拂込ノ義務アリ株金ノ拂込ハ即チ出資ニ外ナラス株主ノ差入レタル出資即會社ノ資本總額ヲ一定ノ單位ニ分チタルモノ之ヲ株式ト稱ス株主ハ出資ノ額ニ應シテ株式ヲ取得ス是レ株主ナル名稱ノ由テ起ル所以ナリ

會社ハ時トシテ資本ヲ增減スルノ必要アリ此場合ニ於テ資本ノ增加ハ新株ノ發行ニ依テ爲ササル可ラス株式金額ノ增加ニヨル資本增加ハ吾法律ノ認メサル所トス（多數ノ學說モ亦然リ）資本ノ減少ハ株式ノ消却ニヨルノ外法律ノ規定ニ牴觸セサル範圍ニ於テ株式金額ヲ減少シテ之ヲ爲スコトヲ得會社ハ株主ニ對シ株券ヲ發行シ之ヲ交付スルノ義務アリ株券ノ發行ハ株式ノ讓渡ヲ容易ナラシムル便宜ニ出テタルモノニシテ併セテ株主ノ權利ヲ表彰スル所ノ一種ノ證券ナリ而シテ株券ニハ法定ノ事項及番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス株券ニハ記名式ノモノト無記名式ノモノトアリ（第百四十八條）

株式會社ノ必要機關ハ株主總會、取締役及監査役ノ三者ナリ株主總會ハ會社ノ意思機關ニシテ他ノ機關ノ上ニ立チテ會社ノ重要ナル總般ノ事務ヲ決定ス株主總會ニ定時總會臨時總會ノ二アリ定時總會ハ定款又ハ法律ノ規定ニヨリ毎年一定ノ時期ニ於テ必ス招集セサル可カラサルモノニシテ臨時總會ハ必要ノ場合ニ臨時招集スルモノヲ云フ株主總會ハ原則トシテ取締役之ヲ招集ス但或場合ニ監査役若クハ一定ノ株主モ亦臨時總會ヲ招集スルコトヲ得（第百八十二條第百六十條第二項）各株主ハ原則トシテ一株ニ付キ一個ノ議決權ヲ有ス（第百六十二條）總會ノ決議ハ定款又ハ法律ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外出席株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

取締役ハ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル所ノ會社ノ機關ナリ取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス其員數ハ三人以上タルコトヲ要シ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス取締役ハ各自會社ヲ代表ス又競業禁止ノ義務ヲ負フ尙ホ原則トシテ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得ス（第百七十五條第百七十六條）

監査役ハ會社財産ノ管理及業務執行ニ付キ取締役ヲ監督スル常設機關ナリ監査役モ亦株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任セラルルモノニシテ任期ハ一年ナリ監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得ス（第百八十四條）

會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立テサル可ラス額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ資本四分ノ一ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ルコトヲ要ス又會社ハ損失ヲ塡補シ且準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス但シ事業ノ性質上設立登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ定款ヲ以テ開業ニ至ルマテ法定利率ヲ超ヘサル範圍ニ於テ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得（第百九十四條乃至第百九十六條）

株式會社モ亦或場合ニ於テハ負債ヲ起ス必要ヲ生スルコト一個人ト同シ而シテ會社ノ要スル借債金額ハ頗ル大ナルヲ普通トスルカ故ニ法定ノ手續ニ依リ廣ク公衆ニ募ルヲ一般トス之ヲ社債ノ募集ト云フ隨テ社債ハ純然タル會社ノ債務ニシテ決シテ資本ヲ增加スルモノニ非ス社債ヲ募集シタルトキハ會社ハ債權者ニ對シ債券ヲ發行交付スルコトヲ要ス（第二百五條）債券ニモ亦一定ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得定款變更ノ決議ハ鄭重ノ手續ヲ要シ普通ノ決議方法ニ依ルヲ許サス即チ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決セサル可ラス（第二百九條第一項）然レトモ時トシテハ如上員數ノ株主ノ出席ヲ得サルコトアリ斯カル場合ニ於テ絶對ニ定款ノ變更ヲ爲シ得サルモノトスルハ會社ノ不便鮮少ナラス是ヲ以テ法律ハ此場合ニ關シ特別ノ方法ヲ以テ確定決議ヲ爲スコトヲ得セシム（第二百九條第二項）上述定款變更ノ通則ニ對シテ二個ノ例外アリ一ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニシテ一ハ會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ決議カ優先株主ニ利害ヲ及ホスヘキ場合是ナリ會社ノ目的タル事業ハ會社ノ生命ナリ之カ變更ハ總社員ノ同意ニ由ラサルヘカラス定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ホスヘキトキハ又優先株主保護ノ必要アリ即チ此場合ハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要スルモノトス（第二百十二條）

定款ノ變更ハ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス會社資本ノ增減ハ定款變更ノ最モ重要ナルモノナリ法律ハ之ニ關シ特別ナル規定ヲ設ク(第二百十條以下)會社ハ資本ヲ增加スル場合ニ限リ優先株ヲ發行スルコトヲ得優先株ハ其株式所有者ニ對シ普通株主ノ有スル以外ニ特別ノ利益ヲ與フルモノニシテ其方法種々アリ

株式會社モ亦一定ノ原因ニヨリテ解散ス而シテ會社カ解散スルトキハ合併及ヒ破產ノ場合ノ外清算ヲ爲ササル可ラサルコト合名會社ノ場合ト同シ

第四款　株式合資會社

株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヨリ組織スル商事會社ナリ即チ合資會社ノ一種タルト同時ニ又株式會社ニ酷似スルモノナリ商法ハ株式合資會社ニ付テハ其無限責任社員ニ關スルモノハ合資會社ノ規定ヲ準用シ其他別段ノ定メアル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用スル旨ヲ定ム(第二百三十六條)

無限責任社員ハ發起人トナリテ定款ヲ作リ且株主ヲ募集セサル可ラス會社ハ總株式ノ引受アリテ後創立總會ノ終了ニヨリテ設立ヲ了ルモノトス無限責任社員ハ創立總會及株主總會ニ出席シテ其意見ヲ述ルコトヲ得ルモ自ラ株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハハルコトヲ得ス株式合資會社ニアリテハ無限責任社員カ其業務ヲ執行シ且會社ヲ代表スルカ故ニ取締役選任ノ必要ナシ

株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ト株主總會トハ相對立スルモノニシテ業務執行ノ任ニアル無限責任社員ハ株主總會ノ決議ニ羈束セラルルコトナク合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス(第二百四十四條)無限責任社員ト株主總會トノ關係如此ナルカ故ニ一方ニ於テ監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責任ヲ有スルモノト定メラル(第二百四十五條)無限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ會社ハ之ニヨリテ解散セサル可ラス而モ法律ハ便宜上殘餘ノ株主ニ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ許セリ(第二百四十條)

第五款　外國會社

外國會社ニシテ我國ニ營業所ヲ設クルコトナク單ニ我國ニ於テ取引ヲ爲スノミニ止マル場合ハ之ニ對シ嚴格ノ法則ヲ定ムルヲ得ス然レトモ其我國ニ本店又ハ支店ヲ設ケテ營業スル外國會社ニ對シテハ之ヲシテ充分ナル監督ノ下ニ立タシメサル可ラス商法ハ外國會社ニシテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ我國法ニ從ヒ登記及公告ヲ爲サシメ其登記ヲ爲ス迄ハ第三者ヲシテ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得セシム（第二百五十七條）

我國ニ本店ヲ設ケ又ハ我國ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ外國ニ於テ設立シタルモノト雖モ全然我國ニ於テ設立セラレタル會社ト同一ノ規定ニ從ハサル可ラス而シテ其外國ニ於テ爲シタル手續如何ノ如キハ毫モ之ヲ問ハス

我國ニ支店ヲ設ケタル外國會社ノ代表者カ會社業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

第三節　商行爲

第一款　總則

商行爲ニ關スル規定ハ商法全體ノ基礎ニシテ商法中最モ重要ナルモノナリ商行爲トハ商ニ關スル法律行爲ナルコトハ先ニ述ヘタリ其如何ナル行爲カ商ニ關スル法律行爲タルカ商法ハ之ニ關シ概括的ノ規定ヲ設ケス所謂列擧主義ニ法リ其商行爲タルヘキ行爲ヲ列擧セリ商法カ規定スル所ノ商行爲ニ客觀的商行爲ト主觀的商行爲トノ二種アリ客觀的商行爲ハ其何人ノ行爲タルヲ問ハス行爲ノ本質上商行爲タルモノニシテ主觀的商行爲ハ商人カ營業トシテ之ヲ爲スニヨリ商行爲タルモノナリ

所謂客觀的商行爲ニ屬スルモノ左ノ如シ（第二百六十三條）

一　利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動產、不動產若クハ有價證券ノ有償取得及ヒ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲

二　他人ヨリ取得スヘキ動產又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニス

ル有償取得ヲ目的トスル行爲

三　取引所ニ於テスル取引

四　手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

主觀的商行爲ニ屬スルモノハ左ノ如シ（第二百六十四條）

一　賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有償取得若クハ賃借及ヒ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲

二　他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲

三　電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲

四　運送ニ關スル行爲

五　作業又ハ勞務ノ請負

六　出版印刷又ハ撮影ニ關スル行爲

七　客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

八　兩替其他ノ銀行取引

九　保險

十　寄託ノ引受

十一　仲立又ハ取引ニ關スル行爲

十二　商行爲ノ代理ノ引受

上述客觀的及主觀的商行爲ヲ一ニ基本的商行爲ト云フ基本的商行爲ニ對シ附屬的商行爲アリ附屬的商行爲トハ商人カ其營業ノ爲ニスル行爲ナリ（第二百六十五條第一項）右ノ外推定的商行爲ト稱セラルルモノアリ商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定スル規定（第二百六十五條第二項）ニ出ツ但シ所謂推定的商行爲ト雖モ其本質ハ附屬的商行爲ニ外ナラサルナリ

抑モ商事ハ信用ト敏活トヲ重セサル可ラサル點ヨリ商行爲ニ關シテモ一般民法ノ規定ニ對シ特別ノ規定ヲ要スルモノ少カラス是レ蓋シ代理ニ關シ（第二百六十六條乃至第二百六十八條）契約ノ成立ニ關シ（第二百六十九條乃至第二百七十二條）多數當事者ノ債務ニ關シ（第二百七十三條）法定利率ニ關シ（第二百七十四條）債務ノ履行ニ關シ（第二百七十五條）質權ニ關シ（第二百七十八條乃至第二百八十三條）留置權ニ關シ（第二百七十七條）時效ニ關シ（第二百八十四條）各特別ノ規定アル所以ナリ

第二款　賣買

商法ハ又賣買ニ關シ特別ノ規定ヲ爲ス元來賣買ハ商行爲中最モ重要ナルモノニシテ古代ニ於テハ商行爲即チ賣買ナルカノ如キ觀念ノ行ハレタル時代サヘアリ勿論賣買ハ獨リ商事ニノミ止マラサルカ故ニ現時立法ノ趨勢ハ民法中ニ賣買ニ關スル詳細ナル規定ヲ設ケ商法ニ於テハ行爲ノ簡易ト敏活トヲ主トスル點ヨリ二三特別規定ヲ爲スニ止マルニ至レリ商法賣買ノ章下ニ規定スル所ハ(一)商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ノ賣主ノ處分法(二)所謂際物賣買ノ不履行ノ場合ニ於ケル解除權(三)商人間ノ賣買ニ於ケル物品檢査義務(四)買主ノ物品保管義務等ニ關ス(第二百八十六條乃至第二百九十條)是ナリ

第三款　交互計算

交互計算トハ商人間又ハ商人ト非商人トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間內ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルヲ云フ

交互計算ニ組入レラレタル各個ノ債權債務ハ期間內ニ於テ履行ヲ請求スルコトヲ得サルハ勿論之ニ對シテ時效ノ進行スルコトナシ期間後ト雖モ總額ニ付キ相殺シ其殘額ノミヲ支拂フモノニシテ各個別々ニ請求スルコトヲ得ス或ハ交互計算組入ニヨリテ各個ノ債權債務ハ更改スルモノナリト論スル學說立法例アリト雖モ更改ナシトスル說ヲ正當トセン當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ殘額ハ確定シ錯誤又ハ脫漏アリタルトキノ外最早各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス相殺殘額ノ支拂義務ニ付テモ又更改說非更改說ニ岐ル我商法ハ更改說ニヨリタルモノト解スルヲ正當トス交互計算ハ當事者相互ノ信用ニヨリテ成立スルモノナルカ故ニ其當然ノ結果トシテ相手方カ信用ヲ失墜シタルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得セシメサル可カラス是レ各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メタル所以ナリ(第二百九十六條)

第四款　匿名組合

匿名組合トハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ相手方カ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スル契約ヲ云フ匿名組合ハ合資會社ト其沿革及經濟上ノ基礎ヲ同フスト雖モ其法律上ノ性質ニ至リテハ全ク別物ナリ匿名組合ハ組合契約ノ一種ニシテ且諾成契約タリ出資ヲ供スル者ヲ匿名組合員ト云フ匿名組合員タルニハ商人タルト否トヲ問ハス又能力者タルト否トヲ問ハサルノミナラス法人ト雖モ匿名組合員タルコトヲ得ヘシ數人カ各別ニ匿名組合員タル場合ニハ出資者ト營業者トノ間ニ數個ノ獨立ナル匿名組合成立スルモノニシテ出資者相互間ニハ何等ノ關係アルコトナシ

匿名組合員ノ相手方タル出資ヲ受クル者ヲ營業者ト云フ營業者ハ商人タルコトヲ要ス營業者ハ獨立シテ其營業ノ主人タルモノニシテ匿名組合ニヨリ組合ノ營業ヲ生スルニ非ス

匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財產ニ歸シ組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者

ニ對シ權利義務ヲ有セス但例外トシテ第二百九十九條ノ場合ニ限リ責任ヲ負フモノトス營業者ハ組合員カ供シタル出資ヲ契約ニ依リ定メタル目的ニ使用スルノ義務ヲ負フ匿名組合員ハ營業ニ參與シ又ハ其業務ヲ執行スル權利義務ヲ有セス唯一ノ監督權アルノミ匿名組合ノ特別終了原因及契約終了後ニ於ケル出資處分ニ付テハ第三百一條第三百三條ノ規定ヲ見ルヘシ

第五款　仲立營業

仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ云フ商行爲ニ非サル行爲ノ媒介ハ仲立ニ非ス仲立人ハ商行爲ノ媒介ヲ爲ス者ニシテ自ラ契約ヲ締結スル者ニ非ス（此點ニ於テ仲立ハ問屋代理商ト異ナル）隨テ仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キテ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クル權限ヲ有セサルヲ原則トス

商法ハ仲立人ノ義務トシテ見本保存ノ義務、結約書作成交付ノ義務、日記簿ノ謄本ヲ交付スル義務、匿名當事者ニ代リテ履行ヲ爲ス義務ノ四ヲ認ム仲立人ハ報酬請求權ヲ有ス元來仲立人ハ商行爲ノ當事者雙方ニ對シテ義務ヲ負フモノナルカ

故ニ其報酬モ亦當事者雙方平分シテ之ヲ負擔スルモノトス（第三百六條乃至第三百十一條）

第六款　問屋營業

問屋ハ次款ニ說ク所ノ運送取扱ト共ニ主觀的商行爲中取次ニ關スル行爲ニ屬ス而シテ問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ云フ問屋ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ行爲ヲ爲スモノナルカ故ニ其行爲ニ由リテ相手方ニ對シ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フモノナリ他人ノ爲メニスルトハ他人ノ計算ニ於テスルコト換言セハ其行爲ヨリ生スル損益共ニ他人ニ歸セシムルヲ云フ問屋ノ目的タル販賣買入行爲ハ必スシモ商行爲タルコトヲ必要トセス問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フモノニシテ委託者ハ問屋ノ相手方ニ對シテハ何等ノ權利義務ヲ有スルコトナシ問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサルトキハ自ラ其履行ヲ爲スノ責ニ任ス（第三百十五條）問屋ハ自己ノ名ヲ以テ第三者ヲ相手方トシテ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ原則トス然レトモ一定ノ條件

ヲ具フルトキハ問屋ハ自ラ買主又ハ賣主トナリテ委託者ト直接取引ヲ爲スコトヲ得（第三百十七條）之ヲ問屋ノ進入又ハ介入ト云フ

自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ準問屋ト稱ス準問屋ニ付テハ問屋ニ關スル規定ヲ準用ス

第七款　運送取扱營業

運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者ヲ云フ運送取扱人ト問屋トハ只其取次ヲ爲ス行爲ノ異ナルノミニシテ其法律上ノ性質ヲ同フス故ヲ以テ別段ノ定メアル場合ノ外ハ問屋ニ關スル規定ヲ準用セラルヘキモノナリ（第三百十一條）

運送取扱人ノ受託事務ニ關スル責任ハ一般ノ受任者ノ責任ノ外ニ更ニ加重セラルルモノアリ即チ運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ

得ス（第三百二十二條）

數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代リテ前者ノ權利ヲ行使スル義務ヲ負フ此場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス又運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス（第三百二十五條第三百二十六條）

運送取扱人モ亦介入權ヲ有ス即チ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人タルト同時ニ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有スルモノトス（第三百二十七條）

第八款　運送營業

廣義ニ運送トハ物又ハ人ヲ或場所ヨリ他ノ場所ニ移轉スルヲ云フ而シテ物ニ關スル運送ヲ物品運送ト稱シ人ニ關スル運送ヲ旅客運送ト稱ス又其運送カ陸上ニ行ハルルト海上ニ行ハルルトニヨリ陸上運送海上運送ノ別アリ海上運送ニ付テハ後ニ海商ノ章ニ説明スヘク爰ニ云フ所ノ運送ハ專ラ陸上運送ニ關ス而シテ陸上運送中ニハ陸上ニ行ハルルモノノ外湖川港灣ニ於テ行ハルル運送ヲモ包含ス（第三百三十一條）

第一項　物品運送

物品運送ノ目的タル物ハ運送ニ適スル總テノ動産ナリ物品運送ノ荷送人ハ運送人ノ請求ニヨリ運送狀ヲ交付スルコトヲ要シ運送人ハ荷送人ノ請求ニヨリ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス運送狀及貨物引換證ハ法定ノ要件ヲ具備シテ之ヲ作成セサル可ラス貨物引換證ヲ作成シタルトキハ其移轉ハ運送荷物ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有シ（物權的有價證券タル所以）又運送人ト證券所持人トノ間ノ權利關係ハ一ニ證券ニ記載シタル文言ニヨリテ定マル（證券的有價證券タル所以）貨物引換證ヲ作リタルトキハ其證券ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス（第三百三十二條乃至第三百三十五條）

運送人ノ責任ハ一般受任者ノ責任ニ比シ加大ナルモノアリ即チ運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用セラレタル者カ運送品ノ受

取引渡保管及運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス（第三百三十七條）數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失毀損又ハ延着ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス（第三百三十九條）運送人ノ責任ノ例外ト見ルヘキモノハ貨幣、有價證券其他ノ高價品ノ運送ノ場合ニ荷送人カ其種類及ヒ價格ヲ明告セサリシトキ是レナリ（第三百三十八條）

運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ荷送人ノ運送契約ニ關スル一切ノ權利ヲ取得スヘク荷受人カ其運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運賃其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ（第三百三十四條）

第二項　旅客運送

旅客運送ニ付テモ亦運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス（第三百三十五條）

旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運賃ヲ受ケサルトキト雖モ物品運送人ト同一ノ責任ヲ負フ其引渡ヲ受ケサル手荷物ニ付テハ自己又ハ使用人ニ過失アル場合ノ外其責ニ任セス（第三百五十一條）

第九款　寄託

寄託ノ何タルカハ既ニ民法ノ説明ニ於テ之ヲ述ヘタリ只商法上ノ寄託ハ民法上ノ寄託ニ比シ大ニ受寄者ノ責任ヲ加重セラルルモノアリ（第三百五十三條乃至三百五十六條）商事寄託中最モ重要ナルモノヲ倉庫營業トス商法ハ之ニ關シ特別ナル規定ヲ設ク以下之ヲ略説スヘシ

倉庫營業トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスルモノヲ云フ倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニヨリ倉庫證券ヲ交付スルコトヲ要ス倉庫證券トハ預證券及質入證券ノ二ヲ云フ共ニ一定ノ要件ヲ具備シテ必ス同時ニ作成セサル可ラサルモノトス（二券主義）商法カ二券主義ヲ採リタル所以ハ預證券ヲ以テ倉荷ノ讓渡ノ場合ニ用ヒ質入證券ヲ以テ倉荷ヲ擔保トシテ融通ヲ圖ルノ用ニ供セシムルノ主

旨ニ出ツ（第三百五十八條第三百五十九條）

倉荷證券ハ貨物引換證ト同シク物權的及證券的性質ヲ有シ且倉庫證券ヲ作成シタルトキハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

倉庫證券ハ法律上當然指圖證券ナリ右ノ外倉庫營業者ノ責任、保管期間、報酬ノ請求等ニ關スル規定アリ（第三百六十二條乃至第三百七十八條）

第十款　保險

保險ハ總テ人カ人類生活ノ狀態ニ於テ遭遇スルコトアルヘキ不慮ノ危險ヨリ生スル損失ヲ多數人ニテ分擔スル所謂危難互救ノ精神ニ經濟上ノ基礎ヲ置クモ之ヲ法律上ヨリ觀察スルトキハ保險ノ種類ニヨリ大ニ其性質ヲ異ニスルモノアリ保險ハ其觀察ノ方面ヲ異ニスルニ從テ之ヲ數多ノ種別ニ分類スルコトヲ得就中營利保險、相互保險、損害保險、生命保險、海上保險、陸上保險等ヲ其重要ナルモノトス相互保險ハ同種ノ危險ニ遭遇スルコトアルヘキ多數人カ各其之ニヨリテ被ルコトアルヘキ損害ニ付キ補給ヲ受クル目的ヲ社團ノ方法ニヨリテ達スルモノニシテ營利保險ハ補給ノ責ヲ負フ保險者ト補給ヲ受クル被保險者トノ間ニ契約ヲ締結スルコトニヨリテ其目的ヲ達スルモノナリ即チ一ハ社團關係ニシテ一ハ債權關係ナリ而シテ相互保險ハ商行爲ニ非サルヲ以テ商法中ニ之ヲ規定セス損害保險ハ財產上ノ損害ニ對スル保險ニシテ生命保險ハ人ノ生死ニ基ク精神上、財產上ノ利益喪失ニ對スル保險ナリ而シテ通常前者ハ損失塡補ノ保險ナリト云ヒ後者ハ金額支拂ノ保險ナリト稱セラル陸上保險ハ陸上ニ於テ生スルコトアルヘキ危險ニ對スル保險ニシテ海上保險ハ海上ニ於テ生スルコトアルヘキ危險ニ對スル保險ナリ

以下損害保險、生命保險ノ分類ニ隨テ說明セン

第一項　損害保險

損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ塡補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニヨリ

テ其效力ヲ生ス其損害ノ塡補ヲ約スル者ヲ保險者ト稱シ之カ相手方トナリテ報酬ヲ支拂フコトヲ約スル者ヲ保險契約者ト稱シ危險ノ發生ニヨリテ損害ノ塡補ヲ受クル者ヲ被保險者ト稱ス保險契約者ト被保險者トハ同一人タルヲ通常トスルモ必シモ然ルヲ必要トセス（第四百一條）一定ノ事故ノ發生ニヨリ損害ヲ受クヘキ利益ヲ被保險利益ト稱シ保險契約者ノ支拂フヘキ報酬ヲ保險料ト稱ス被保險利益ハ學者ノ所謂保險契約ノ目的ニ外ナラス

損害保險契約ハ（一）當事者（保險者、被保險者、保險契約者）（二）被保險利益（三）危險（偶然ナル一定ノ事故）（四）損害ノ塡補（五）保險料ヲ要素トス

保險金額即チ事故發生ニヨリテ支拂フヘキ塡補額ハ保險價格即チ被保險利益ノ價格ニ超過スルコトヲ得ス（第三百八十六條乃至第三百八十九條）保險價格ノ一部ヲ保險ニ附シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價格ニ對スル場合ニヨリテ定ムヘキモノナリ（第三百九十一條）

戰爭其他ノ變亂ニヨリテ生シタル損害及保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其他自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ塡補スル責ニ任セス（第三百九十五條第三百九十六條）保險契約ノ全部又ハ一部カ無效ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得（第三百九十九條）保險者ハ保險契約者ノ請求ニヨリ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス而シテ保險證券ニハ一定ノ要件ヲ記載セサル可ラス（第四百三條）

損害保險ハ其危險ノ種類ニ從テ之ヲ多數ニ分類スルコトヲ得ヘシ而シテ商法ハ火災保險及運送保險ニ付テ特別規定ヲ設ク（第四百十九條以下）海上保險ニ付テハ別ニ海商ノ部ニ規定アリ海上保險ニ於テ保險者カ塡補スヘキ損害ハ保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニヨリテ生シタル一切ノ損害ナリ

海上保險ニ於テ異色アルハ委付ノ制度ナリ委付トハ被保險利益全部ノ滅失ト同視スルコトヲ得ヘキ損害ニ對シ被保險者カ保險金額全部ノ支拂ヲ受クルコトノ條件ヲ以テ殘存スル所ノ利益ヲ保險者ニ移轉スル意思表示ヲ云フ委付ノ場合即チ被保險利益ノ全部ノ滅失ト同視スルコトヲ得ヘキ場合ハ法律ニ之ヲ列擧ス（第六百七十一條）

委付ニヨリテ被保險者ハ保險金額ノ支拂ヲ受クルコトヲ得保險者ハ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス（第六百七十七條）

第二項　生命保險

生命保險ノ法律上ノ性質ニ付テハ學說紛々トシテ定マラス或ハ之ヲ以テ純然タル保險ニ非スト論スル者少カラサルニ至ル商法ノ規定ニ依ルトキハ生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニヨリテ效力ヲ生スル契約ナリ即チ人ノ生死ニ關スルコト及保險者ハ一定ノ金額ヲ支拂フコトヲ約スルモノナルコト損害保險ト異ナル所ニシテ又法律上ノ性質ニ付キ議論ノ生スル所以ナリ

生命保險契約ニ於ケル當事者ニハ保險者、保險契約者、被保險者ノ外尙ホ保險金額受取人トナル者アリ蓋シ損害保險ハ損害塡補ノ契約タル結果保險金額ヲ受取ルヘキモノハ必ス被保險者若クハ被保險者ヨリ被保險利益ヲ讓リ受ケタル者ニ限ルモ生命保險ハ金額支拂契約タルカ故ニ被保險者ノ外ニ保險金額受取人ノアリ得ヘキモノタルナリ但保險金額受取人トナリ得ル者ハ被保險者若クハ其相續人又ハ親族ニ限ル（第四百十八條）ニ勿論同一人ニシテ保險契約者ト被保險者ヲ兼ネ若クハ受取人ヲ兼ヌルヲ妨ケス養老保險ノ場合ノ如キ殊ニ然リ

生命保險ニモ又生存保險、死亡保險（又定期保險、終身保險ノ二ツニ分ツヲ得）養老保險等ノ種別アリ

被保險者カ自殺決鬪其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニヨリテ死亡シタルトキ及保險金額受取人カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フヘキ責ニ任セス但後ノ場合ニ於テ保險金額受取人數人アルトキハ其他ノ受取人ニ支拂フヘキ義務ヲ免ルルモノニ非ラス或場合ニ於テ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂ヒ戻ス義務ヲ負フコトアリ積立タル金額トハ所謂責任準備金ニ該當シ保險契約者ヨリ受取リタル保險料ノ一部ヲ支拂準備ノ爲メ積立タル金額ヲ云フ（第四百三十一條、第四百三十三條）

以上ノ外損害保險ニ關スル規定ノ大部ハ生命保險ニ準用セラル（第四百三十三條）

第四節　手形

手形法ハ之ヲ商法ノ一編トシテ商法中ニ規定スル立法例ト特別ノ單行法トシテ制定スル立法例アリ其何レカ理論ノ當ヲ得タルカハ此處ニ論セス我法制ハ前者ノ主義ニ則リ之ヲ商法ノ一編トシテ規定セリ

手形ノ本質ハ一定ノ金額支拂ノ約束ナリト雖モ特別ノ沿革ニヨリ特別ノ發達ヲ爲シ特別ノ理論ヲ有スルカ故ニ他ノ一般法條ト其趣ヲ異ニスルモノアリ手形ノ研究カ比較的ニ難解ナリト稱セラルル所以抑モ此處ニ存ス

手形法ヲ論スルニ當リテ先ツ注意スヘキ事項ハ手形上ノ權利ト手形法上ノ權利トヲ混同スヘカラサルコト是ナリ手形上ノ權利トハ手形ニ署名シ且法定ノ形式ヲ具備スル行爲ニヨリテ直接ニ生セル權利ニシテ手形法上ノ權利トハ總テ手形法上ニ認メラルル所ノ權利ヲ云フ支拂請求權、擔保請求權、償還請求權ノ如キハ前者ニ屬シ商法第四百四十一條、第四百四十四條、第五百十一條、第五百二十一條ニ規定セル權利ノ如キハ後者ニ屬ス以上ノ外一般私法ノ支配ヲ受クヘキ手形ニ關

スル權利關係アルコトヲ知ラサル可ラス學者ノ所謂非手形關係トシテ論スル所ノ原因關係、資金關係ノ如キハ之レニ屬ス

手形上ノ權利ノ成立ニハ

一　手形ナル書面ノ作成ヲ要ス

二　法定ノ形式ヲ具備スルコトヲ要ス

手形上ノ權利ハ

一　不要因債權ナリ不要因トハ原因ヲ要セストノ意味ニシテ權利ノ成立ト其原因トカ相關係セサルヲ云フ換言スレハ一旦手形カ有效ニ成立シタル以上ハ其之ヲ發行シタル理由如何ニ拘ハラス權利者ハ絶對ニ其權利ヲ行フコトヲ得ルヲ云フ

二　手形上ノ權利ハ證券的權利ナリ即チ手形上ノ權利ハ權利ノ範圍カ一ニ證券ニ記載シタル文言ニヨリテ定マルモノトス（第四百三十五條）

三　手形上ノ權利ハ一方的ナリ手形權利者ハ手形ノ取得ニヨリテ單ニ權利ヲ得ルノミニシテ何等ノ債務ヲ負フコトナシ

四　手形上ノ權利ハ獨立ナリ眞正ニ手形ニ署名シテ手形行爲ヲ爲シタルモノハ他ノ手形行爲ノ無效ナルト取消シ得ヘキトニ關セス絶對ニ自己ノ債務ヲ負擔スルモノトス僞造又ハ變造ノ手形ニ署名シタル者ハ其僞造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ(第四百三十七條)無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ホササル(第四百三十八條)カ如キ全ク此性質ニ基クニ外ナラス

手形行爲モ亦代理人ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ而モ手形代理ハ一般商行爲ノ代理ト其原則ヲ異ニシ必ラス手形ニ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セサルヘカラス然ラサレハ其手形行爲ハ代理人自身ノ爲メニ爲シタルモノト看做サレ本人ハ之レニ因リテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ(第四百三十六條)

前述セルカ如ク手形上ノ權利ハ證券的債權ニシテ一ニ其手形ノ文言ニ隨テ責任ヲ負フモノナルカ故ニ手形ニ記載スヘキ事項モ亦嚴格ナル制限ニ從ハシムルノ要アリ第四百三十九條ハ手形法ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セサル旨ヲ定メ同時ニ手形ノ債務者ハ手形法ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(第四百四十條)

手形理論即チ手形上ノ法律關係成立ノ法律上ノ性質ニ付テハ古來學理上ノ大問題トシテ學說一ニ歸セス之ヲ大別シテ契約說、一方行爲說ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ契約說ハ手形上ノ法律關係ヲ以テ契約ニ因リテ成立スト爲スモノニシテ其說ク所亦一ナラス或ハ手形義務者ハ不確定ノ人ト契約スルモノナリト說キ或ハ第一ノ受者ハ將來ノ所持人ノ利益ノ爲メニ契約ヲ結フモノナリト說キ或ハ手形債務者ハ不確定ノ人ニ對シテ無數ノ申込ヲ爲スモノニシテ手形ノ取得ハ此申込ノ承諾ナリト說明セリ

一方行爲說ハ手形上ノ債權債務ハ債務者ノ一方行爲ニヨリテ成立シ當事者ノ合意ハ手形ノ成立ニ必要ナラスト云フモノナリ此說モ更ニ小派ニ分レ或ハ單ニ債務者ノ署名ニヨリテ成立ストスル者アリ或ハ受者ノ手ニ歸スルヲ必要トスル者アリ

吾商法ニ所謂手形ハ爲替手形、約束手形、小切手ノ三種トス

爲替手形及小切手ハ振出人カ支拂人ニ對シテ手形所持人ニ一定ノ金額ヲ支拂

フヘキコトヲ委託スルモノニシテ約束手形ハ振出人カ自ラ手形所持人ニ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約束スルモノナリ而シテ爲替手形及約束手形ハ所謂信用證劵トシテ流通ヲ目的トスルモ小切手ハ支拂證劵ニシテ流通ヲ目的トスルモノニ非サルカ故ニ其間ニ法律上ノ性質ヲ異ニスルモノアリ

第一款　爲替手形

爲替手形ハ手形中最モ主要ナルモノニシテ商法ハ主トシテ爲替手形ニ付テ詳細ナル規定ヲ設ケ約束手形及小切手ニ其大部分ヲ準用スルコトトセリ

爲替手形ハ一定ノ金額ノ支拂ヲ第三者ニ委託スルモノニシテ少ナクトモ三人ノ關係者ノ存在ヲ必要トス即チ手形ノ作成者即チ振出人、手形ヲ受取リテ手形上ノ債權者タル者即チ受取人手形金額ノ支拂ヲ委託サルル者即チ支拂人是ナリ

第一　振出

爲替手形ハ振出人カ手形ヲ作成スルニ始マル之レヲ手形ノ振出シト云フ手形ノ振出シニハ一定ノ要件ヲ記載シ振出人之レニ署名スルコトヲ要ス（第四百四十五條）手形ニ要件ノ一ヲ缺クトキハ手形トシテ其效力ナキモノトス所謂爲替手形ノ要件左ノ如シ

一　其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
二　一定ノ金額
三　支拂人ノ氏名又ハ商號
四　受取人ノ氏名又ハ商號
五　單純ナル支拂ノ委託
六　振出ノ年月日
七　一定ノ滿期日
八　支拂地
九　振出人ノ署名

手形金額三十圓以上ノ者ニ限リ要件(四)ヲ缺キ所謂無記名式ト爲スコトヲ得ヘク（第四百四十八條）手形ニ要件(七)ヲ缺クトキハ一覽ノ日ヲ以テ滿期日トナシ要件(八)ヲ缺キタルトキハ手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地ヲ以テ支拂地トス（第四百五十二條）尙振

出人ハ支拂人カ引受ヲ爲ササル際ニ供フル爲メ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ナルモノヲ手形ニ記載スルコトヲ得ヘク支拂ノ地カ支拂人ノ住所地ト異ナルトキハ支拂擔當者ヲ記載スルコトヲ得更ニ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二　裏書

手形ハ裏書ニ依リテ之ヲ他ニ讓渡轉輾シ得ルヲ通性トス裏書トハ手形ノ所持者カ自ラ手形支拂ノ擔保者トナリテ該手形ヲ他人ニ轉輾スルコトヲ云フ但振出人ハ手形附記ニヨリテ裏書讓渡ヲ禁スルコトヲ得ヘク（第四百五十五條）裏書人モ亦裏書讓渡ヲ禁止スル旨ヲ手形ニ記載スルコトヲ得ルモ此場合ハ此裏書人ハ單ニ其被裏書人ノ後者ニ對シテ責任ヲ負ハサルニ止マリ爾後ノ裏書ヲ絶對ニ禁止スルコトヲ得ス（第四百六十條）裏書モ亦手形行爲ノ一ニシテ裏書人ハ之レニ由リテ其後者ニ對シテ手形義務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ一定ノ要件ヲ具ヘ之ニ署名スルコトヲ要ス

其裏書要件左ノ如シ

一　被裏書人ノ氏名又ハ商號

二　裏書年月日

三　裏書人ノ署名

裏書人ハ裏書要件(一)及(二)ヲ缺キ單ニ署名ノミニヨリテ裏書ヲナスコトヲ得之ヲ白地裏書ト稱ス白地裏書アル手形ハ爾後引渡ノミニヨリテ之ヲ讓渡スコトヲ得（第四百五十七條第二項）

裏書ハ之レニ因リテ手形ノ移轉力及擔保力ノ二效力ヲ生ス移轉力トハ裏書ニヨリテ手形上ノ權利カ被裏書人ニ移轉スルヲ云ヒ擔保力トハ裏書ヲ爲シタル者ハ手形上擔保義務ヲ負フニ至ルヲ云フ

手形ハ滿期日ニ支拂ハルヘキモノニシテ其活動期間ハ滿期日迄ニ在ルコト言ヲ俟タス從テ裏書讓渡ノ如キモ滿期日迄ニ行ハルルヲ通常トス滿期日ヲ經過シ支拂拒絶證書作成期間後ニ爲サレタル裏書ハ其當時裏書人ノ有シタル權利ノミヲ移轉スルニ止マル（第四百六十二條）裏書ハ必ス連續スルコトヲ要ス裏書カ連續セサルトキハ所持人ハ其權利ヲ行フコトヲ得サルモノトス（第四百六十四條）

手形義務者即チ振出人、引受人又ハ裏書人ハ更ニ裏書ニヨリテ手形ヲ讓受ルコトヲ得（第四百五十六條）此場合ノ裏書ヲ戻裏書ト稱ス手形所持人ハ手形ヲ質入シ又ハ手形金額取立委任ノ爲メ裏書ヲ爲スコトヲ得前者ヲ質入裏書ト云ヒ後者ヲ委任裏書ト稱ス（第四百六十三條）

第三　引受

引受トハ支拂人カ振出人ニ對シテ該手形上ノ金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトノ承諾意思ヲ表示スルコトヲ云フ爲替手形ノ支拂人ハ引受ヲ爲スマテハ何等手形上ノ義務ヲ負フコトナシ引受モ亦手形ニ署名シテ之ヲ爲スコトヲ要ス（第四百六十八條）引受ハ手形所持人カ手形ヲ持參シテ引受ヲ求ムルニヨリテ之ヲ爲ス引受ノ爲メ所持人カ手形ヲ差出スヲ引受ノ爲メニスル呈示ト云フ引受ノ爲メニスル呈示ハ一覽後定期拂ノ手形ノ外之レヲ爲スト否トヲ所持人ノ任意ニ委ス

支拂人カ手形ノ引受ヲ爲シタルトキハ爰ニ手形ノ主タル債務者トシテ手形金額支拂ノ義務ヲ負フニ至ルモノトス（第四百七十條）引受ハ單純ナラサルヘカラス條件ヲ附シ又ハ或種ノ制限ヲ附帶セシムル引受ノ如キハ單純ナラサル引受ニシテ此ノ如キ引受ヲ爲スモ法律ハ引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但シ引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負フ（第四百六十九條第二項）只手形金額ノ一部ニ對スル引受即チ一部引受ハ之ヲ有效トセリ（第四百六十九條第一項）

第四　擔保請求

擔保請求權ハ後ニ述フル償還請求權ト共ニ所謂遡及權ト稱セラルル所ノモノニシテ支拂人カ手形ノ引受ヲ爲ササルトキ（第四百七十四條）及引受人カ破產シ而モ相當ノ擔保ヲ供セサル場合（第四百八十條）ニ所持人カ其前者ニ對シテ行フ所ノ權利ナリ前者トハ手形カ振出人ヨリ自己ニ至ルマテノ間ニ手形ニ署名シ手形行爲ヲ爲シタル振出人及裏書人ノ總テヲ云フ

所持人ハ自己ノ前者中何人ニ對シテ擔保ヲ請求スルモ全ク其自由ナリ而カモ擔保請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシメ且擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滯ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス擔保請求ヲ受ケタル裏書人ハ自己ノ前者ニ對シ更ニ擔保ヲ請求スルコトヲ得擔保請求ヲ受ケタル者ハ拒絕證書ト引換ヘニ擔保ヲ供シ又ハ相當ノ金額ヲ供託スヘキモノトス（第四

（百七十五條乃至第四百七十七條）

前者カ擔保ヲ供シ又供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且後者全員ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做シ擔保請求者タル所持人又ハ裏書人ノ爲シタル擔保請求通知ハ其之ヲ受クル者ノ後者全員ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做サル（百七十八條）（第四）

第五　支拂

所持人カ手形金額ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ支拂人、引受人若クハ支拂擔當者ニ手形ヲ差出ササル可カラス之ヲ支拂ノ爲メニスル呈示ト云フ此呈示ハ滿期日及其後ノ二日內ニ之レヲ爲ササルヘカラス此期間內ニ呈示ヲ爲ササルトキハ所持人ハ其前者ニ對スル償還請求權ヲ失フ支拂ハ爲替手形ト引換ニアラサレハ之レヲ爲スコトヲ要セス（第四百八十三條）所持人ハ一部支拂ト雖モ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス（第四百八十四條）支拂ニヨリテ手形關係ノ終了ヲ告クルヤ勿論ナリ

第六　償還請求

償還請求權モ亦遡及權ノ一ニシテ支拂人カ手形ノ單純ナル支拂ヲ爲サ㕘サル合ニ手形權利者カ其前者ニ對シテ擔保義務ヲ果サシムルヲ云フ償還請求權モ亦前者ノ何レニ對シテ之ヲ爲スモ妨ケナシ所持人カ此權利ヲ行フニハ滿期日又ハ其後ノ二日內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絕證書作成ノ翌日迄ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス所持人若シ此手續ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ（第四百八十七條）償還請求ヲ受ケタル裏書人ハ更ニ其前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ（第四百八十八條）

他所拂ノ手形即チ支拂ノ地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ手形ニ支拂擔當者ノ記載アルトキハ所持人ハ支拂擔當者ニ支拂ノ請求ヲ爲ササル可カラサルハ勿論ニシテ此場合ニ於テ支拂擔當者カ支拂ヲ拒絕シタルトキハ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作成セシメサルヘカラス此手續ヲ怠ルトキハ引受人ニ對シテモ其權利ヲ失フニ至ルモノトス（第四百九十條第二項）

所持人ハ此支拂アラサリシ手形金額及滿期日以後ノ法定利息及ヒ拒絕證書作成ノ手數料其他ノ費用ニ付テ償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘク（第四百九十一條）償還請求ヲ受ケタル裏書人ハ（一）其支拂タル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息（二）其支出シタ

ル費用ニ付キ償還請求權ヲ有ス（第四百九十二條）

手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得之ヲ戻手形ト稱ス（第四百九十三條）

第七　保證

學理上手形保證ニ公然ノ保證ト隱レタル保證トノ二者アリ隱レタル保證トハ保證人タラントスル者ニ振出人裏書人又ハ引受人トシテ手形上ノ債務ヲ負擔セシメテ之ヲ爲スモノヲ云フ蓋シ保證ハ主タル債務者ノ不信用ヲ表白スルモノニシテ手形ノ信用ヲ傷クル惧アルカ故ニ此惧ヲ蔽ハンカ爲メニ所謂隱レタル保證ノ行ハルルモノナリ然レトモ手形法上ヨリ嚴格ニ論スルトキハ隱レタル保證ハ眞ノ保證ニアラス

手形上ノ保證ハ手形或ハ其補箋又ハ其謄本ニ署名シテ之レヲ爲ササルヘカラス手形上ノ保證ハ啻ニ引受人ノ債務ニ付テ之ヲ爲スニ止マラス振出人又ハ裏書人ノ債務ヲモ亦保證スルコトヲ得手形ニ保證ヲ爲シタルトキハ主タル債務即チ保證セラルル債務カ無效ナルトキト雖モ尙ホ其效力ヲ生ス（第四百九十七條）手形上ノ保證ヲ爲シタル者ハ是レニ依リテ主タル債務者ト同一ノ債務ヲ負擔ス（第九百七十四條）

保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有シタル權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス（第四百九十九條）

第八　參加

支拂カ拒絕サレタル場合ニ所持人ノ擔保請求權若クハ償還請求權ノ行使ヲ止ムルカ爲メニ第三者カ手形上ノ關係ニ介入スルノ行爲ヲ參加ト云フ其行爲者ヲ參加人ト云ヒ參加ニヨリテ直接利益ヲ受クルモノヲ被參加人ト云フ參加ニ參加引受ト參加支拂トアリ又豫備支拂人カ參加スル場合ト豫備支拂人以外ノ者ノ參加スル場合トアリ手形義務者ト雖モ又其前者ノ爲メニ參加ヲ爲スコトヲ得參加モ亦手形ニ署名シテ之ヲ爲ササルヘカラサルコト言ヲ俟タス

一　參加引受

參加引受ハ手形ノ支拂人カ引受ヲ拒絕シタル場合ニ擔保權ノ行使ヲ止ムルカ爲メニ第三者カ爲ス所ノ引受ニシテ滿期日ニ至リ支拂人カ手形金額ヲ支拂ハサルトキハ自ラ之ヲ支拂フヘシトノ意思表示ナリ豫備支拂人以外ノ者ノ參

加引受ハ所持人ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得（第五百一條）又參加引受ヲ爲サントスル者數人アル場合ニ於テハ其内ノ何人ニ引受ヲ爲サシムヘキカヲ選擇スルコトヲ得（第五百二條）蓋シ參加引受ハ參加支拂ノ如ク是レニ依リテ手形所持人ノ權利ヲ消滅セシムルモノニ非ス而モ是レニ依リテ前者ニ對スル擔保請求權ノ行使ヲ阻止スルモノナルカ故ニ參加引受人ノ如何ハ所持人ノ利害ニ關スルコト大ナレハナリ參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シテ手形金額及費用ヲ支拂フノ義務ヲ負ヒ（第五百五條）同時ニ爲替手形ノ所持人及被參加人ノ後者ハ參加引受ニヨリテ擔保請求權ヲ喪フ（第五百六條）

二　參加支拂

參加支拂ハ支拂人カ支拂ヲ拒絶シタル場合ニ於テ參加引受人、豫備支拂人又ハ其他ノ第三者カ爲ス支拂ニシテ所持人ハ豫備支拂人、參加引受人以外ノ者ノ參加支拂ナリト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス（第五百九條）參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス（第五百十條）參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス（第五百十三條）

第九　拒絶證書

拒絶證書トハ手形上ノ債權ヲ保全スルニ必要ナル行爲ヲ爲シタルコトヲ證明スル要式證券ナリ拒絶證書ナクンハ遡及權ナシトハ手形上ノ大原則ニシテ一定ノ場合ニ於テ之カ作成ヲ爲ササルトキハ手形上ノ權利ヲ喪フニ至ルモノトス只手形義務者ハ權利者ニ對シ拒絶證書作成ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ之ヲ作成セサルカ爲メ權利ヲ喪フコトナキハ勿論ナリ（第四百十九條八）拒絶證書モ又要式證券ニシテ一定ノ要件ヲ具備セサルヘカラス而シテ此レカ作成ハ公證人又ハ執達吏ノ任ナリ拒絶證書ノ要件ハ第五百十五條ニ規定セリ

第十　爲替手形ノ複本及謄本

手形紛失ノ場合ニ備フル爲メ若クハ手形呈示中ニ於テ流通ヲ爲シ得ル爲メ手形ノ複本又ハ謄本ヲ備フルノ制度ヲ認ム

一　複本

爲替手形ノ複本ハ所持人ノ請求ニヨリ振出人ニ於テ作成シ各裏書人ノ裏書

ヲ爲サシムルモノニシテ（第五百十八條）法律上完全ナル手形トシテ效力ヲ有ス而モ元來一個ノ手形タルニ止マルカ故ニ各通獨立シテ活動スルモノニアラス隨テ手形ノ複本ニハ複本タルコトヲ示ス文字ヲ記入セサル可ラス然ラサレハ各通ハ獨立シテ其效力ヲ有スルモノト看做サルヘシ（第五百十九條）而シテ各通ハ何レモ手形ノ原本トシテ同等ノ資格ヲ有スルヲ以テ其一通ニ依リテ引受又ハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク一通ニ付キ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ當然其效力ヲ失フ然レトモ所持人ノ權利ハ其取得シタル一通ノ文言ニ依リテ定マルカ故ニ引受アル手形ノ所持人ハ他ノ一通ニ支拂ハレタルカ爲メ其權利ヲ喪フコトナシ同樣ノ理由ニヨリ二人以上ニ各別ニ數通ノ手形ニ裏書ヲ爲シタルモノ又ハ數通ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス（第五百二十條）

二　謄本

爲替手形ノ所持人ハ自ラ其謄本ヲ作ルコトヲ得謄本ハ決シテ獨立シタル手形ニ非ス隨テ之レニヨリテ引受又ハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ス只是ニ依リテ裏書又ハ保證ヲ爲シ得ルニ過キス謄本ニヨリテ裏書又ハ保證ヲ爲シタルトキハ原本ニ記載シタル事項ト區別シテ之レヲ明瞭ナラシムルヲ要ス（第五百二十二條）

第二款　約束手形

約束手形ハ振出人自ラ一定ノ金額ノ支拂ヲ約スル手形ニシテ爲替手形ノ如ク一定ノ金額支拂ヲ他人ニ委託スルモノニ非ス即振出人ハ手形作成ト同時ニ主タル義務者ト爲ルモノナリ此點ヨリシテ約束手形ニ關スル法則ハ爲替手形ニ關スル法則ト差異ヲ生スルモ大體ニ於テ爲替手形ニ關スル規定ノ大部分ハ之ヲ約束手形ニ準用セラルヘシ故ニ約束手形ニ關シテハ特ニ說明スヘキモノナシト雖モ只前述ノ理由ヨリ當然ノ結果トシテ手形要件ニ差異アリ（第五百二十五條第四百四十五條參照）約束手形ニ在リテハ振出人ノ外ニ支拂人ナルモノナキ結果引受ノ制度ナク隨テ引受參加引受及擔保請求ニ關スル法則ハ全然約束手形ニ適用ナシ又爲替手形ニ在リテ手形權利者カ權利行使ノ手續欠缺ノ爲メ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ喪フ場合ハ約束手形ニ在リテハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ喪フニ止マ

ル

約束手形ニハ又爲替手形ノ如ク引受ノ爲メノ呈示ナキカ故ニ之レカ爲メ流通ヲ阻害サルル惧ナク隨テ複謄本ノ制度ヲ認メス

第三款　小切手

小切手ニハ爲替手形ト同シク振出人、受取人ノ外ニ支拂ノ委託ヲ受クル所ノ支拂人アリ而シテ法律ニ爲替手形ノ外ニ小切手ナル制度ノ認メラルル所以ノモノハ小切手ハ現金ニ代ヘテ支拂ノ具ニ供シ以テ金錢保管ノ勞、盗難紛失ノ危險ヲ除キ及ヒ計算上ノ錯誤ノ過ヲ避ケンカ爲メニ特別ノ發達ヲ爲シタルモノニシテ爲替手形ノ如ク流通ヲ目的トシテ發達シタル者ニ非サルカ故ニ其間經濟上ノ用途ヲ異ニスルカ爲メナリ故ヲ以テ小切手ハ常ニ必ス一覽拂ノモノニシテ且ツ其流通期間ノ如キモ甚タ短ク所持人ハ日附ヨリ一週間内ニ呈示シテ支拂ヲ求ムルコトヲ要スルモノトセリ既ニ小切手ハ必ス一覽拂ノモノナルカ故ニ手形ノ要件トシテ滿期日ヲ記載スル要ナシ（第五百三十二條以下）

小切手ニハ小切手契約ノ存在スルコトヲ必要トス法律ハ資金ナク又ハ信用ヲ得スシテ小切手ヲ振出シタルトキハ一定ノ過料ニ處スル旨ヲ定メタリ（第五百三十六條）

所謂平行線小切手又ハ横線小切手ト稱セラルル所ノ振出人又ハ所持人カ表面ニ二條ノ平行線ヲ劃シ其線内ニ銀行又ハ此レト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタル小切手ニ在リテハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スヘキモノナリ此制度ハ小切手ニ行ハレ易キ詐欺ヲ防キ正當ノ權利者ニ支拂ハシメンカ爲メノ旨趣ニ出テタルモノトス（第五百三十五條）

小切手ニ付テモ爲替手形ニ關スル規定ノ大部分ヲ準用スルモノナリ（第五百三十七條）

第五節　海商

海事ニ關スル法律規則ノ全體ヲ海法ト稱シ海法ヲ分テ海事國際法、海事公法、海事私法ニ分類スルトキハ海商法ハ海事私法ニ屬ス海商法ハ海事ニ關スル商關係ニ付テ規定スルモノニシテ海事ニ關スル私法ノ最要部分ハ商事ニ屬ス是ヲ以テ海商法ハ學理上一面ヨリ見テ商法ノ一部タルト同時ニ他面ヨリ見テ海法ノ一部

ヲ爲スモノナリ

吾商法海商編ニ於テハ船舶、船舶所有者、船員、運送、海損、海上保險、船舶債權者ニ付テ規定ヲ設ク右ノ内保險ニ付テハ先ニ商行爲ヲ説明スルニ當リテ概説シタリ

第一款　船舶及船舶所有者

船舶ナル汎稱中ニハ軍艦、商船ハ勿論總テ水上ヲ航行スル用ニ供セラルル建設物ヲ包含スヘシ而モ一般用語上軍艦ハ船舶ト併セ稱セラレ所謂船舶中ニ含マシメサルノミナラス海商法ニ船舶ト稱スルモノハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ有スルコトヲ要シ且ツ端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ハ之ヲ包含セス（第五百三十八條）商法ニ於テハ此等ノモノハ舟ナル文字ヲ用ヰ以テ船舶ト區別セリ

船舶ハ動産ナルコト勿論ナリト雖モ其容積ノ大ナルト其價格ノ高貴ナルト等ヨリ普通ノ動産ト大ニ其性質ヲ異ニスルカ故ニ法律上特殊ノ取扱ヲ受ケ不動産ト同一ノ法則ニ支配セシメラルルモノ尠カラス船舶登記ノ制度、船舶抵當ノ制度船舶ノ强制執行ニ關スルモノノ如キ皆然リ

船舶ハ名稱ヲ有シ且ツ國籍ヲ有スヘキモノナリ船舶ノ國籍ヲ定ムル標準ニ關シ或ハ船舶所有者ノ全部又ハ一部カ自國ノ國籍ヲ有スルヲ以テ足レリトシ或ハ乘組員、船長及船員ノ全體カ自國人タラサル可ラストシ更ニ船舶カ自國ニ於テ構造セラレタルモノナラサル可ラストスルアリ吾船舶法ハ單ニ船舶所有者ニ關シテノミ制限ヲ設ク（船舶法第一條）

船舶ハ登記ヲ爲シ且國籍證書ヲ請ヒ受クルコトヲ要ス尤モ是レ只日本船舶タル權利ノ行使ニ必要ナル條件タルニ止マリ日本船舶タルニ必要ナル條件ニアラス（第五百四十條船舶法第一條參照）

日本船舶タル權利即チ國籍ニ伴フ船舶ノ權利トハ（一）國旗ヲ揭揚スルコトヲ得ル權利（船舶法第二條）（二）內國ノ沿岸ニ於テ貿易シ且不開港場ニ寄港スルコトヲ得ル權利（船舶法第三條）及航海奬勵法ヨリ生スル特別ノ權利ノ如キヲ重ナルモノトス殊ニ國旗揭揚權ノ如キ極メテ重要ナルモノニシテ之レニヨリ領域外ニ在リテモ國家ノ保護ヲ受クルコトヲ得ヘク外國間ニ戰爭アル場合ニ於テハ中立國船舶トシテ捕獲ヲ

免ルルコトヲ得ルモノナリ（本論第三章第七節第五項參照）

航海中ニ於テ船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ理論上其讓渡アリタルトキヨリ總テノ權利義務カ讓受人ニ移轉ストスルヲ正當トスト雖モ若シ斯ノ如クナルトキハ運賃其他航海ヨリ生スル損益ニ關シテ困難ナル問題ヲ生スヘシ是ヲ以テ法律ハ此場合ニ關シ特約ナキ限リハ其航海ヨリ生スル一切ノ損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノト定ム（第五百四十二條）

船舶ハ其價格大ナルカ故ニ多數人ノ共有ニ屬スルコト多シ共有船舶ノ利用行爲ハ共有持分價格ノ過半數ニヨリテ之レヲ決シ（第五百四十六條）處分行爲ハ全員ノ同意ヲ得サルヘカラス新ニ航海ヲ爲シ又ハ大修繕ヲ爲ススヘキ決議ニ異議アル共有者ハ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ他ノ共有者ニ請求スルコトヲ得（第五百四十八條）船舶所有者ハ必ス管理人ヲ選任シ一定ノ行爲ヲ處理セシメサルヘカラス（第五百五十二條）船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ共有者ノ國籍喪失等ニヨリ船舶カ國籍ヲ失フヘキ場合ニハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得會社社員ノ持分移轉ニヨリ船舶カ國籍ヲ喪フ場合ニ於テモ亦均シク他ノ社員ニ先買權ヲ生ス（第五百五十五條）

第二款　船員

船員トハ航海ニ從事スル船舶乘組員ノ總テヲ云フ船員ヲ分テ船長及海員ノ二トス海員トハ船長以外ノ乘組員ノ總稱ニシテ船長ト海員ノ區別ハ畢竟權限ノ大小ニ外ナラス

第一　船長

船長タルニハ法定ノ資格ヲ有スルコトヲ要ス船長ト船舶所有者トノ關係如何ハ大ニ議論ノ存スル所ナレトモ雇傭及代理ノ關係ニ立ツモノト云フヘシ而モ船長タルヤ其性質普通ノ被雇者又ハ代理人ト大ニ趣ヲ異ニスルモノアルカ故ニ其代理權限ハ擴大セラレ更ニ特殊ノ權限ヲ附與セラルルモノアリ即チ船長ハ所有者ノ被雇者トシテハ勞務ニ服シ代理人トシテハ船籍港外ニ於テ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ尙ホ航海中ニ於テ必要ナル場合ニハ船舶ヲ抵當トシ又ハ借財ヲ爲シ若クハ積荷ヲ質入

スルコトヲ得ヘク進ンテ之レカ競賣ヲ爲スコトヲモ得ヘシ勿論船舶所有者ハ特別ノ契約ヲ以テ船長ノ代理權限ヲ制限スルコトヲ得ルモ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（第五百六十六條乃至第五百七十條）

右ノ外更ニ船長ハ其特別ノ權限トシテ船内ノ安全及秩序ヲ維持スル爲メ海員ヲ懲戒シ（船員法第三十六條以下）乘客ノ自由ヲ制限スル權限ヲ有ス（船員法第四十三條）

如此船長ハ航海ニ關シ重大ナル權限ヲ有スルト同時ニ其責任亦重大ナルモノアリ即チ船長ハ荷物ノ船積及旅客ノ乘込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚、旅客ノ上陸ノ時マテ船舶ヲ去ルコトヲ得ス（第五百六十三條）發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ檢査スルコトヲ要シ（第五百六十一條）一定ノ書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要シ（第五百六十二條）其他自由ニ航路ヲ變更スルコトヲ得サルカ如キ（第五百六十四條）積荷ニ關シ利害關係人ノ利益ヲ顧ミサル可ラサルカ如キ（第五百六十五條）海員ノ職務上ノ行爲ニ付キ責任ヲ負フカ如キ（第五百五十九條）船舶所有者、傭船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シ特別ナル注意ニ關スル責任ヲ負フカ如キ（第五百五十八條）報告ノ義務ノ如キ（第五百七十三條）其最モ重要ナルモノトス

第二　海員

海員トハ船長以外ノ船員ノ總稱ニシテ上ハ運轉士、機關士、醫員ノ如キ高等海員ヨリ下ハ水夫、火夫、厨夫ニ至ル下級海員ノ總テヲ包括ス海商法中海員ニ關スル規定ハ下級海員ヲ標準トシテ定タルモノニシテ主トシテ海員ノ保護ニ關ス

海員ノ雇入ハ船長之ヲ爲スヲ通常トス海員ト船舶所有者トノ間ニ於ケル法律上ノ關係ハ雇傭ノ性質ナルコト勿論ニシテ海員ハ其傭入ノ手續カ終リタルトキヨリ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘組ミ勞務ニ服セサルヘカラス海員ハ服役中食料ヲ請求スル權利ヲ有シ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ治療及ヒ看護ノ費用請求權ヲ有ス海員ノ雇止メハ一般雇傭契約ニ關スル原則ニ依ルノ外一定ノ場合ニ於テ船長ノ側ヨリ及海員ノ側ヨリ何レモ其契約解除ヲ爲スコトヲ得ヘク又一定ノ事故發生ニヨリテ當然契約ノ終了スルモノトス（第五百八十七條）航海中ニ於テ雇止メラレタルトキハ海員ハ雇入港マテ送還ヲ受ンコトヲ請求スルコトヲ得ル場合アリ（第五百八十二條後段第五百八十七條第二項第五百八十三）航海中船舶ノ所有者カ變更シタル場合ニ

海員ハ當然新所有者ニ對シテ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有スルカ如キハ畢竟相互ノ便益ヲ酌量シテ設ケラレタル規定ニシテ一般雇傭ノ法則ノ例外ナリ（第五百八十四條民法第六百二十五條）

第三款　運送

海上運送ニ關シテモ又物品運送ト旅客運送ノ二ニ分チテ規定セラル

第一　物品運送

海上運送ニアリテハ運送ハ總テ船舶ニ依ラサル可カラス而シテ物品運送ニハ個々ノ物品運送契約ト船舶ノ一部又ハ全部ヲ契約ノ目的トスル場合トアリ個々ノ物品ヲ運送契約ノ目的トスル場合ハ最モ單純ナル運送契約ナリ船舶ノ全部又ハ一部ヲ運送契約ノ目的トスル場合ハ船舶ノ賃貸借契約ト甚タ相似タリ外國ノ立法例若クハ學説ニヨレハ或ハ船舶ノ全部若クハ一部ヲ目的トスル運送契約ヲ以テ船舶ノ賃貸借ナリトシ又ハ請負契約ナリト説明スルモノアルモ我商法ハ全ク別異ノ契約トシテ規定ヲ設ク要スルニ船舶ノ賃貸借ニ在リテハ船舶所有者ハ船舶ヲ擧ケテ之ヲ賃借人ノ占有ニ移シ賃借人ハ任意ニ之ヲ利用シ得ルモノナルモ傭船契約ニ在リテハ船舶ノ全部又ハ一部ヲ相手方ニ使用セシムルニ止マリ船舶ノ占有及管理權ハ依然所有者ニ存スルモノナリ

海上運送ニ在リテハ總テ運送ハ船舶ニ依ラサル可カラサルカ故ニ原則トシテ船舶所有者即チ運送人タリ但船舶ノ賃貸借ノ場合ニ賃借人カ運送人タルハ勿論ナリ

船舶所有者ハ契約ニ定ムル船舶ヲ以テ運送ヲ爲ササル可ラス又其船舶ハ發航ノ當時ニ於テ航海ニ堪ユルモノナルコトヲ要ス船舶所有者ハ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ悪意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス（第五百九十一條第五百九十二條）

以上ノ外海上運送ニ於ケル特殊ノ規定ハ船積期間ニ關スルモノ陸揚期間ニ關スルモノ及契約ノ解除其他ノ終了原因ニ關スルモノ及運送賃ニ關スルモノ等ヲ重モナルモノトス陸上運送ニ關スル規定ハ一定ノ範圍ニ於テ海上運送ニ準用セラルルモノナリ

陸上運送ニ於テ運送人ノ發行スル貨物引換證ニ相當スルモノヲ海上運送ニ於テハ船荷證券ト稱ス船荷證券ハ傭船者又ハ荷送人ノ請求ニヨリ船長又ハ船舶所有者ノ委任ヲ受ケタル者カ之ヲ作ルモノトス船荷證券モ亦要式證券ニシテ又物權的及證券的證券タルコト貨物引換證ト同一ナリ

船荷證券ヲ發行シタルトキハ船長ハ其證券所持人ニ積荷ヲ引渡スヘキ義務ヲ負フ而シテ數通ノ船荷證券ヲ作リタル場合ニ於テハ陸揚港ニ於テハ其内ノ一通ノ所持人カ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ス陸揚港外ニ於テハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス二人以上ノ證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ遲滯ナク運送品ヲ供託シ且各請求者ニ對シ其通知ヲ發スヘキモノナリ（第六百二十四條乃至第六百二十六條）

第二　旅客運送

旅客運送ニ在リテハ其契約成立ノ證トシテ切符ヲ發行交付スルヲ通常トス切符ニ記名式ノモノト無記名式ノモノトアリ記名式ノ切符ハ之レヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス（第六百三十條）

旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ニ於テ支給セサル可ラス（第六百三十一條）加之航海ノ途中ニ於テ船舶ノ修繕ヲ要スル場合ニ於テモ船舶所有者ハ修繕中旅客ノ住居及食料ヲ供スル義務アルモノトス（第六百三十六條）

其他契約ノ解除、運賃及手荷物ニ關スル船舶所有者ノ責任等ニ付キテ特別ノ規定アル外ハ陸上旅客運送及物品運送ノ原則ニ準スヘキモノトス（第六百三十九條）

第四款　海損

船舶カ航海中ニ生シタル總テノ損害ヲ海損ト稱シ海損ヲ分テ單獨海損及共同海損ノ二ニ區別ス單獨海損ハ偶然ナル事故ニ因リテ生シタル損害ニシテ共同海損ハ船長カ船舶及積荷ヲシテ共同危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及費用ヲ云フ（尚水先料、挽船料等ノ如キ多少豫期スヘキ通常若クハ臨時ノ費用ヲ小海損ト稱シテ說明スルモノアリ）單獨海損ハ民法上ノ原則ニ準據シ其損害ヲ受ケタル者カ自ラ之ヲ負擔スヘキモノニシテ商法ニ之カ特別ノ規定ヲ設ケス共同海損ハ其船長ノ處分ニヨリテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格及運送賃ノ半額ト共同

海損額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔スヘキモノトス（第六百四十二條）共同海損ヲ分擔スル者ノ責任ハ船舶ノ到達又ハ積荷引渡ノ時ニ於テ現存スル價格ノ限度ニ限ラル（第六百四十四條）

利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後處分セラレタル船舶其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助ノ費用及一部滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス（第六百四十九條）

船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ハ上ニ所謂共同海損ニ非ス而モ此等ノ費用ハ共同海損ノ場合ト同シク船舶積荷共同ノ利益トナルモノナリトノ理由ヲ以テ共同海損ノ場合ニ準シ各利害關係人ニ於テ損害ヲ分擔スヘキモノトス學者ハ之ヲ準共同海損ト稱セリ

船舶ノ衝突ノ場合ニ於テ其之ニ因リテ生シタル損害ノ歸屬如何ハ實際ニ於テ屢々生スル問題ニシテ最モ重要ナルモノナリ我商法ハ其衝突カ雙方ノ船員ノ過失ニヨリテ生シ而モ其過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサル場合ニ付キテノミ一

條ノ規定ヲ設ケ雙方ノ船舶所有者平分シテ之ヲ負擔スヘキモノトス（第六百五十條）

第五款　船舶債權者

商法ハ一定ノ船舶債權者ニ特種ノ先取特權ヲ與ヘ以テ其債權ヲ保護セリ而シテ其規定スル所ハ優先權ヲ以テ保護ヲ受クヘキ債權ノ種類船舶先取特權者相互間及他ノ先取特權トノ優先順位、優先權ノ消滅原因等ニ關ス（第六百八十條以下）登記シタル船舶ハ不動產ノ抵當權ニ關スル規定ニ準シ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得（第六百八十六條）ルト同時ニ之ヲ質權ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノトス（第六百八十八條）

第七章　民事訴訟法

法ニ實體法ト形式法トノ區別アルコトハ既ニ述ヘタリ（總論第九章第四節參照）民事訴訟法ハ其ノ所謂形式法ニ屬シ私法ヲ適用スルカ爲メノ方式ヲ定メタルモノナリ

凡ソ公權ト私權トヲ問ハス苟モ權利ノ侵犯アレハ必スヤ之カ救濟ノ途ナクンハアラス而シテ權利ノ侵犯ニ對シ救濟ヲ與フル所ノモノハ國家タルコト勿論ニシテ民事訴訟法ハ私權ヲ侵害セラレタリトスル者ニ對スル國家ノ救濟ニ關スル手續ヲ規定シタルモノナリ是ヲ以テ民事訴訟法ハ公法ナリヤ私法ナリヤハ一時大ニ爭ハレタル所ナリシモ今日ニ於テハ之ヲ公法ナリトスルニ何人モ異義ヲ挾ムモノナシ所謂權利保護ノ任ニ當ル所ノ國家機關ヲ裁判所トス裁判所ノ行フ所ノ國家行爲ハ立法及行政ニ對シテ司法ト云フ

第一節　裁判所（本論第二章參照）

裁判所ニ通常裁判所ト特別裁判所トアリ通常裁判所ハ民事刑事ヲ裁判スル裁

判所ヲ云ヒ特別裁判所ハ特別ノ事件又ハ特別ノ當事者ニ對シ若クハ特別ノ事情ニ由リ通常裁判所ニ於テ裁判ヲナサシムルヲ適當トセサル場合ニ設ケタル裁判所ナリ行政裁判所軍事裁判所ノ如キハ特別裁判所ニ屬ス

裁判所カ訴訟事件ニ就キ裁判ヲ爲ス權限ヲ有スルコトヲ裁判所ノ管轄ト云フ裁判所ノ管轄中訴訟物ノ性質事件ノ種類ニ由ルモノヲ事物ノ管轄ト稱シ裁判權ヲ行フヘキ範圍ヲ土地ノ區域ニ由リテ定ムルモノヲ土地ノ管轄ト云フ事物ノ管轄トシテ區裁判所ニ於テハ輕微ナル事件又ハ迅速ヲ要シ簡易手續ニヨルコトヲ便トスル事件ヲ第一審トシテ管轄シ（裁判所構成法第十四條以下）地方裁判所ハ第一審トシテ區裁判所ノ權限ニ屬セサル民刑事件第二審トシテ區裁判ノ裁判ニ對スル控訴及抗告ニ付キ裁判權ヲ有ス（裁判所構成法第二十七條以下）

控訴院ハ地方裁判所ノ第一二審裁判ノ上訴ニ就キ大審院ハ控訴院ノ裁判ニ對スル上訴ニ就キ裁判ヲ爲ス權限ヲ有ス（裁判所構成法第三十七條以下）

土地ノ管轄ハ一ニ之ヲ裁判籍ト稱シ原則トシテ被告人ノ住所ニヨリテ定メラレ（第十條）尚幾多ノ例外裁判籍ヲ定メ（第十條以下）原告ノ選擇ヲ許ス（第二十五條）裁判所ノ管轄

ニ專屬ナルモノト否ラサルモノトアリ專屬管轄ニ屬スルモノハ原告ノ選擇權ナキハ勿論當事者ノ合意ニ依ル管轄ノ變更ヲモ許ササルモノトス（第二十九條以下）

區裁判所ハ所謂單獨制ニ則リ總テ一人ノ判事ニテ審理裁判ヲ爲シ其ノ他ノ裁判所ハ合議制ニ因リ地方裁判所ハ三人、控訴院ハ五人、大審院ハ七人ノ判事ヲ以テ審理裁判ヲ爲ス

裁判官カ其ノ職務ヲ行フニ方リテハ常ニ必ス公平ヲ維持シ其ノ間寸毫ノ私意ヲ挾ムヘカラス是ニ於テカ判事及裁判所書記ニ對スル除斥及忌避ノ制度アリ除斥トハ訴訟當事者ト一定ノ關係アル判事ハ法律上當然其ノ事件ニ關與スヘカラサルヲ云ヒ忌避トハ訴訟當事者ノ中立ニ因リ不公平ノ裁判ヲ爲ス惧アル判事ヲ其事件ノ裁判ヨリ排斥スルヲ云フ（第三十二條以下）

第二節　訴訟當事者

訴訟當事者トハ訴訟法上ノ權利ノ主體タルヘキ者ヲ云フ私權ヲ害セラレタリトシテ國家ノ救濟ヲ要求スルモノヲ原告ト云ヒ權利ヲ侵害シタリトシテ訴ヲ受クル者ヲ被告ト云フ此等ノ者ヲ主タル當事者ト稱シ主タル當事者ノ外ニ主參加人（第五十條）從參加人（第五十條）ヲ從タル當事者トシテ說明ス總テ私法上ノ權利ノ主體トナルコトヲ得ル者ハ訴訟法上當事者能力ヲ有ス然レトモ當事者タルノ能力ヲ有スル者必スシモ訴訟能力ヲ有スルニアラス訴訟能力トハ自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ他人ニ委任シテ之ヲ爲サシムル能力ヲ云フ訴訟能力ニ就テハ民法行爲能力ノ規定ニ從フヘキ旨ヲ定ム（第四十三條）隨テ民法上完全ナル行爲能力ヲ有スル者ニ限リ訴訟能力ヲ有スト稱シテ差支ナシ我法律上民事訴訟行爲ハ當事者自ラ之ヲ爲スヲ原則トス（當事者訴訟主義—辯護士訴訟主義ニ對ス）

只他人ヲシテ代リテ訴訟ヲ爲サシムル場合ニハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ノ外必ス辯護士ヲ以テ之ヲ爲ササル可カラス（第六十三條以下）訴訟費用ハ原則トシテ敗訴ノ當事者之ヲ負擔スヘキモノトス（第七十三條以下）

第三節　訴訟手續

廣義ニ所謂訴訟手續中ニハ判決ヲ爲ス訴訟手續ト强制執行手續ノ二ヲ含ム判

決ヲ爲ス訴訟手續ハ訴訟當事者ノ相爭フ所ノ權利關係ニ對シ威力アル裁判所ノ宣言ヲ與フル手續ニシテ强制執行手續ハ確定判決若クハ其他ノ執行名義ノ旨趣ニ從ヒ公力ニ依リ義務者ヲ强制シテ義務ヲ盡サシムル手續ヲ云フ爰ニ訴訟手續トハ專ラ前者ニ關ス我民事訴訟法ハ訴訟ニ付キ心證自由ノ主義ヲ採リ不干涉主義ヲ採リ口頭辯論主義ヲ採レリ心證自由主義トハ各當事者ノ主張スル事實ヲ眞實ナリト認ムルニ於テ裁判官ノ自由ナル心證ニヨリ判斷セシムルヲ云ヒ(第二百十七條)法律ヲ以テ證據ヲ制限スル所謂法定證據主義ニ對ス不干涉主義トハ訴訟關係ヲ明確ニスルニ必要ナル事項ハ當事者ノ申立若クハ陳述シタルモノニ限リ裁判所カ進ンテ職權ヲ以テ申立又ハ陳述以外ノ事項ニ立チ入ラサルヲ云フ換言スレハ當事者カ提出シタル訴訟材料ノミニヨリ判斷スル方法ナリ口頭辯論主義ハ書面審理主義ニ對シ裁判官カ直接ニ訊問シ其ノ心證ニヨリテ裁判ヲ爲ス主義ナリ(第百三條)此等ノ各主義ノ利害得失ハ社會ノ狀態、人文開明ノ程度如何ニ顧ミテ取捨スヘキモノニシテ一概ニ何レヲ是トシ何レヲ非トスルヲ得サルモノトス尙我訴訟法ノ採ル所ハ上ノ如クナルモ固ヨリ何レモ多少ノ例外アルコトヲ知ラサル可カラス

訴訟手續ニ通常訴訟手續ト特別訴訟手續トアリ通常訴訟手續ハ通常ノ場合ニ適用セラルヘキ手續ニシテ特別訴訟手續ハ手續ヲ簡易ナラシメ若クハ事件ノ迅速ヲ圖ル必要アル場合ニ適用セラルル手續ナリ

第一款　通常訴訟手續

第一項　第一審ノ訴訟手續

第一審トシテ區裁判所ノ訴訟手續ト地方裁判所ノ訴訟手續トハ各個ノ場合ニ於テ差異アリテ存ス爰ニハ主トシテ地方裁判所ニ於ケル手續ニ就テ述ヘントス蓋シ地方裁判所ノ訴訟手續ハ訴訟手續ノ原則トモ稱スヘキモノナレハナリ

訴ハ原告ヨリ訴狀ヲ裁判所ニ提起スルニ因リテ始マル訴狀ヲ提起シテ裁判所ニ權利ノ保護ヲ求ムルノ權利ヲ訴權ト云フ訴權ハ常ニ必スシモ實體上ノ權利ニ伴フヲ須ヒス實體上ノ權利ナキモノト雖モ自ラ權利アリト信スル場合ニハ訴ヲ提起スルヲ妨ケス訴狀ノ提起ニヨリ裁判所ハ事件ニ付キ裁判ヲ爲スノ責務ヲ生

シ被告ニ應訴ノ義務ヲ生ス此狀態ヲ權利拘束ト云フ但我訴訟法ハ權利拘束ハ訴狀ヲ被告ニ送達スルヲ以テ始マルノ主義ヲ採レリ（第百九十五條）

權利拘束ノ效力トシテ（一）當事者ハ同一ノ訴訟ノ目的ニ就キ他ノ裁判所ニ於テ訴ニ應スルヲ要セス（權利拘束ノ抗辯）（二）原告ハ被告ノ承諾ナクシテ訴ヲ變更スルコトヲ得ス（三）受訴裁判所ヲ確定シ（以上第百九十五條）被告ノ反訴ヲ爲ス事ヲ得ル時期ヲ定ム（第二百條）權利拘束ハ訴ノ取下、判決ノ確定、和解、拋棄、認諾等ニヨリテ消滅ス

訴狀ハ一定ノ形式ニ依ラサル可ラス（第百九十條）訴狀ノ要式ヲ缺クトキハ訴ノ效力ナシ（區裁判所ニアリテハ口頭ニテ訴ヲ爲スコトヲ得）（第三百七十四條）準備書面（第百三十條以下）ハ原告ニ於テ之ヲ提出セサルモ訴狀ノ要件ヲ缺クモノニアラスト雖モ之カ爲ニ訴訟ノ遲滯ヲ生シ且之ニ伴フ訴訟費用ヲ負擔セシメラルル不利アリ被告カ訴狀ノ送達ヲ受ケタル場合ニ差出スヘキ答辯書亦同シ（第百九十九條）裁判所ハ訴狀ノ送達ヨリ一定ノ期間ヲ隔テ口頭辯論期日ヲ定メ（第百九十四條）當事者ヲ呼出ス我法律ハ口頭辯論ニ於テ訴訟手續ニ段落ヲ設ケス故ニ當事者ハ口頭辯論ノ始ヨリ終ニ至ルマテ何時ニテモ一切ノ攻擊防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ヘシ（第二百九條）只妨訴ノ抗辯ハ一定ノ時期ニ於テ之ヲ提出セサル可ラサルモノトス（第二百六條）裁判所ハ常ニ裁判ノ進行終決ニ注意スヘキモノニシテ必要ノ場合ニハ訴ノ併合（第百十條）分離（第百十八條）及辯論ヲ一部ニ制限スルコトヲ得（第百十九條）

當事者ハ訴訟進行中ニ於テ訴ヲ處分スル權利アリ即チ原告ハ訴ヲ取下ケ又ハ請求ヲ拋棄スルコトヲ得ヘク被告ハ原告ノ請求ヲ認諾スルコトヲ得又當事者雙方ニ於テ和解ヲ爲スコトヲ得ヘシ

訴ノ取下ハ原告カ訴ヲ提起シテ求メタル裁判ヲ受クルノ權利ヲ拋棄スルコトヲ云フモノニシテ請求ノ拋棄ノ如ク實體上ノ權利マテモ拋棄スルモノニアラサルカ故ニ二者ヲ混同スヘカラス又被告ノ認諾ハ之ヲ裁判上ノ自白ト混スヘカラス自白ハ單ニ相手方ノ事實上ノ主張ヲ眞實ナリトスル意思表示ニ止マリ認諾ハ相手方ノ起シタル請求ヲ全然承認スルモノナリ

被告カ原告ノ請求ヲ爭フ場合ニ於テハ裁判所ハ之カ審理ヲ爲ササル可ラス此場合ニ於テ各當事者ハ其主張ヲ維持センカ爲メニ各個ノ證據方法ヲ提出スルコトヲ得ヘク裁判所ハ之ニヨリテ證據調ヲ爲スヘキモノトス訴訟法ニ於テ認メラ

ルル證據方法ハ(一)人證(二)鑑定(三)檢證(四)書證(五)當事者本人ノ訊問ノ五トス

裁判所ハ當事者ノ申立、攻擊防禦ノ方法殊ニ證據調ノ結果ヲ綜合シテ裁判ヲ爲ス裁判ニ判決、決定、命令ノ三アリ判決ハ裁判所カ必要的口頭辯論ニ基キ訴訟法上及實體法上ノ權利ノ正否ニ關シ宣言スル所ノ意思表示ニシテ決定ハ判決以外ノ裁判所ノ宣言ヲ云フ命令ハ訴訟ノ指揮ニ關スル裁判長、受命判事、受託判事ノ爲ス宣言ナリ請求ノ全部若クハ一部ニ付テ下シタル判決ニシテ其ノ裁判シタル部分ニ付キ訴訟事件ヲ其ノ審級ニ於テ完結スルモノヲ終局判決ト稱シ終局判決ヲ爲スノ準備トシテ或爭點ニ付キ爲ス所ノ判決ヲ中間判決ト稱ス

當事者ノ一方カ口頭辯論期日ニ出頭ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ出頭シタル相手方ノ申立ニヨリ闕席判決ヲ爲ス(第二百四十六條以下)闕席判決ニ對シテハ一定ノ條件ヲ以テ故障ヲ申立ツルコトヲ得(第二百五十五條以下)

第二項　上訴審ノ訴訟手續

第一審裁判所ノ裁判ニ對シテ不滿足アル當事者ハ更ニ上級裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ蓋シ裁判官ト雖モ必シモ常ニ錯誤又ハ過失ナシト云フヲ得ス是ヲ以テ一ハ當事者ノ利益ノ爲メ一ハ裁判ノ統一ヲ圖ランカ爲メニ上訴ノ制度ヲ認メタルモノナリ然レトモ當事者ノ滿足セサル裁判ニ對シ際限ナキノ不服申立ヲ許スヘキニ非サルヲ以テ審級ハ之ヲ第三審ニ限レリ(抗告ニ付テハ例外ナリ)

注意スヘキ一事アリ民事訴訟ハ私權保護ヲ其ノ目的トスルカ故ニ假令第一審裁判ニ不當アルモ國家カ進ンテ上訴ヲ起スモノニ非ス只當事者ニ不滿足アル場合ニ限リ其ノ申立ニヨリ裁判ヲ爲スヘキモノトス

上訴ヲ分チテ控訴、上告、抗告ノ三トス控訴及上告ハ終局判決ニ對スル不服申立ノ方法ニシテ抗告ハ決定命令ニ對シ特ニ許サレタル場合ニ限リ爲シ得ル上訴方法ナリ

第一　控訴

控訴ハ未確定ナル第一審裁判ニ對シ法律點及事實點ニ不服アル當事者ヨリ一箇月ノ不變期間内ニ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲ス(第四百一條)控訴提起ノ效力トシテ學者ハ移審ノ效力、停止ノ效力ヲ説明ス移審ノ效力トハ控訴申立

ニヨリテ第一審裁判所カ判決シタル訴訟ノ全部ヲシテ第一審裁判所ヲ離脱シ控訴裁判所ニ繫屬セシムルヲ云ヒ停止ノ效力トハ第一審判決ノ形式的確定力即チ上訴スヘカラサルニ至ル狀態ヲ停止スルコトヲ云フ

元來控訴ハ第一審裁判ノ當否ヲ批判スルモノニアラスシテ事件全體ニ付キ新タニ審理裁判スルモノナリ是ヲ以テ當事者ハ第一審ニ於テ主張セサリシ攻擊防禦ノ方法及新ナル事實及證據方法ヲ提出スルコトヲ得ヘク第一審ニ於テ爲ササリシ陳述及拒ミタル陳述モ亦此ヲ爲スコトヲ得但シ二者同一ノ訴訟ニシテ全ク別個ノモノニアラサルカ故ニ第一審ニ爲シタル訴訟行爲ハ控訴審ニ於テ全然其效力ヲ失フモノニアラス且其ノ審理裁判ハ不服ノ申立ニヨリテ定マリタル範圍ニ限ラル（第四百十二條乃至第四百十八條）

爰ニ注意スヘキハ控訴審ニ於テハ控訴人ノ不利益ニ前判決ヲ變更スルコトナシ（第四百十五條二）否ラサレハ控訴ハ控訴人ノ爲メ非常ニ危險ナルモノトナリ却ツテ權利伸張ノ途ヲ防クノ結果ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ

第二　上告

上告ハ第二當ノ判決カ法律ニ違背シタルコトヲ主張スル當事者ヨリ上級裁判所ニ上告狀ヲ差出シラ之ヲ爲ス（第四百三十四條第四百三十八條）上告モ亦此レニヨリテ移審ノ效力及停止ノ效力ヲ生ス只上告裁判所ニ於テハ常ニ法律點ニ付テノミ審理スルモノニシテ事實點ニ付テハ控訴裁判所カ憑據ト爲シタルモノヲ標準トス（第四百四十六條）此ノ如ク上告裁判所ハ事實ノ審理ヲ爲ササルノ結果トシテ上告ヲ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀シ事件ヲ原控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ト同等ナル裁判所ニ移送スルモノトス（第四百四十八條）但シ事實ノ審理ヲ要セサル場合ニ於テハ直ニ自ラ裁判ヲ爲スコトアリ（第四百四十一條）

上告審ニ於テハ地方裁判所ノ訴訟手續及控訴審ノ訴訟手續ノ一部ヲ準用ス（第四百四十四條第四百五十四條）

第三　抗告

抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判其ノ他法律ニ於テ特定シタル裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得（第四百五十五條）

抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ直近上級裁判所ノ管轄

ニ屬ス而シテ抗告人ハ不服ヲ申立ラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲スヘキモノトス但シ急迫ナル場合ニ限リ直接抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得尙ホ抗告ハ訴訟當事者以外ノ者ト雖モ之ヲ爲シ得ル場合アリ

抗告ハ移審ノ效力ヲ生スルモ停止ノ效力ヲ生セサルヲ原則トス不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ不服ノ點ヲ更正スルコトヲ得（第四百五十六十九條）

抗告裁判所ノ裁判ニ新ナル抗告理由ヲ生シタルトキハ審級ニ制限ナク更ニ上級裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得普通ノ抗告ニ付テハ抗告期間ナキモ即時抗告ト稱セラルル所ノモノハ必ス七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ササル可カラス

第三項　再審手續

判決ハ上訴期間ヲ經過スルト同時ニ確定シ復動カス可ラサルモノトナル蓋シ判決ニ對シ際限ナク不服ヲ申立ツルコトヲ得セシムルトキハ徒ラニ權利關係ヲ永ク未確定ナラシムルノミニシテ決シテ秩序ヲ維持スル所以ニアラス是ヲ以テ法律ハ常ニ上訴期間ヲ定メ期間内ニ上訴ヲ爲ササルトキハ權利關係ヲ確定セシム然リト雖モ判決ニシテ重大ナル法律ノ違背アリ又ハ重大ナル事實ノ認定ニ錯誤アル場合ニ尙判決ノ確定シタル故ヲ以テ如何トモスヘカラスト爲スハ權利者ヲ保護スル道ニ於テ缺クル所ナシトセス是ヲ以テ法律ハ確定判決ニ對シテモ重大ナル一定ノ事由アル場合ニ限リ更ニ裁判所ノ審理裁判ヲ仰クコトヲ得セシム之ヲ再審ト云フ

再審ニ原狀回復ノ訴ニ依ルモノト取消ノ訴ニ依ルモノトアリ取消ノ訴ハ判決カ訴訟手續ニ違背シタルコトヲ理由トスルモノニシテ（第四百六十八條）原狀回復ノ訴ハ確定判決ノ基本トナリタル實體上ノ事實ニ不法アルコトヲ理由トスルモノナリ（第四百六十九條）

再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス（第四百七十二條）是レ再審カ上訴ト異ナル所以ノ一ナリ

再審ヲ求ムル訴モ亦訴狀ヲ管轄裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス（第四百七十五條）

再審ハ新ニ事件ヲ審理スルモノニ非ス上訴ト同シク曩ニ繫屬シタル訴訟ノ一部ニシテ不服ノ申立テアリタル判決ノ當否ヲ審査判斷スルモノナリ而シテ再審ノ手續ハ再審ノ訴ヲ受ケタル裁判所ノ一般ノ訴訟手續ニ關スル規定ニ準據スヘキモノトス（第四百七十三條）

第二款　特別訴訟手續

第一項　督促手續

督促手續トハ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ債權者ヨリ通常ノ訴訟手續ニヨラスシテ簡易ナル方法ヲ以テ債權ノ執行ヲ爲サシムル手續ナリ蓋シ此等ノ債權タル通常權利關係ニ付テハ爭ナキニ拘ハラス債權者カ其履行ヲ爲ササル場合多ク而モ常ニ之レヲシテ一々通常手續ニ依ラシムルカ如キハ徒ラニ時間ト手數ト費用トヲ要スルノミニシテ得ル所ナシ是ヲ以テ法律ハ此場合ニ於テ債權者ニ簡易手續ニヨリ條件付ノ支拂命令ヲ債務者ニ對シテ發センコトヲ申立ツルコトヲ得セシム之ヲ督促手續ト云フ

支拂命令ハ債務者ニ對シ債務ヲ履行スヘキコトヲ命シ若シ其ノ債務ヲ認メサルトキハ一定ノ期間内ニ其ノ命令ニ對シテ異議ヲ申立ツヘキコトヲ命スルモノナリ（第三百八十六條）

支拂命令ヲ發センコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得而シテ此ノ手續ハ事物ノ管轄ニ關係ナク通常訴訟手續ニ於ケル訴ノ提起ニ付キ普通裁判籍ノ屬スヘキ區裁判所ノ管轄ニ屬ス（第三百八十三條）

支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキハ期間後裁判所ハ債權者ノ申立ニヨリ之ヲ假ニ執行シ得ヘキコトヲ宣言ス（第三百九十三條）此ノ假執行ノ命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ト同一ニ取扱ハレ隨テ闕席判決ノ規定ニ隨テ故障ヲ申立ツルコトヲ得（第三百九十四條）

第二項　證書訴訟、爲替訴訟

一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的ト

スル請求ニシテ此ニ關スル證書ヲ債權者カ占有シ且ツ請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニヨリ證スルコトヲ得ルトキハ多クノ場合訴求者ニ權利ノ存在スルコトヲ推定シ得ヘシ此等ノ場合ニ於テ原告ノ請求ヲ簡易ナル方法ニ由リ迅速ニ審理シ權利ノ執行ヲ速ナラシムルハ私權ヲ保護スル上ニ於テ緊切ノ事ニ屬ス證書訴訟爲替訴訟ハ此ノ趣旨ニ由リテ設ケラレタル制度ナリ

此ノ如ク證書訴訟ハ迅速ニ權利ノ執行ヲ得セシメンカ爲ニ特ニ證據方法ヲ證書ニノミ限リタルモノニシテ原告被告共ニ只證書ニ據リテノミ權利ノ存在ヲ爭フコトヲ得ルモノトス（第四百八十四條）

證書訴訟ノ訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケテ之ヲ爲ス（第四百八十五條）

第八章　刑事訴訟法

刑事訴訟法ハ國家カ刑法上ノ犯人ニ對シ刑罰權ヲ實行シ又ハ實行セントスルニ當リ法律適用ノ爭議ニ關シ判事、檢事被告等ノ遵據セサルヘカラサル所ノ形式法ニシテ公法ニ屬スルモノナリ故ニ刑事訴訟法ハ刑法ニ對スル形式法タルコト恰モ民事訴訟法カ民法ニ對スル形式法タルカ如シ故ヲ以テ裁判所構成法ニ於テモ亦刑事裁判所ノ組織及ヒ其ノ職務權限ト民事裁判所ノ組織及ヒ其ノ職務權限トヲ相對立セシメテ規定セルコトハ前章ニ於テ既ニ述フル所而シテ刑事訴訟法ト民事訴訟法ト異ナル主要ノ點ハ前者ハ國家カ公法上國家主權ノ侵害者ニ對シ刑罰權ヲ實行セントスルヲ以テ訴訟ノ目的トシ其ノ訴訟當事者ノ權利義務ノ變更ヲ許ササルヲ以テ原則トナスモ後者ハ之ニ反シ私人カ私法上私權ノ侵害者ニ對シ之カ回復ヲ請求スルヲ以テ訴訟ノ目的ト爲シ其ノ訴訟當事者間ノ權利義務ノ變更ヲ許スヲ以テ原則ト爲ス即チ一ハ强制法ニシテ他ハ任意法ナリ

斯ノ如ク刑事訴訟法ト民事訴訟法トハ其ノ法性ニ於テ同一ナルニ拘ハラス其

訴訟ノ目的ヲ異ニスルノ結果訴訟ノ開始、進行及ヒ終了ニ關シ異ナル點ヲ生スルヲ以テ是ヨリ以下順次ニ之ヲ略述セン

第一節　裁判所ノ管轄

刑事裁判所ノ管轄ハ民事裁判所ノ管轄ノ如ク事物ノ管轄ト土地ノ管轄トニ大別スルコトヲ得乃チ事物ノ管轄トハ犯罪ノ種類、刑ノ輕重、犯人ノ身分、犯罪ノ目的等ニ因リ定マル所ノ裁判管轄ニシテ土地ノ管轄トハ事物ノ管轄ヲ有スル裁判所ノ有スル裁判權實行ノ地理的限界ヲ謂フ而シテ事物ノ管轄ニ付テ衝突アリタル場合例ハ管轄ヲ異ニスル數個ノ犯罪ニ付キ同一ノ被告ニ對シ訴アリタル場合ニハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スヘク又土地ノ管轄ニ付テ衝突アリタルトキ例ハ一犯罪事件カ數個ノ土地ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ其ノ中ニテ最初ニ豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所之ヲ管轄スヘキモノトス（刑事訴訟法第二十五條第二十七條第二十八條）

第二節　裁判所職員ノ除斥忌避及ヒ回避

刑事訴訟法ハ民事訴訟ト同一法理ニ由リ裁判ノ公正無私ヲ計ル爲メ判事カ犯罪事件ニ付キ特別ナル關係ヲ有スルトキ例ハ判事カ被害者ナルカ如キ又ハ判事又ハ其ノ配偶者ト被告人被害者又ハ此等ノ者ノ配偶者ト親族ナルカ如キ場合ニハ其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セシメス又判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スヲ疑フニ足ル可キ狀況アル場合ニ於テハ檢事其他ノ訴訟關係人ハ之ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ忌避ノ原因ヲ疏明シテ忌避ノ申請ヲ爲スコトヲ得（刑事訴訟法第四十一條乃至第四十二條民事訴訟法第三十四條乃至第三十八條）然レトモ忌避ノ原因中特ニ偏頗ノ恐アル場合ノ忌避ニ付テハ原告若クハ被告カ其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ其ノ判事ニ對シ忌避ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス（刑事訴訟法第四十二條民事訴訟法第三十四條）而シテ判事ニ於テ若シ主觀的ニ除斥ノ原因ヲ有スルコト又ハ己ノ裁判ニ加入スルトキハ該裁判ノ公正無私ヲ破ルヘキコトヲ自覺シタルトキハ忌避申請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

要スルニ除斥トハ裁判所ノ職權ヲ以テ裁判ニ特別關係ヲ有スル判事ヲ退去セ

シムルモノニシテ忌避ハ檢事其ノ他ノ訴訟關係人ヨリ裁判ニ特別關係ヲ有スル判事ヲ裁判ヨリ退去セシメンコトヲ裁判所ニ請求スルモノナリ而シテ回避ニ至リテハ裁判ニ特別ノ關係ヲ有スル判事自ラ責ヲ負フテ裁判ヨリ退去センコトヲ請求スルモノナリトス（前章對照）

除斥、忌避、回避ニ關スル此等ノ規定ハ獨リ判事ノミナラス裁判所ノ書記ニモ亦準用セラル（刑事訴訟法第四十五條）

第三節　犯罪ノ捜査

檢事ハ告訴、告發、現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ先ツ公訴ヲ提起スルニ先チテ事實上ノ憑據アルヤ否ヤ即チ被嫌疑者ハ眞ノ犯人ナリヤ又其ノ所爲ハ犯罪所爲ナルヤ又通常裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ナルヤ否ヤ等ヲ識別スルノ必要アリ故ヲ以テ刑事訴訟法ハ檢事ニ對シ此等ノ問題ヲ自由ニ審明スルノ權利ヲ附與セリ捜査ナルモノ即チ是レナリ而シテ警視總監及ヒ地方長官モ亦各其ノ管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有シ警視、警部警部補、憲兵將校、下士、島司、郡長、林務官、市町村長、船長等ハ檢事ノ補佐トシテ捜査權ヲ實行スルコトヲ得ルモノトス（第四十六條第四十七條第四十八條）

第一款　告訴及告發

告訴トハ被害者自ラ犯罪者ヲ犯罪ノ地又ハ犯罪者所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ申告スルヲ云ヒ告發トハ被害者以外ノ者カ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキ其ノ犯罪事實又ハ其ノ犯罪ニ對スル自己ノ思考ヲ被告人所在ノ地若ハ犯罪地ノ檢事又ハ司法警察官ニ申告スルヲ謂フ而シテ告訴又ハ告發ヲ爲ス者ハ犯罪ニ對スル證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事項ヲ署名捺印シタル書面又ハ口述ヲ以テ申告セサルヘカラス然レトモ若シ告訴又ハ告發カ告訴人告發人ノ惡意ニ出テタルトキハ被告訴人、被告發人カ他日免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル際告訴人又ハ告發人ニ對シ誣告犯ノ訴ヲ提起シタル場合ニ誣告罪ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス又縱令善意ニ因リ告訴又ハ告發ヲ爲シタル場

合ト雖モ重過失ニ出テタル時ハ民法上ノ損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルヤ勿論ナリ（第十三條第十四條第十九條乃至第五十五條）

第二款　現行犯及準現行犯

刑事訴訟法第五十六條及ヒ第五十七條ニ依レハ現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ云ヒ準現行犯トハ第一、犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルルトキ第二、兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ第三、家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ戶主ヨリ官吏ニ處分ヲ求メタルトキヲ謂フト規定セリ

抑モ刑事訴訟法カ特ニ現行犯ニ對スル規定ヲ認メタル理由ハ犯罪事件ニ對シ急速ノ處分ヲ爲スニアラスンハ犯人カ逃亡シ又ハ證據ノ湮滅センコトヲ恐レタルニ出テタルモノトス然レハ司法警察官、巡査、憲兵卒其他何人ヲ問ハス現行犯アルコトヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スルコトヲ得ルモノトス（第五十六條乃至第六十一條）

第三款　起訴

起訴トハ檢事カ犯罪事件ノ搜査ヲ終リ十分ナル犯罪事實ノ證據ヲ得タルトキ更ニ進ンテ豫審判事ニ豫審ヲ求メ又ハ豫審ヲ求メスシテ直ニ公判判事ニ訴追スル所ノ行爲ヲ謂フ（六十二條第二百十二條第二百三十五條）而シテ我國ニ於テハ起訴ニ關シ原則トシテ任意主義即チ檢事カ其ノ自由意思ニ因リ犯罪事實ノ如何ニ拘ハラス起訴シ又ハ起訴セサルコトヲ得ルノ主義ヲ捨テ勵行主義即チ檢事カ犯罪事實ノ根據ヲ得タルトキハ自己ノ便宜又ハ事情ヲ顧ミルコトナク直ニ起訴セサルヘカラサルノ主義ヲ採用セリ（第六十二條乃至第六十六條第二百十二條第二百三十五條第二百三十六條）

第四節　豫審

豫審ハ公訴ノ提起ニ依リ開始セラルヘキ犯罪審理ノ一部ニシテ原告、被告及ヒ裁判所ヨリ成ル三面的訴訟關係ナリ而シテ豫審ノ目的トスル所ハ被告人ノ犯罪

所爲ヲ更ニ進ンテ公判ニ付シ其ノ證據調ヲ準備スヘキヤ將タ被告人ヲ免訴シ訴訟關係ヲ終了スヘキヤヲ決定スルニ必要ナル程度マテ犯罪事實ノ下調ヲ爲スニ在リ此故ニ豫審ニ於テハ此ノ目的ヲ達スル爲メニハ物件ノ搜索、差押、被告人ノ拘引、拘留、證人、鑑定人、被告人ノ訊問、證書ノ利用、檢證處分ノ如キ殆ント總テノ審理行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ我カ刑事訴訟法ハ此等ノ審理處分ニ對シ自由心證主義即チ凡テノ方面ヨリ輳合シタル犯罪事實カ果シテ被告人ニ對シ有罪ヲ宣告スルニ足ルヤ否ヤハ判事ノ自由ナル一心ニ任ストノ主義ヲ採用セリ（第十九條）然レトモ豫審判事ハ濫リニ此ノ自由心證主義ヲ暴用シ以テ檢事ノ指定シタル被告人及其ノ所爲ノ範圍ヲ超越スルコト能ハス是レ我國ノ法律カ糺問主義即チ訴ノ提起ナシト雖モ裁判官ニ對シ何人カ犯罪ヲ行ヒタルヤヲ自由ニ搜査審理スルコトヲ許スノ主義ヲ捨テ彈劾主義即チ原告ノ提起シタル訴ニ限リテ判決ヲ爲スコトヲ許ス所ノ主義ヲ採用シタル當然ノ結果ナリ（第六十七條第百八十四條）

第一款　召喚狀、拘引狀、拘留狀

召喚狀トハ豫審判事カ檢事ノ起訴ニ因リ犯罪事件ヲ受理シタルトキ被告人ニ對シ裁判所ニ出頭スヘキコトヲ命スル令狀ニシテ拘引狀トハ（イ）召喚狀ヲ受ケタル被告人其ノ日時ニ出頭セサルトキ（ロ）被告人定リタル住所アラサルトキ（ハ）被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ（ニ）被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其ノ目的ヲ遂ケントスル恐アル等ノ場合ニ於テ被告人ヲ裁判所ニ引致スル爲メニ發スル令狀ナリ而シテ拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキ又ハ被告人逃亡シタル場合ニ於テ裁判所ニ拘留スル爲メニ發スル令狀ナリ（第六十九條第七十一條）而シテ此等ノ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ之ヲ發スル年月日ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記之レニ署名捺印シタル後召喚狀ハ執達吏之ヲ被告人ニ送達シ拘引狀、拘留狀ハ巡査、憲兵卒之ヲ執行スヘキモノトス（第七十四條第七十七條乃至第八十六條）

第二款　被告人ノ訊問

被告人ノ訊問ハ證據調ノ一方法ニシテ其ノ目的トスル所ハ豫審判事カ犯罪事

件ニ關シ被告人ヲシテ自己ノ犯罪行爲ニ對シ利益又ハ不利益ト爲ルヘキコトヲ自由ニ供述セシメ是ニ因テ其ノ心證ヲ形ラントスルニアリ舊時ノ糺問訴訟ニ於テハ被告人ノ自白ハ他ノ總テノ證據ヲ無效トナストノ原則ヲ認メタリ然レトモ此ノ原則ハ不當ナルノ甚タシキモノナリ凡ソ法理上被告人ニ不利益ナル供述即チ自白モ被告人ニ利益ナル供述モ共ニ被告人ノ供述ナリ若シ夫レ被告人ノ單純ナル自白ヲ根據トシ有罪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ヘシトセハ其ノ危險ヤ恐ルヘク訴訟法存在ノ必要ヲ發見スルコトヲ得ス故ヲ以テ我刑事訴訟法ハ第九十四條ニ於テ被告人ヲシテ其ノ罪ヲ自白セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用フヘカラスト規定シ更ニ同法第百九十八條ニ於テ裁判長ハ各證憑ノ取調ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且利益トナルヘキ證憑ヲ差出シ得ヘキコトヲ告知スヘシト規定シ以テ被告人ニ利益ナル供述モ亦訴訟法上重スヘキモノナルコトヲ表彰セリ（第九十三條乃至第百一條第百九十八條）

第三款　證人訊問

裁判所ハ犯罪事實ヲ明確ニスル爲メ犯人以外ノ第三者カ犯罪事實ヲ實檢シ又ハ實檢セシナラント推量スル時訊問ノ爲メ之ヲ呼出スコトヲ得此第三者ヲ名ケテ證人ト謂フ而シテ犯人以外ノ第三者カ法律上證人タルノ義務ヲ負擔シタルトキハ疾病其ノ他正當ノ事故ナキ限リハ指定セラレタル日時ニ指定セラレタル場所ニ出頭シ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘサルヘカラス若シ證人ニシテ此ノ責任ヲ果ササルトキハ罰金、拘引等ノ制裁アリ然レトモ(イ)民事原告人(ロ)民事原告人及ヒ被告人ノ親族(ハ)民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者(ニ)民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人(ホ)十六歲未滿ノ幼者(ヘ)知覺精神ノ不十分ナル者(ト)瘖啞者等ハ證人能力ヲ有セサルモノニシテ官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其ノ職務上默祕スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ又ハ醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人及ヒ宗敎禱祀ノ職ニ在ル者カ其業務上取扱ヒタル事ニ付キ知リ得タル事實ニシテ默祕スヘキモノニ關スルトキハ此等ノ者ハ其ノ事實ヲ疏明シ以テ其ノ證言ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノトス（第百十五條乃至第百三十四條）

第四款　鑑定人

鑑定人トハ裁判所カ犯罪事件ニ繫屬スル事實ニ關シ之ヲ檢査シ其ノ判斷ヲ徵シテ證據材料ヲ明確ニセントスルニ當リ之ニ對シ學術上又ハ職業上特別ノ智識ヲ有スルニ因リ刑事訴訟法上檢査及ヒ判斷ノ義務ヲ負擔セシメテ呼出サルル人ヲ謂フ而シテ鑑定人ノ能力及ヒ鑑定拒絶、鑑定人ノ制裁等ハ證人ニ關スル規定ト大同小異ナリ（第百三十五條乃至第百四十一條）

第五款　檢證、搜索及物件ノ差押

檢證トハ判事カ自己ノ智識ヲ以テ直覺的ニ犯罪事件ニ繫屬スル事實ノ存在ヲ知ランカ爲メニ行フ所ノ作用ニシテ搜索トハ判事カ犯罪ノ證據タルヘキ物件又ハ被告人ヲ發見センカ爲メ行フ所ノ作用ヲ云フ（第百二條乃至第百五條）而シテ差押ニ在リテハ前二者ニ比シ更ラニ積極的ノ手段ヲ以テ犯罪事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタル物件ヲ其ノ占有者ヨリ取去ルヲ謂フ然レトモ證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其ノ默祕スヘキ義務アル事情ニ關スルモノハ其者ノ承諾アルニアラサレハ之レヲ差押フルコトヲ得サルヤ勿論ナリ（第百六條乃至第百十四條）

第六款　保釋及責付

保釋トハ豫審判事カ豫審中拘留セラレタル被告人又ハ被告人ノ法律上代理人ヨリ保證金ヲ差出シ一時被告人ノ身體的自由ヲ與ヘラレンコトヲ請求セラレタルニ因リ之ヲ許可スルモノヲ謂フ然レトモ此ノ保釋ハ被告人ニ對シ拘留狀ノ效力ヲ消滅セシムルモノニアラスシテ一時其ノ執行ヲ停止スルノミナレハ被告人ハ裁判所カ被告人ノ出頭ヲ必要トスル時ハ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭セサルヘカラス若シ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ保證金ノ全部又ハ一部ハ沒收セラルルノミナラス保釋取消ノ言渡ヲ受ケサルヘカラス

責付トハ我邦古昔ノ五人組又ハ村預ノ制度ニ胚胎シタルモノニシテ其ノ保釋ト異ナル所ハ被告人ノ請求及ヒ保證金等ヲ要スルコトナク單ニ豫審判事カ檢事ノ意見ヲ聽キ其ノ親族又ハ故舊ニ對シ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲシテ出頭

セシムヘキ旨ノ證書ヲ差出サシメ被告人ノ身體ヲ依託スルヲ謂フ故ニ責付中ノ被告人呼出ヲ受ケタルトキ若シ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ責付ノ言渡ハ取消サルルモノトス（第百五十條乃至第百六十條）

第七款　豫審終結

豫審終結ハ糺問主義ニ近キ豫審ヨリ純然タル訴訟主義ニ據ル公判ニ移スヘキヤ否ヤヲ決定スル中間ノ手續ナリ我法律ニ依レハ豫審判事ハ被告事件其ノ管轄ニ非ラストシ又ハ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ豫審終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記錄ヲ送附セサルヘカラス而シテ豫審判事ハ此ノ訴訟記錄ニ對スル檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス豫審ノ終結ヲ爲ササルヘカラス而シテ被告人ニ對スル免訴ノ決定一旦確定シタルトキハ檢事ハ縱令罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ同一被告人ニ對シ再ヒ訴ヲ爲スコトヲ得ス規定シ以テ被告人ノ一身ヲ保證セリ尤モ被告人ニ對スル犯罪事情ノ變更アリタル場合即チ新ナル證憑ノ出テタルトキハ其ノ新事實ニ付キ起訴シ得ヘキヤ勿論ナリ（第百六十一條乃至第百七十五條刑法施行法第四十二條以下）

第五節　公判

公判トハ判事カ豫審終結又ハ直接ノ起訴ニ基ツキ裁判所ニ繫屬シタル事件ニ對シ國家刑罰權ノ有無及ヒ其ノ範圍ヲ審理裁判スル所ノ行爲ヲ謂フ

我カ刑事訴訟法ハ公判ニ關シ彈劾主義、公開主義、口頭辯論主義、直接審理主義等ヲ採用ス則チ彈劾主義トハ前ニ述ヘタルカ如ク訴追ノ問題ト裁判ノ問題トヲ分離シテ相異ナル官府ニ屬セシムルモノニシテ口頭辯論主義トハ裁判所及ヒ訴訟當事者トノ訴訟關係カ言語ヲ機關トシテ媒介セラルルモノナリ

我刑事訴訟法ニ於テハ民事訴訟法第百三條ノ如ク口頭辯論主義ヲ採用スルコトヲ明言セサルモ公判ニ關スル規定全體ノ上ヨリ推論シタル結果トシテ其ノ然ルコトヲ斷定シ得ヘシ公開主義トハ訴訟事件ニ對シ訴訟關係人以外ノ第三者ヲシテ介在セシムルヲ以テ其ノ主義ト爲スモノナリ我カ憲法ハ其ノ第五十九條ニ於テ裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開スヘキコトヲ規定シ以テ我刑事訴訟法カ原則ト

シテ此ノ主義ヲ採用セサルヘカラサルコトヲ表彰セリ直接審理主義トハ判事カ公判ニ於テ證據方法ヲ直接ニ自ラ利用シテ必要事實ノ存在ヲ知ルモノニシテ豫審判事ノ取調ニ基ク調書ニ依リテ判決セサルヲ其ノ主義ト爲スモノナリ以下公判ノ準備手續、公判審理ノ範圍及ヒ判決等ニ分テ説明ヲ爲サン（第百七十六條乃至第二百十一條）

第一款　公判審理ノ範圍

公判審理ノ範圍カ公訴ノ範圍ニ限定セラルルコトハ刑事訴訟法第百八十四條ニ之ヲ規定セリ即チ公判審理ノ範圍ハ檢事カ直接ニ公判ニ起訴シタル場合及ヒ豫審判事ヨリ事件ヲ公判ニ付シ又ハ移ス言渡アリタル場合是レナリ尤モ辯論ノ際發見セラレタル附帶ノ犯罪ニ付テハ公訴ナシト雖モ之ヲ審理裁判スルコトヲ得ヘシ（第百八十四條第二項第百八十五條）

第二款　公判審理ノ順序

公判審理ノ順序ニ關シテハ先ツ被告人ノ氏名年齡職業住所及出生ノ地ヲ問ヒ然ル後檢事ハ被告事件ニ付キ豫審終結ニ基ツキ又ハ起訴狀ニ揭ケタル所爲ヲ陳述スヘキモノナリ而シテ檢事ノ此ノ陳述終リタル後判事ハ被告人ニ對シ本案ニ付テ被告人ノ犯罪所爲ヲ訊問セサルヘカラス而シテ檢事ノ陳述ノ場合モ亦被告人ヲ訊問スル場合モ共ニ證人ノ在廷セサル所ニ於テ之ヲ爲スヲ原則トナス（第百十三條）檢事ノ陳述、被告人ノ訊問終リタル後證人鑑定人ノ訊問調書ノ朗讀證據物件ノ提示ヲ爲シ然ル後檢事、被告人、辯護人等ノ辯論ニ移ルヘキモノトス

第三款　判決ノ言渡

判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開廷日ニ判決主文ノ朗讀ニ因リテ之ヲ爲ス其ノ判決ノ理由ハ判決ノ言渡ト同時ニ之ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其ノ要領ヲ告クルト共ニ刑ノ言渡ヲ受クル者ニ對シ判決ノ正本、謄本、抄本ヲ求ムルヲ得セシム竝ニ上訴期間ノ告知ヲ爲ササルヘカラス又缺席判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ判決ニ對シ故障ヲ爲スコトヲ得ヘキコト竝ニ其ノ期間ヲ示ササルヘカラス而シテ判決ノ言渡カ有效タルニハ原則トシテ間斷ナク公判ニ出

廷アリタル判事ト生存スル被告人ノ存在スルコトヲ要ス（第二百三條乃至第二百十條）

第四款　上訴

上訴トハ當事者其他ノ訴訟關係人カ不服ナル裁判所ノ判決ニ對シ其確定前ニ於テ之ヲ破毀更正センコトヲ求ムル攻擊方法ナリ上訴ヲ分チテ控訴、上告、抗告ノ三種トナス

第一項　控訴

控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ之ヲ分テ全部控訴及ヒ一部控訴ト爲ス即チ全部控訴トハ判決主文ノ全部ニ對シ控訴スルモノニシテ一部控訴トハ其ノ判決主文ノ一部ニ對シ控訴スルモノナリ

控訴ヲ爲サント欲スル檢事其他ノ訴訟關係人ハ一審判決言渡ヨリ五日內ニ原裁判所ニ申立書ヲ差出ササルヘカラス若シ同期間內ニ控訴セサルトキ又ハ控訴カ理由ナシトスルトキハ其ノ控訴ハ棄却セラルヘキモノトス（第二百五十條乃至第二百六十六條）

第二項　上告

上告ハ地方裁判所又ハ控訴院カ第二審トシテ爲シタル本案ノ判決ト及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ法律上ノ違背アリタルトキ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ茲ニ法律ニ違背シタル場合トハ例ハ規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシカ如キ又ハ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタル場合ノ如キ即チ是レナリ

檢事其他ノ訴訟關係人カ上告申立ヲ爲サント欲セハ上告申立書ヲ判決ノ言渡アリタル日ヨリ三日內ニ原裁判所ニ差出ササルヘカラス若シ同期間內ニ上告ヲ爲ササルトキ又ハ上告カ理由ナシトセラルルトキハ其ノ上告ハ棄却セラルヘキモノトス（第二百六十七條乃至第二百九十二條）

第三項　抗告

抗告ハ法律上特ニ許シタル場合ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス今其一二例ヲ示セハ(イ)忌避ノ申請ヲ不當ナリトシ却下スル決定(刑事訴訟法第四十二條)(ロ)證人、鑑定人カ宣誓又ハ供述ヲ肯セサル爲メ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ヲ言渡ス決定(第百二十六條第百三十八條第百九十條刑法施行法第四十一條)ニ對シテ抗告ヲナスカ如キ即チ是レナリ

抗告ヲ爲サント欲スル檢事其他ノ訴訟關係人ハ抗告申立書ヲ原裁判ヲ爲シタル裁判所ニ差出ササルヘカラス而シテ其ノ申立ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又ハ理由ナシトスルトキハ其ノ理由ヲ付シテ三日內ニ抗告申立書ヲ直近上級ノ抗告裁判所ニ送附セサルヘカラス然ルトキハ抗告裁判所ニ於テハ其ノ抗告ヲ許スヘキヤ否ヤヲ調査シ若シ抗告ニ關スル要件ヲ缺クトキハ其ノ抗告ヲ棄却スヘキモノトス(第二百九十三條乃至第三百條)

第五款　確定判決

犯罪事件ニ關シ判決アリタル後一定ノ期日ノ經過ニ因リ控訴又ハ上告等ノ方法ヲ以テ判決ヲ攻擊スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ其ノ判決ハ茲ニ確定スルモノナリ而シテ此ノ判決ノ確定力ハ同一ノ所爲ニ付キ新ニ審理裁判ヲ求ムルコトヲ得ストノ主旨ニシテ判決ノ正當ナリヤ否ヤハ更ニ問フ所ニ非ス是ヲ以テ一旦判決確定シタルトキハ同一ノ被告人ニ對シ同一ノ所爲ニ付テハ再ヒ審理裁判スルコトヲ得サル所ノ一事不再理ノ原則ヲ生ス(第六條第三總論第十項第十七條五章對照)

第六款　非常上告及再審

確定シタル判決ニ對シ法律適用ノ誤謬又ハ事實ノ誤謬アリタル爲メ被告人不當ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルニ至リタルトキ之ヲ救濟スル爲メ前者ニ對シ非常上告ヲ許シ後者ニ對シ再審ノ訴ヲ許ス乃チ非常上告ニ關シテハ刑事訴訟法第二百九十二條ハ法律適用ノ誤謬ノ場合ヲ指摘シテ第一審裁判所ト第二審裁判所トヲ問ハス法律ニ於テ罰セサル行爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルトキトシ更ニ斯カル不當ノ判決言渡ニ對シ上訴期間內遂ニ上訴スル者ナクシテ判決確定スルニ至リタルトキハ其ノ事件ニ付キ上告ヲ受クヘキ權利ヲ有スル裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命令ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ其

ノ裁判所ニ上告シ得ヘシト規定セリ非常上告ヲ受理シタル裁判所ハ之ヲ以テ正當ノ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ破毀シ直ニ其ノ事件ニ付キ判決ヲ爲ササルヘカラサルモノトス

再審ノ訴ノコトハ刑事訴訟法第三百一條乃至第三百九條ニ規定ス則チ重罪、輕罪ノ確定判決ニ對シ事實ノ誤謬ヲ發見シタルトキ例ハ人ヲ殺シタル罰ニ對シ刑ノ言渡アリタルモ其ノ殺サレタリト認メラレタル者カ犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタリト認メラレタル者カ犯罪後生存シタル場合等ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者等ヨリ再審ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ再審請求ノ趣意書ニ原判決ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ原裁判所ニ訴出ツヘキモノトセリ

上告裁判ニ於テハ再審ノ訴ヲ以テ其ノ理由アリトナストキハ原判決ヲ破毀シ其ノ事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ササルヘカラス

第六節　刑ノ執行

（有罪ノ判決確定シタルトキハ茲ニ刑ノ執行ヲ爲ササルヘカラス刑ノ執行ハ其ノ刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ依リ之ヲ爲ササルヘカラス然レトモ死刑ノ執行ニ付テハ例外トシテ死刑ノ言渡アリタル後一應訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出シタル後司法大臣ヨリ死刑執行ノ命アリタル後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス（第三百十七條乃至第三百二十一條）

第九章　國際公法

第一節　國際公法ノ主體

國際公法トハ國家間ノ權利義務ノ關係ヲ定メタル法律ナリ只其制定ノ順序、手續等ニ付テ國內法ト異ル所アリ國際公法上ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ者ハ只國家アルノミ國家トハ一定ノ限ラレタル土地及人民カ唯一ノ主權統治ノ下ニ立ツ所ノ團體ヲ云フ故ニ國家ノ要素ハ主權、土地、人民ノ三者ナリ

國家ノ主權ハ一ノミ然レトモ其働キノ方面ヨリ觀察シテ國內ニ對スル働ト外國ニ對スル働トノ二種トナスコトヲ得而シテ其國內ニ對スル主權ノ働ハ土地及ヒ人民ニ對シテ積極的ニ權力ヲ以テ統治スルモノナリト雖モ外國ニ對スル主權ノ働ハ他ノ國家ヲ侵犯スヘカラスト云フ消極的ノモノニシテ自國主權カ他國ニ對シテ主働的ニ消極ナルカ如ク他國ヨリ自國ニ對シテモ受働的ニ消極タリ又國內主權ノ働ノ如ク不平等ノ關係ニアラスシテ對等ニ交際スルノ關係ナリ領地トハ一定ノ統治權ノ下ニ立ツ一定ノ限界セラレタル土地ヲ云ヒ積極的ノ力ト消極的ノ力トヲ有ス積極的ノ力トハ自國ノ領土ヲ統治スル力ニシテ消極的ノ力トハ其權力ヲ及ホスヘキ一定ノ範圍即チ領土ヲ超エテ主權ヲ及ホス可ラサルコトヲ云フ

國家ノ領地ハ地球表面上ノ限ラレタル部分ナルカ故ニ之ヲ限ルニ境界ヲ以テセサルヘカラス境界ヲ分チテ自然的境界及ヒ人工的境界トナス山川湖沼ヲ以テスル境ノ如キハ前者ニ屬シ人工ヲ以テ溝渠ヲ鑿チ境界トナスカ如キハ後者ニ屬ス國家ノ領地ヲ分チテ水ノ部分及ヒ陸ノ部分トナス水ノ部分ハ左ノ如シ

第一　運河　例ヘハスエス運河ニカラガ運河ノ如シ

第二　海峽

第三　湖水

第四　河川

第五　海

海ヲ分チテ公海及ヒ領海トス公海ハ自由ニシテ何レノ國ノ領有ニモ歸スルコトナシ故ヲ以テ世界萬國ハ共通ニ公海ヲ使用スルコトヲ得領海ヲ分チテ沿岸海及ヒ狹義ノ領海トナス沿岸海トハ陸地ヨリ最低干潮ニ際シ海洋ニ向ヒテ三海里

以内ヲ云ヒ狹義ノ領海トハ港灣内海等ノ入口ノ一直線ノ結付カ十里以内ナル場合ニ於テ其以内ノ部分凡テヲ云フ

國家カ領地主權ヲ取得スル方法ヲ分チテ二種トス第一、本來ノ取得トハ何レノ國家ニモ屬セサル土地ヲ取得スルコトヲ云フ其最モ重モナルモノハ先占ナリ第二、傳來ノ取得(繼承的取得)トハ或ル國家ノ主權ニ屬スル領地ヲ取得スルコトヲ云フ其方法トシテハ交換アリ賣買アリ贈與アリ媾和條約ニ基ク割讓アリ永久占領及ヒ租借ノ二者ハ實際ニ於テ割讓ニ似タリト雖モ法理上ヨリ論スレハ飽クマテ割讓ニ非ス

國家ノ第三ノ要素ハ其國籍ヲ有スル自然人ナリ國籍トハ或ル人(自然人)カ或ル定リタル國家ノ主權ニ絶對的ニ服從スル關係ヲ云フ自然人カ如何ニシテ國籍ヲ有スルニ至ルヤ又何時ヨリ自己ノ從屬スル國家ノ法律上ノ權利ヲ享有行使スルニ至ルヤハ各國々内法ノ規定スル所ニシテ我國ニ於テハ明治三十二年ノ國籍法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二節　國家ノ種類

主權ヲ標準トシテ國家ヲ分類スルトキハ主權國及ヒ一部主權國ノ二トナスコトヲ得此ノ區別ハ他國ヲシテ自國主權ノ行使ニ代位ヲナサシムルヤ否ヤヲ標準トナセルモノナリ或ル國家ノ爲メニ主權ノ行使ニ承諾ヲ與ヘ又ハ之ニ依リテ主權ヲ行使スル國家ヲ宗主國(又ハ上主權國)ト稱ス現時ノ韓國ノ如キハ即チ日本ニ對シテ一部主權國ナリ永久局外中立國ハ均シク條約ニヨリテ主權行使ノ制限ヲ受クルモノナリト雖モ宗主國ヲ有スルコトナク只永久中立ヲ保證スル國家ノ存在スルノミナルヲ以テ永久中立國ハ一部主權國ニアラス永久中立國ノ特性トスル所ハ(一)條約ニヨリテ生スルコト(二)他ノ國家ヨリ保證ヲ受クルコト(三)平時ヨリ既ニ中立タルヲ定ムルコト(四)積極的ニ攻擊戰爭ヲ開始スルヲ得サルコト(五)他國ヨリ戰端ヲ開カレサルコト是レナリ

國家ノ組織ヲ標準トシテ分類ヲナストキハ單獨國及複雜國トナスコトヲ得單獨國トハ一個ノ國家ニシテ他ノ國家ト聯結スルコトナク其對外主權ヲ行使スル

モノヲ云フ日本、英國、露國ノ如キ皆然リ複雜國トハ多數ノ國家相聚合シテ一ノ國家ヲ成シ其國家カ國際法上ノ主體タルト同時ニ之ヲ組織スル各國家モ亦其主體タルモノヲ云フ千八百十五年乃至千八百六十六年ノ獨逸聯邦ノ如キ即チ是レナリ君合國トハ二個以上ノ國家カ君主ノ身體ヲ以テ結合スルモノニシテ國際法上各自單獨國ナリ即チ單ニ君主ヲ同一ニスルノミニシテ其他ノ事項ニ付テハ全ク關聯セサル國家ナリ千九百〇八年以前ニ白耳義王カ亞弗利加ノコンゴー國王ヲ兼ネタルカ如キハ其實例ナリ政合國トハ二個以上ノ國家カ政治上ノ或事項ニ關シ合同シテ以テ外國ニ對スルモノヲ云フ墺地利、匈牙利ハ其適例ナリ

政合國ト君合國トヲ區別スル實益ハ政合國ヲ組成スル一國カ他國ト交戰スル場合ニ於テハ其他ノ政合國モ亦交戰國トナルノ點ニ在リ之ニ反シテ君合國ニ於テハ其一方カ第三國ト交戰スル場合ニ於テモ其君合國ノ他ノ一方ハ毫モ戰爭ニ關係セサルコトヲ得ヘシ

第三節　國家ノ權利義務

國家ハ獨立ノ權利ヲ有スレトモ國際團體ノ一員トシテ存在スル限リハ勢ヒ他國ノ權利ヲ害セサル限リニ於テ獨立ナリト云ハサルヲ得ス形式上ヨリ云ハハ國家ハ外國ニ對シ同等均一ノ權利ヲ有ス國家ノ權利カ國際團體存立ノ必要ヨリ見テ多少ノ制限ヲ受クルハ蓋シ數ノ免レサル所ナリ治外法權ハ即チ其最モ重モナルモノナリ治外法權ハ或人又ハ物カ外國ノ領土內ニ在リテ其國ノ法律ノ實質ニ從フコトヲ免カルルノ觀念ニアラス却ツテ其國家カ自國ノ法律ニ從フコトヲ自國滯在ノ或外國ノ人及ヒ物ニ對シテ恩惠的ニ免除スルコトヲ云フ

治外法權ヲ受クル人及ヒ物左ノ如シ（總論第十章對照）

第一　國家　國家ハ他國主權ノ下ニ立ツヘキモノニアラサルヲ以テ外國ヨリ治外法權ヲ受ク從テ國家カ他國ニ於テ財產ヲ有スルトキ又ハ行爲ヲ爲ストキハ該財產又ハ行爲ニ付テハ治外法權ヲ受クヘシ

第二　君主、君主ノ扈從者及ヒ君主ノ貨物亦同シ而シテ大統領亦之レニ準ス

第三　公使、公使館、公使館員亦然リ

第四　領事　領事ハ本國ノ經濟上ノ代表者ニシテ政治上若クハ軍事上ノ代表者

ニ非サルカ故ニ治外法權ヲ有セス然レトモ今日ニ於テハ條約ヲ以テ領事、其家族、從者等ニモ或種ノ特權ヲ與フヘキコトヲ定ムルモノ多シ日獨領事職務條約第三條ノ如キ是レナリ此點ハ治外法權ニ酷似ス

第五　軍艦及ヒ軍隊

治外法權ハ條約ノ約定ヲ竢タスシテ當然ニ存スルモノナレトモ領事裁判權ハ特別ノ條約ニ基キテ生スルモノナリ甲國ノ人民乙國ニ在ルモ乙國ノ裁判權ニ服セシメスシテ甲國ヨリ乙國ニ派遣セル領事ヲシテ該事件ノ裁判ヲナサシムルコトヲ領事裁判權ト云フ我國ハ舊時ニ於テ外國ノ領事裁判權ヲ認メタレトモ明治三十二年以降之ヲ認メサルニ至レリ之ニ反シテ我國ハ支那及ヒ暹羅ニ對シテ尙ホ領事裁判權ヲ有ス支那ニ對シテハ明治二十九年十月ノ日清通商航海條約第三條ニヨリ我國ノミ彼國ニ對シテ此權利ヲ有スルコトトナレリ暹羅ニ對スル我國ノ領事裁判權ハ條件付ノモノニシテ明治三十一年二月ノ條約議定書ノ定ムル所ナリ即チ同國カ民法（婚姻法及ヒ相續法ヲ除ク）民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法及ヒ裁判所構成法ヲ實施スルニ至ルマテ我國ハ之ニ對シテ領事裁判權ヲ有スルモノトス領事裁判權ノ內容ニ付テハ明治三十二年三月法律第七十號領事官ノ職務ニ關スル件ヲ見ルヘシ

混合裁判トハ一國裁判所ニ外國人ヲ混シテ裁判官トナシ之ヲシテ內國裁判官ト共ニ裁判ヲナサシムルコトヲ云フ混合裁判ノ制度ハ條約ニ依リテ定メラルルモノニシテ或國ノ法律制度完備セス其裁判公平ヲ缺クノ惧アル場合ニ於テ生スルモノナリ現今此制度ヲ有スル國ハ埃及アルノミ

犯罪人引渡トハ犯罪人カ外國ニ逃亡シタル場合ニ於テ其者ヲ處罰スル權利ヲ有スル國家カ犯人ノ現在スル國家ニ對シテ之カ引渡ヲ請求シ其引渡ヲ受クルコトヲ云フ我國ハ明治十九年ニ北米合衆國ト此種ノ條約ヲ結ヒ明治二十九年ノ清國トノ通商條約第二十四條ノ內ニモ此事ニ關スル約定ヲナシ明治三十年ノ西班牙トノ修好交通條約議定書第六ニ於テハ「兩締盟國ハ相互ニ犯罪人引渡ニ關スル特別條約ヲ締結スルコトニ同意ス尤モ該條約ノ締結ニ至ルマテハ該事故竝ニ民刑事件ニ關スル要求ノ執行ニ付キ締盟國ノ一方ハ他ノ一方ニ對シ最惠國ニ既ニ許與シ若クハ將來許與セラルヘキモノト同一ナル權利及ヒ特權ヲ許與スヘキモ

ノトス」ト規定スルカ故ニ實際ニ於テハ西班牙トノ間ニモ犯罪人引渡ノ權利義務ヲ有スルナリ引渡スヘキ犯罪ノ種類ハ條約中ニ列記スルモノニ限ル（日米犯罪人引渡條約第二條）

犯罪人引渡ノ事ヲ約スルモ自國人ヲ除外シ（同上第七條）政治上ノ犯罪者ヲ除外ス（同上第四條）ルコト多クノ條約ニ於テ定ムル所ナリ

第四節　國家ノ代表機關

國家ノ代表機關中繼續的ニ外國ニ駐在スルモノヲ公使及ヒ領事トス前者ハ本國ノ政治的行爲ヲ代表シ後者ハ經濟的行爲ヲ代表ス

外交官中特ニ廣義ノ公使ヲ分チテ全權大使、全權公使、辨理公使代理公使、トナス外國ヨリ公使ヲ自國ニ派遣スルトキハ自國ハ之ヲ受クルノ義務アリト雖モ特ニ正當ノ理由アルトキハ其人ヲ限リテ之ヲ拒否スルコトヲ得一切ノ公使ヲ受ケスト云フノ不法ナルコトハ固ヨリ論ナシ公使カ外國ニ駐在セントスルニハ本國元首ヨリ（代理公使ニ在リテハ本國外務大臣ヨリ）駐在國ノ元首ニ（代理公使ニ在リテハ駐在國外務大臣ニ）宛テタル信認狀ヲ受ケ駐在國ニ赴キテ此ヲ捧呈ス

領事ハ前ニ述ヘタルカ如ク本國ノ經濟上ノ代表者ナリ其外國ニ駐在シテ職務ヲ執ルノ點ニ於テハ公使ト異ルコトナシト雖モ其實質ニ付テハ大ナル差異アリ即チ公使ハ政治上ノ代表者ナルモ領事ハ經濟上ノ代表者タル根本的ノ差異以外ニ於テ公使ハ其數ニ限アルモ領事ハ然ラス公使ハ一國ニ對シテ一人ナルヲ常例トスルニ反シ領事ハ一國內ノ諸所ニ駐在スル數人ヲ設クルヲ常トス是レ政治上ノ利害關係ハ一ナルヘシト雖モ經濟上ノ利害關係ハ一國內ノ各所ニ依リテ異ルヘケレハナリ又公使ノ授受ハ特別ノ條約ヲ待ツコトナキニ反シ領事ノ駐在ハ條約ノ定ムル所ニ從フヘキモノトス

領事ヲ分チテ任命領事、名譽領事及ヒ商業領事、裁判領事トナス任命領事ハ本國ノ官吏タル領事ニシテ名譽領事ハ外國人ニ囑託シテ領事ノ職務ヲ執ラシムルモノナリ商業領事トハ普通ノ領事ニシテ裁判領事トハ領事固有ノ職務タル通商ニ關スル職務ヲ行フノ外裁判事務ヲモ管掌スル領事ナリ

領事ハ本國ヨリ任命セラレテ駐在國ニ赴任スルモノナリト雖モ其職務ヲ行フ

ハ駐在國カ之レニ認可狀ヲ與フル後ニ於テ始マル而シテ領事ヲ受ケタル國家ハ其者ニ對シテ認可狀ヲ與フルヲ普通トスレトモ其領事カ嘗テ犯罪ヲナシタル者ナルトキ或ハ駐在國ノ安寧秩序ヲ紊ルノ恐アル場合ノ如キハ之ヲ拒否スルコトヲ得ヘシ領事ノ職務ハ駐在國ニ於テ本國ノ經濟上ノ利益ヲ圖ルコト、本國ト駐在國トノ間ニ於ケル通商交通ニ關スル條約カ實際適當ニ行ハルルヤ否ヤヲ監視スルコト、駐在國ニ在ル本國人民ヲ保護スルコト是レナリ

第五節　條約

條約トハ文字ヲ以テ表ハシタル國家間ノ意思ノ合致ナリ條約ノ要素トシテ必要ナルハ主權、代表者、合意、批准ノ四者ナリ條約ハ合意ニヨリテ成立スルカ故ニ其消滅モ亦合意ニ因ル其他締結國一方ノミノ意思ニヨリテ條約ノ消滅スルコトアリ締結國ノ一方ノミカ權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利國カ義務ノ免除ヲ爲シタル場合ノ如キ是レナリ又締結國ノ意思ニ因ラスシテ條約ノ消滅スルコトアリ條約義務ノ履行カ法律上又ハ事實上不能トナリタル場合是レナリ主體及ヒ目的物ノ消滅ハ其主要ナルモノナリ例ヘハ或河海ニ關シ航行條約ヲ締結シタル場合ニ於テ其河海カ航行スルコト能ハサルニ至リタルトキノ如キ又例ヘハ三國間ニ同盟條約ヲ結ヒタルニ其內ノ兩國カ互ニ戰爭ヲナシタルトキハ第三國ノ條約義務ハ全ク消滅ニ歸スヘシ

條約ノ內最モ普通ナルモノヲ通商條約トス古代ニ於テハ各國概ネ鎖國主義ヲ固守シ外國トノ交通ヲ杜絕シタリト雖モ今日ニ於テハ絕對的ニ外國ト交通セサル國家ナク自由ニ通商貿易ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ之ヲ條約ノ歷史ニ徵スルニ各國ノ交通ハ修好條約ニ始マレリ其後ニ至リテハ修好ヲ原則トシ鎖國主義ハ全然其跡ヲ絕チタルヲ以テ茲ニ通商條約ノ發達ヲ見ルニ至レリ而シテ該條約中ニハ通常(一)締結國人民ノ住居、往來ノ自由(二)生產及製造貨物ノ輸出入ノ自由(三)關稅ニ關スルコト等ヲ約定ス關稅徵收ノ方法ニ二種アリ一ヲ國定稅率ト云ヒ他ヲ協定稅率ト云フ前者ハ其國單獨ノ意志ヲ以テ一般ニ輸出入ノ物品ニ課スルモノニシテ後者ハ條約ヲ以テ或ル特定ノ國ト協約シテ定ムル方法ナリ

關稅賦課ノ標準ハ從價稅又ハ從量稅ノ何レカニ依ル從價稅ニ付テノ價ハ何レ

ノ地ニ於ケル何時ノ價格ニ依ルヤハ條約ヲ以テ定ムルモノナリ而シテ日英追加條約ハ此點ニ關シ本稅目ニ從ヒ輸入品ニ課スヘキ從價稅ハ其物品ノ仕入地、產出地若クハ製造地ニ於ケル原價ニ其仕入地產出地若クハ製造地ヨリ仕向港ニ至ルマテノ保險料及ヒ運送費ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之ヲモ加ヘテ算定スヘキモノトスト規定セリ

通商條約ニハ多ク最惠國條款アリ最惠國條款トハ相互的或ハ片面的ニ第三國ニ與ヘタル且將來ニ於テ與フルコトアルヘキ權利及ヒ利益ヲ條約締結國ノ他方ニモ亦與フヘシト定メタル條款ヲ云フ

條約ハ普通之ヲ分チテ政治的條約、行政的條約ノ二種トナス同盟條約、中立條約ノ如キハ前者ニ屬シ郵便條約、通商條約、地役條約、電信條約、著作權ニ關スル條約、工業財產ノ保護ニ關スル條約ノ如キハ後者ニ屬ス我國ト諸外國トノ間ニ於ケル種々ノ條約ハ條約彙纂ニ就テ見ルヘシ

第六節　國家間爭議ノ調和

國家間ニ爭議アル場合ニ成ルヘク戰爭ニ至ラサラシメンカ爲メニ之ヲ調和スルニ第三國ノ其間ニ介入スルモノト紛爭國相互ニ於テスルモノトノ二者アリ先ツ第三國カ紛爭國ノ間ニ介入シテ平和ヲ圖ル方法ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　周旋

周旋トハ第三國カ紛爭國ノ間ニ立チテ一方ノ意思ヲ他方ニ通スル方法ナリ故ニ此場合ニ於ケル第三國ノ行動ハ一ノ使者タルニ過キス即チ紛爭國一方ハ其事件ニ付テ斯ル意見ヲ有ス斯ル請求ヲナス等ノコトヲ周旋國タル第三者カ紛爭國他方ニ通知スルノミ

第二　居中調停

此ノ場合ニ於テハ第三國ハ進ンテ平和ヲ圖ルノ手段ヲ盡スモノニシテ周旋ノ場合ノ如ク單ニ一方ノ意見ヲ他方ニ通スルモノト異ナレリ

第三　仲裁裁判

國家カ法律上ノ疑義ニ關シテ相爭フニ當リ第三者カ之ヲ解決センカ爲メニ其間ニ介入シ判定ヲ與フルモノヲ仲裁裁判ト云フ千八百九十九年ノ國際紛爭平和

的處理條約ニヨレハ各國家ハ既ニ生シタル紛議又ハ將來生スルコトアルヘキ紛議ノ爲メニ所謂仲裁契約ヲ締結スルコトヲ得ヘク此契約ハ誠實ニ仲裁宣告ニ服從スルノ約束ヲ包含スルモノトス常設仲裁裁判所ハ之ヲ和蘭ノ海牙ニ設置ス仲裁裁判ノ手續、裁判官タルヘキ人、其補缺等ノコトハ凡テ右ノ國際紛爭平和的處理條約ヲ見ルヘシ

第四　國際審査

國家間ニ事實問題ニ付キ疑又ハ爭アル場合ニ第三者カ之ヲ調査スルヲ國際審査ト云フ此點ニ付テモ亦千八百九十九年ノ國際紛爭平和的處理條約ヲ見ルヘシ

次ニ紛爭國雙方カ自ラ紛爭ヲ解決スル方法ニ二種アリ一ハ暴力ヲ用ヒサルモノ例ヘハ說破、權利ノ拋棄、相手方ノ權利ノ是認、屈服、最後ノ通牒ノ如シ他ハ暴力ヲ用フルモノニツテ其方法四種アリ(一)報復トハ甲國カ乙國ノ利益ヲ害シタル場合ニ於テ乙國カ之ト同一ノ方法ヲ以テ甲國ノ利益ヲ害スルヲ云フ(二)報仇トハ甲國カ乙國ノ權利ヲ害シタル場合ニ於テ乙國カ之ト同一ナル方法又ハ異リタル方法ヲ以テ甲國ノ權利ヲ害スルヲ云フ(三)船舶ノ差押(四)平時ノ封鎖

第七節　戰爭

戰爭トハ國際公法上ノ主體(時トシテ交戰主體タルヲ承認ヲ受ケタル國體)ノ間ニ於テ雙方カ公ニ爲ス所ノ武力ノ爭ノ總稱ナリ

第一款　戰爭開始ノ直接效果

戰爭開始ノ直接效果ヲ分チテ人ニ對スルモノ、物ニ對スルモノ及法律關係ニ關スルモノト爲ス人ニ對スルモノノ內敵國人ニ對スルモノト中立國人ニ對スルモノトアレトモ茲ニハ前者ヲ說クニ止ム敵國人ノ內交戰者ノ事ハ暫ラク除キ平和的ノ人ニシテ內國ニ在ル者ヲ主トシテ說明セント欲ス古ニ於テハ戰爭ハ交戰國相互ノ一切ノ關係ヲ破壞スルモノナリト思惟シタレトモ近時ニ至リテハ戰爭ハ單ニ交戰國間ノ平和關係ヲ破ルニ止リテ一切ノ關係ヲ破壞スルモノニアラストノ思想行ハル故ニ兩國間ノ平和修好ノ代表機關タル公使領事ノ如キハ去ツテ本國ニ歸レトモ交戰國ノ平和的人民ニシテ敵國ニ在ルモノハ必シモ然ラス苟クモ特殊ノ事情ト交戰上ノ必要トカ存在スルニ非サルヨリハ交戰國ハ敵國人民ノ自

國ニ在ルモノヲ追放スルコトナシ日清戰爭ノ當時ニ於ケル日本ノ行働（明治二十七年勅令第百三十七號）日露戰爭ノ當時ニ於ケル日本ノ行働（明治三十七年二月十日內務省訓令第二號）皆然リ然レトモ苟クモ交戰上ノ必要アルトキハ敵國人ノ內國ニ在ルモノヲ追放スルコトヲ得ヘク又敵國人ノ新タニ內國ニ入ラントスルモノヲ拒否スルコトヲ得ヘク又敵國人ノ內國ヲ去ラントスルヲ止ムルコトヲ得ヘシ

敵國ノ貨物ノ內國ニ在ル者ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ヘシ敵船ハ其敵國ノ國有ニ屬スルト敵國ノ個人ニ屬スルトヲ問ハス之ヲ沒收スルコトヲ得然レトモ戰爭前ヨリ內國港灣內ニアル敵船及ヒ戰爭ノ開始ヲ知ラスシテ內國港灣ニ入航シタル敵船ニ對シテハ一定ノ猶豫期間ヲ與ヘテ立去ラシメ該猶豫期間內ニ立去ル者ニ對シテハ沒收ヲ加フルコトナキヲ例トス（明治三十七年二月（明治四十年第二回）九日勅令第二十號）（萬國平和會議決議）

古ニ於テハ條約締結國間ニ戰爭ノ起ルトキハ其條約ハ此レト同時ニ當然ニ消滅スルモノナリトセリ然ルニ今日ニ於テハ然ラス或條約ハ消滅スレトモ或條約ハ依然トシテ有效ナリ今之ヲ細別セハ左ノ如シ

第一　開戰ト同時ニ消滅スルモノ　之ニ屬スルモノハ戰爭ノ原因トナリタル條約、政治上ノ條約及ヒ軍事上ノ條約是レナリ

第二　開戰ト同時ニ其效力ヲ停止セラルル條約　社會的條約例ヘハ郵便條約、犯罪人引渡條約ノ如キハ此種ニ屬ス

第三　戰爭ノ開始セルニ拘ラス依然トシテ實行セラルルモノ　戰爭ヲ目的トシテ締結セラレタル條約ハ之ニ屬ス例ヘハ赤十字條約、陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約等ノ如シ其他交戰中ニ締結セラルル條約モ亦有效ナリ例ヘハ休戰條約、俘虜交換條約、開城條約ノ如シ而シテ此ノ種ノ條約中ニハ戰爭ノ終了後其效力ヲ喪フモノアリ又存續スルモノアリ俘虜交換條約ノ如キハ前者ニ屬シ媾和條約ノ如キハ後者ニ屬ス

開戰後ノ通商及ヒ私人間ノ債權、訴權等ニ關シテハ英國主義ト大陸主義トノ二種アリ英國主義ハ交戰國人民間ノ通商ヲ嚴禁シ開戰後ノ取引ヲ無效トシ開戰前ノ取引、其訴權ハ戰爭ノ終了ニ至ルマテ效力ヲ中止スルモノトス大陸主義ハ之レニ反ス

第二款　交戰者非交戰者

戰爭ノ暴力ノ下ニ立ツ者ハ交戰者ニ限リ非交戰者即チ平和的人民ハ戰爭ノ暴力以外ニ立ツモノナリ交戰者ヲ分チテ戰鬪員、非戰鬪員ト爲ス何ヲ交戰者ト見ルヘキヤニ付テハ千八百九十九年ノ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第一條ノ左ノ規定ニ從フ

戰鬪ノ法規及權利義務ハ獨リ之ヲ軍ニ適用スルノミナラス左記ノ條件ヲ具備スル所ノ民兵及義勇兵團ニモ亦之ヲ適用ス

第一　部下ノ爲メ責任ヲ負フ者カ其頭ニ在ルコト

第二　遠方ヨリ看別シ得ヘキ固著徽章ヲ有スルコト

第三　公然武器ヲ携帶スルコト

第四　其動作ニ於テ戰鬪ノ法規慣例ヲ遵守スルコト

尙ホ其例外トシテ同第二條ニ左ノ規定アリ

未タ占領セラレサル地方ノ住民ニシテ敵ノ接近スルニ當リ第一條ニ遵テ編

スルノ遑ナク自然武器ヲ操リテ侵入軍隊ニ抗敵スル者ニシテ戰鬪ノ法規慣例ヲ遵守スル者ハ交戰者ト看做スヘシ

第三款　俘虜

俘虜トハ交戰國一方ノ交戰者(多少ノ例外アリ)ガ事實上他方ノ軍隊ノ權力ノ下ニ立チタルモノヲ云フ俘虜ハ國家ノ俘虜ニシテ私人、將帥、兵士又ハ軍隊ノ俘虜ニ非ス故ニ俘虜ヲ待遇スルハ之ヲ捕ヘタル國家ノ爲スヘキ行爲ナリ俘虜ヲ爲スノ目的ハ之レニ依リテ敵ノ交戰力ヲ減殺センカ爲メナリ故ヲ以テ國家ハ俘虜ヲ虐待スヘカラス又理由ナクシテ俘虜ヲ責罰スヘカラス俘虜カ逃走スルトキハ敵ノ交戰力ヲ減殺スルノ目的ヲ達スルコト能ハサルカ故ニ國家ハ俘虜ヲシテ武器ヲ脫セシメ一定ノ場所ニ留置スルコトヲ得(陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第五條)但シ之レカ爲メニ俘虜ノ健康ヲ害スルノ擧動アルヘカラス俘虜ニハ其名譽ト健康トヲ害セス且戰爭行爲ニ關セサル限リニ於テ適當ナル職業ヲ執ラシムルコトヲ得ヘシ又斯ル場合ニ於テハ勿論賃錢ヲ仕拂ハサルヘカラス俘虜カ取得シタル賃錢ハ其境遇ノ艱苦

ヲ輕減スルノ用ニ供シ剩餘アルトキハ解放ニ際シ給養ノ費用ヲ差引キテ之ヲ交付ス（同第六條明治三十七年九月十六日俘虜勞役規則）俘虜ヲ給養スルハ之ヲ捕ヘタル國家ノ義務ナリ但シ條約ヲ以テ之レカ反對ノ規定ヲ設クルコトヲ妨ケス俘虜給養ノ程度ハ之ヲ捕ヘタル國家ノ軍隊ニ供スルモノヲ標準トス（同第七條）俘虜逃走ヲ企ツルトキハ處罰ヲ受ク逃走ヲ遂ケタル者後ニ至リ再ヒ捕ヘラルルコトアルモ前ノ逃走ニ關シ何等處罰ヲ受クルコトナシ（同第八條）

俘虜ノ解放ヲ分チテ單純解放宣誓解放ノ二種トス宣誓解放トハ捕ヘタル國家カ俘虜ヲシテ再ヒ此ノ戰爭ニ從事スルコトナカルヘシト誓ハシメ此宣誓ヲ條件トシテ解放スル方法ナリ此條件ニヨリテ解放セラレタル者ハ自ラ之ヲ守ラサルヘカラサルノミナラス俘虜ノ本國モ亦該被解放者ヲシテ此宣誓ニ背カシムヘカラス本國若シ之ヲ犯サシムルトキハ國際法違反ノ責ヲ負フヘク俘虜自ラ之ヲ犯セハ再ヒ捕ヘラレタル場合ニ處罰ヲ免レサルヘシ解放ヲ許スト否トハ國家ノ權利ニシテ義務ニアラス（同第十條十一條十二條明治三十八年二月法律第三十八號俘虜處罰ニ關スル件第四條）俘虜カ俘虜タルノ身分ヲ失フハ解放ノ外交換、逃走、死亡、媾和條約ノ締結等ナリ

第四款　間諜

間諜トハ一方ノ交戰者ニ通知スルノ意思ヲ以テ他ノ一方ノ作戰地帶內ニ於テ隱密ニ行動シ又ハ虛妄ノ口實ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ收集シ若ハ收集セントスル者ヲ云フ（同第二十九條）間諜ハ俘虜タルノ待遇ヲ受クルコト能ハスシテ處罰ヲ受ク蓋シ間諜ナル行爲ハ間諜セラルル國家ニ取リテ極メテ大ナル危險ナレハナリ

第五款　軍使

軍使トハ交戰國一方ノ軍隊ヨリ他方ノ軍隊ニ赴キ軍隊ノ意思ヲ通スル者ナリ軍使ハ平和的行働ヲ爲スモノナルカ故ニ戰鬪ノ暴力ノ下ニ立ツコトヲ免除セラルル之ヲ名ケテ軍使ノ不可侵權ト云フ軍使ハ外部ヨリノ表彰方法トシテ白旗ヲ揚ク蓋シ白旗ハ平和ヲ意味スルモノナリ不可侵權ヲ受クル者ハ獨リ軍使ニ限ルコトナク軍使ニ隨從スル喇叭手、皷手、旗手、通譯者皆然リ軍隊ハ他方ヨリ來ル所ノ軍使ヲ受クヘキ義務アルモノニアラス然レトモ既ニ軍使ヲ受領スルトキハ自己ノ

軍隊ノ狀態ヲ探知セラルルノ恐アルカ故ニ之ヲ防遏スルニ必要ナル充分ノ手段ヲ講スルコトヲ得ヘシ軍使若シ特權ヲ濫用スレハ軍隊ハ之ヲ抑留スルノ權利ヲ有ス軍使若シ特權ヲ利用シテ欺罔ノ行爲ヲ爲シ又ハ之ヲ敎唆シタルコト明カナルトキハ不可侵權ヲ失フ

第六款　傷者、病者、死者

傷者及ヒ病者ハ既ニ戰鬪力ヲ有セサルカ故ニ之レニ對シテ暴力ヲ加フノ必要ナシ故ヲ以テ千八百六十四年ノジェネヴァ條約(明治三十九年改正)ハ傷者病者及ヒ病院附屬ノ人員、負傷者ヲ救護スル人民及ヒ病院ヲ侵ササルヘキコトヲ定ム此條約上ノ保護ヲ受クル者ハ白字ニ赤十字ヲ劃シテ其徽號トナス

赤十字條約ハ只陸軍ニノミ適用セラルルモノナリシカ千八百九十九年海牙ニ於テ成リタル千八百六十四年ジェネヴァ條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約ニヨリ之ヲ海戰ノ上ニモ適用スルコトトナリ(一)交戰國カ艤裝シタル運用病院船即チ傷者病者及難船者ヲ救護スル唯一ノ目的ヲ有スル船舶(二)一個人又ハ公認セラレタル救恤協會ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部分ヲ艤裝シタル病院船(三)中立國ノ一個人又ハ公認セラレタル協會ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部分ヲ艤裝シタル軍用病院船ノ三者ハ戰爭ノ暴力ノ下ニ立タサルコトトナレリ委曲ハ同條約ヲ參照スヘシ

死者ニ對シテハ凌辱ヲ加フヘカラス又可成其何人ナルヤヲ確ムルノ方法ヲ講スヘシ又死者ハ之ヲ埋葬スヘク埋葬ハ死者ノ階級ニ從ヒテ取扱ヲ異ニスヘシ死者ノ財産ハ之ヲ本國ニ還附スヘシ(明治三十七年五月陸軍省達第百號戰場掃除及戰死者埋葬規則陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第十九條)

第七款　敵ノ財産

敵ノ財産ヲ陸上ニ於ケルモノト海上ニ於ケルモノトニ區別スルヲ要ス茲ニハ只陸上ニ於ケルモノヲ述フルニ止ム敵ノ財産ハ所有者ヲ本トスレハ敵國國有ノモノト公有ノモノト私有ノモノトノ三種アリ性質ヲ本トスレハ戰爭ノ用ニ供スルモノト平和ノ用ニ供スルモノ戰時ニモ平時ニモ併セ用フルモノトノ二種アリ國有財産ニシテ戰爭ノ用ニ供スル物カ不動産ナルトキハ之ヲ破壞スルコトヲ得

ヘク動產ナルトキハ悉ク之ヲ沒收スルコトヲ得戰爭ノ用ニ供スルコトナク平和ノ用ニ供スル物ニ對シテハ使用收益ノ權ヲ有スルニ止マル公有財產ハ凡テ戰爭ノ用ニ供セサルモノナルカ故ニ之ヲ破壞又ハ沒收スルコトヲ得ス寺院、學校、育兒院、圖書館及ヒ其內ニ在ル財產ノ如シ但シ公有財產ト雖モ事實上戰爭ノ用ニ供シタル物ハ此限ニアラス私有財產ハ凡テ不可侵ナリ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第四十六條第二項ニ「私有財產ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス」トアル是レナリ

第八款　占領

占領トハ交戰國一方カ軍隊ノ力ヲ以テ他方ノ土地ニ侵入シ被侵入國ヲシテ實際上其地ニ主權ヲ行動スルコト能ハサラシメタル狀態ヲ云フ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第四十二條ニ「一地方ニシテ事實上敵軍ノ權力內ニ歸シタルトキハ之ヲ占領セラレタルモノト看做ス占領ハ右權力ノ成立シテ且行使セラルヘキ地域ヲ以テ限リトス」トアル是ナリ占領地ノ主權ハ依然トシテ被占領國ニ存シ占領國ハ只軍事上ノ必要ヨリ占領軍隊ヲシテ事實上本國ノ主權ヲ占領地ノ上ニ行ハシムルニ過キス故ニ媾和ノ時ニ際シ何等特別ノ合意ナキトキハ占領地ハ當然被占領國ノ主權行使ニ復歸スルモノナリ占領軍隊ハ占領地ニ於テ成ルヘク被占領國ノ法律、裁判、行政等ヲ尊重スヘキモノナリト雖モ軍隊ノ必要上已ムヲ得サルトキハ之ヲ中止シテ自ラ法律ヲ發布施行スルコトヲ得占領軍隊ハ占領地人民ノ權利ヲ毀害スヘカラス又占領地ノ人民ニ對シ占領軍ノ本國ニ臣從スヘシト命スルコトヲ得ス又凡テ家族ノ名譽及權利、個人ノ生命及私有ノ財產竝宗教上ノ信仰及其遵行ハ之ヲ尊重セサルヘカラス

占領地ノ財產ニ對スル占領軍隊ノ權利ハ第七款ニ述ヘタル所ニ準スヘシ占領地ノ私有財產ハ不可侵ナルコトヲ原則トスト雖モ二三ノ例外アリ徵發、課役、取立金ノ三者是レナリ徵發トハ占領軍ノ長官カ占領地住民又ハ團體ニ對シテ軍隊ノ行動又ハ支持ノ必要ヨリ物品ノ供給ヲ命スルコトヲ云フ例ヘハ宿舍、糧食、車馬等ヲ要求スルカ如シ課役トハ同シク勞役ノ供給ヲ命スルコトヲ云フ例ヘハ橋梁ヲ架スルニ必要ナル人夫ヲ要求スルカ如シ兩者共ニ長官ノ命令ヲ竢タサルヘカラス又占領ニ必要ナルコトヲ限リトセサルヘカラス又代價或ハ賃錢ノ支拂ヲナサ

サルヘカラス徵發スヘキ物品ハ其地ニ適合シタルモノナラサルヘカラス又代價ヲ支拂フコト能ハサルトキハ受領證書ヲ渡シ後ニ至リテ代價ノ支拂ヲナササルヘカラス取立金ニ關スル制限モ亦同シ特ニ取立ニ際シテハ成ルヘク現行ノ租稅賦課ノ標準及規則ニ據ルヘク納付者ニハ領收證ヲ交付スヘシ

第九款　攻圍、砲擊及降伏

防禦セサル地ヲ攻圍スルハ只軍事上ノ必要アル場合ニ限ル（陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第二十五條）防禦セル地ヲ攻擊又ハ砲擊スルハ適法ノ行爲ニシテ其行爲ハ攻圍地內ノ物件ノ上ニモ人ノ上ニモ及フモノナリ故ニ强襲ノ場合ノ外、豫メ攻圍ヲナスコトヲ通告スルコトヲ要ス蓋シ之レニヨリテ被攻圍地內ノ非交戰者及ヒ戰爭ニ關係ナキ財產ヲ安全ナル地ニ置カシメンカ爲メナリ（同第二十六條）

被攻圍地ノ信仰、慈善、敎育、美術、學問等ニ要スル建物ニハ外部ヨリ見ルコトヲ得ヘキ徽號ヲ付シ以テ攻擊軍ヲシテ此等ノ建物並ニ其內ニ在ル財產ヲ毀害セサラシムルコトヲ注意スヘシ勿論此等ノ建物カ軍事上ノ目的ノ爲メニ用ヒラレサル

コトヲ前提トス（同第二十七條）攻圍地內ニ在ル第三國ノ外交官ハ戰爭ノ必要上本國政府トノ交通ニ全ク何等無制限ナルコトヲ得ス中立者間ノ書類電報等ノ交換ハ成ルヘク妨害セサルヘシト雖モ而モ交戰者ノ義務カ交戰ノ必要ト衝突スルトキハ後者ノ勝ヲ制スヘキコト當然ナリ

降伏規約ハ締結者及ヒ其本國ヲ羈束ス締結者ノ一方カ不當ノ理由ニ依リテ締結シタルトキニ於テモ該規約ハ無效トナラス只締結者カ其締結能力以外ノコトニ付テ約シタル降伏規約ハ其本國ヲ拘束セス例ヘハ土地ヲ割讓スヘシト約シタル場合ノ如キ又ハ自己ノ權限內ニ屬セサル城砦ヲモ併セテ降伏セシムヘシト約シタル場合ノ如キ是レナリ

第十款　害敵手段

戰爭ノ目的ハ敵ノ主張ヲ屈セシメンカ爲メニ敵國ノ交戰力ヲ殺クニ在リ故ニ殘虐ノ行爲ヲ敢テシテ敵國ノ交戰力ヲ殺ク以外ノコトヲナスハ國際法違反ナリ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第二十二條ハ「交戰者ハ害敵手段ノ選擇上無限ノ權

利ヲ有スルコトナシ」ト定メ第二十三條ハ左ノ如ク規定セリ

特別ノ條約ヲ以テ定メタル禁止ノ外特ニ禁止スルモノ左ノ如シ

一　毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト

二　敵ノ國民又ハ軍ニ屬スル者ヲ欺罔ノ行爲ヲ以テ殺傷スルコト

三　兵器ヲ捨テ又ハ自衞ノ手段盡キテ降ヲ請ヘル敵兵ヲ殺傷スルコト

四　助命セサルノ宣言ヲ爲スコト

五　無益ノ苦痛ヲ與フヘキ兵器、彈丸其他ノ物質ヲ使用スルコト

六　濫ニ軍使旗及國旗其他軍用ノ標章竝ニ敵兵ノ制服及「ジェネヴァ」條約ノ徽章ヲ使用スルコト

七　戰爭ノ必要上萬已ムヲ得サル外、敵ノ財産ヲ破壞シ又ハ押收スルコト

千八百九十九年海牙ニ於ケル萬國平和會議ノ最終決議書ニハ左ノ數項ノコトヲ定ム其趣旨ハ均シク不必要ノ行動ニヨリテ敵ヲ害スルコトナカラントスルニ在リ

一　輕氣球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆烈物ヲ投下スルコトヲ五箇年間禁止スルコトヲ約ス（第二回萬國平和會議ノ決議亦同シ）

二　窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ各自ニ禁止スルコト

三　締盟國ハ外包硬固ナル彈丸ニシテ其外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若クハ其外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人體内ニ入テ容易ニ展開シ又ハ扁平トナルヘキ彈丸ノ使用ヲ各自ニ禁止スルコト

第十一款　海戰法規

陸戰ニ於テハ敵ノ私有財産ハ不可侵ナレトモ海上ニ於テハ可侵ナリ故ヲ以テ敵船ハ凡テ沒收セラレ敵貨ハ中立船内ニ在リ且戰用ニ供セサル物ノ外盡ク沒收セラル敵船ニシテ拿捕ヲ免除セラルルモノハ沿岸漁獵、學術、慈善又ハ教法ノ爲ニ航行スル船舶、俘虜、交換船、軍使船ナリ燈臺用船ニ付テハ疑アリ

敵國港灣ノ封鎖ヲ有效ナラシメンニハ左ノ要件ヲ充タササルヘカラス

一　封港ヲナスニハ司令官ノ命令ニ出テサルヘカラス

二　敵國港灣ノ通路ヲ事實上遮斷セサルヘカラス

千八百五十六年ノ海上法要義ニ關スル宣言第四ニ「港口ノ封鎖ヲ有效ナラシムルニハ實力ヲ用ヒサルヘカラス即チ敵國ノ海岸ニ接到スルヲ實際ニ防止スルニ足ルヘキ充分ノ兵備ヲ要スルコト」トアル是レナリ尙ホ我國ノ海上捕獲規程第二十一條及明治四十二年倫敦宣言ヲ參照スヘシ

三　封港ニハ告知ヲ要ス

告知ニハ一般ノ告知ト特別ノ告知トノ二種アレトモ我國ニ於テハ其何レヲ問ハス實際ニ告知ヲ受ケタルモノ、及ヒ告知ヲ受ケタリト認定セラルヘキモノカ封港ノ部分ニ出入セントスルトキハ之ヲ封港破毀トスヘシト云ヘリ

四　艦隊ハ繼續シテ封港ヲ保持セサルヘカラス

(一)封鎖區域ヲ脫出シ又ハ脫出セント企テタル船舶(二)封鎖區域外ニ在リテ出港封鎖ヲ破リタル船舶ヨリ貨物ヲ轉載シ又ハ轉載セント企テタル船舶ノ二者ハ出港封鎖ヲ破リタルモノトシ、(一)封鎖線ヲ通過シテ其ノ區域內ニ侵入シ又ハ侵入セント企テタル船舶(二)船舶書類ニ示セル到達地ノ如何ニ關セス封鎖區域附近ニ在リテ明ニ該區域內ニ向ツテ進航スルモノト認定セラレタル船舶(三)封鎖區域外ニ在リテ其載貨ヲ他ノ船舶ニ轉載シテ封鎖線ヲ通過セシメ之ヲ封鎖區域內ニ輸送シ又ハ輸送セント企テタル艦船(四)封鎖港ヲ到達地トシテ航行スル船舶ノ四者ハ入港封鎖ヲ破毀シタルモノトス

封鎖ヲ破リタル船舶及ヒ該船舶內ノ貨物ハ之ヲ沒收ス

戰時禁制品ニ二種アリ一ヲ絕對的ノモノトシ他ヲ條件付ノモノトス戰爭ノ用ノミニ供スル物品ニシテ敵地ニ到達スヘキ場合又ハ敵ノ陸海軍ニ到達スヘキ場合ニハ之ヲ絕對的戰時禁制品トナシ戰爭ノ用ニモ平和ノ用ニモ供シ得ヘキ或種ノ物品ニシテ敵ノ陸海軍ニ到達スヘキ場合又ハ敵地ニ到達シ其到達地ノ狀態如何ニヨリテ敵ノ陸海軍ノ用ニ供スルモノト認ムヘキ場合ニ限リ之ヲ條件的戰時禁制品トナス而シテ其物品ノ個々ニ付テハ各國ノ自由ニ定ムル所ナリ

戰時禁制品ハ凡テ之ヲ沒收ス戰時禁制品ヲ搭載スル船舶ニ對スル制裁ニ付テハ疑アリ其必然ニ沒收スヘキハ第一、戰時禁制品ノ所有者ト船舶ノ所有者トカ同一人ナルトキ第二、船舶ノ所有者又ハ船長カ戰時禁制品ノ搭載セラルルコトヲ知

レルトキ是レナリ戰時禁制品ノ多寡ニヨリテ船舶ヲ沒收スヘキ額ニ付テハ一定セスト雖モ兎ニ角戰時禁制品ノ數甚シク多キトキハ船舶ヲモ沒收スヘシトノ主義ハ多クノ國家ニ於テ認ムル所ナリ（明治四十二年倫敦宣言參照）

戰時禁制人トハ敵國軍人及其他ノ者ニシテ敵國ノ軍事ニ從フ爲メ輸送セラルル者ヲ云ヒ戰時禁制書トハ敵國政府ノ官吏カ公務上往復スル一切ノ公文書類ヲ云フ禁制人ニ對スル制裁ハ之ヲ俘虜トナスニ在リ戰時禁制書ニ對スル制裁ハ之ヲ沒收スルニ在リ

敵船タルト中立船タルトヲ問ハス交戰國ハ之ヲ抑止シ、臨檢シ、搜索シ、拿捕スルノ權利ヲ有シ拿捕ヲ遂ケタル曉ニハ之ヲ捕獲審檢所ノ審檢ニ委ス捕獲審檢所ノ組織、審檢ノ手續等ニ付テハ明治二十七年八月二十日勅令第百四十九號捕獲審檢令及之ヲ改正シタル明治三十七年三月一日勅令第五十五號ヲ參照スヘシ

第十二款　局外中立

局外中立トハ第三國カ交戰國ノ何レニモ積極的ニモ將タ消極的ニモ援助ヲ與ヘスト云フコトナリ戰爭ニ加ハラサル國家ハ局外中立ノ宣言ヲナスヲ例トスレトモ此宣言ヲナササルモ事實戰爭ニ加ハラサルトキハ則チ局外中立ナリ

中立國ハ交戰國ノ軍隊カ自國ニ入リタルトキハ其武器ヲ脫セシメ成ルヘク戰場ヨリ遠隔シタル地ニ留置スヘシ蓋シ若シ然ラサルトキハ交戰國一方ノ援助ヲナスノ結果ヲ生スヘケレハナリ留置軍隊ニ衣食住ヲ供給スルノ義務ハ中立國ニ存スレトモ戰爭ノ終了シタル後其本國ヨリ之ヲ中立國ニ償還セサルヘカラス交戰軍ニ屬スル者ト雖モ傷者、病者ハ中立國之ヲ通過セシムルコトヲ得ヘシ

交戰國軍艦及軍用船カ中立國ノ港灣內ニ在ルトキハ中立國ハ二十四時內ニ退去ス可キ旨ヲ命セサルヘカラス尤モ食糧薪炭ノ搭載ニ必要ナルトキハ多少ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得ヘシ交戰國一方ノ軍艦又ハ船舶ト他方ノ軍艦トカ同時ニ中立國ノ港灣內ニ在ルトキハ前者ノ出發後二十四時ヲ經過スルニアラサレハ他方ノ軍艦ハ出發スルコトヲ得ス蓋シ若シ然ラサレハ追及シテ戰鬪ヲ開キ又ハ拿捕ヲ爲スノ恐アレハナリ

第十三款　休戰

休戰トハ交戰國ノ約スル戰爭ノ中止ナリ休戰ニハ一部ノモノト全部ノモノトアリ休戰條約既ニ締結セラルレハ戰爭行爲ハ一切爲スコトヲ得ス軍隊ノ增遣、糧食ノ運送ノ如キハ茲ニ所謂戰爭行爲ナルモノノ內ニ包含セラルルヤ否ヤニ付テハ疑アリ故ニ休戰條約ヲ締結スルニ當リテハ此等ノコトヲ委曲ニ約定スルノ必要アリ例ヘハ明治二十八年ノ日淸休戰條約第三條ノ如シ休戰ハ戰鬪行爲ノ中止ニ過キサルカ故ニ戰鬪ノ結果ヲ維持スルコトハ自由ナリ例ヘハ封鎖ハ尙ホ繼續スヘク占領モ亦然リ

休戰中ト雖モ各交戰國ノ軍隊ハ對陣スルヲ以テ或ル一定ノ方法ヲ設ケサレハ衝突スルコトナキヲ保セス此衝突ヲ防クノ方法トシテ離隔地帶或ハ中立地帶ト稱スルモノヲ設ク休戰條約ノ違反ニ二種アリ一ハ軍隊カ國家ノ命令ナクシテ違反シタル場合他ハ國家自身カ違反シタル場合是レナリ前ノ場合ニ於テ違反ヨリ損害ヲ生シタルトキハ其軍隊ノ本國ハ損害賠償ノ責任アリ然レトモ對手國ハ之

ヲ理由トシテ條約ヲ破毀スルコトヲ得ス之ニ反シ後ノ場合ニ於テハ對手國ノ違反ヲ理由トシテ直チニ戰爭狀態ニ復歸スルコトヲ得ヘシ

第十四款　戰爭ノ終了

戰爭ハ條約ニ因リテ終了スル場合ト條約ニ因ラスシテ終了スル場合トアリ條約ニ因ラスシテ戰爭ノ終了スル場合ヲ左ノ二ニ小別スルコトヲ得

第一　一國カ他國ヲ征服シタル場合ニハ征服セラレタル國家ハ其存在ヲ失フヲ以テ其國家トノ戰爭カ終了スルコト言ヲ竢タス例ヘハ英國カ杜國ヲ征服シタルカ如シ

第二　戰爭カ事實上廢止セラレタル場合　此場合ニハ單ニ一時的ノ戰爭休止ノ如クナルノ觀アリト雖モ互ニ公使ヲ派遣スルカ如キ其他條約ヲ締結スルカ如キコトアラハ是レ明カニ平和關係ニ復シタルモノナリト云ハサルヘカラス

媾和條約ニヨリテ戰爭ノ終了スルハ言ヲ竢タス媾和條約ノ特別效果ハ各種ノ

第十章　國際私法

第一節　國際私法ノ意義

國際私法トハ或ル私法上ノ關係カ如何ナル國ノ法律ノ適用ヲ受ケ若クハ如何ナル國ノ法律ニヨリテ裁判又ハ執行セラルルカヲ決定シタルモノナリ例ヘハ日本人ト日本人トカ米國ニ於テ婚姻シタル場合ニ此ノ婚姻ニ日本ノ法律ヲ適用スヘキカ將タ米國ノ法律ヲ適用スヘキカヲ定ムルカ如キ又ハ日本人ト米國人トカ英國ニ於テ賣買ノ契約ヲ爲シタルトキハ日英米何レノ法律ニ依リテ賣買契約ノ成立、效力等ヲ認ムヘキカノ如キ又ハ獨逸人ト佛蘭西人トカ伊太利ニ於テ金錢ノ貸借契約ヲ爲シタル場合ニ於テ何レノ國法ニ依リ此ノ貸借關係ヲ決定スヘキカノ如キ是レナリ

歐羅巴ニ於テモ國際私法ハ國內法ナリト論スル學者アリト雖モ國內法上ノ國際私法的規定ト國際私法夫レ自身トハ明カニ區別セサルヘカラス何トナレハ國際私法上ノ原則ハ國際公法ト同シク世界各國カ此ニ拘束セラルヘキモノナレハ

ナリ今日ニ於テハ國際私法上ノ原則トシテ確然認メラレタルモノ多カラスト雖モ將來ニ於テハ漸次ニ發達シテ各國盡ク之ヲ承認シ且之ニ從フヘキ趨勢アルモノナリ

第二節　能力

前述ノ如ク國際私法ハ國際公法ト異リ國家間ノ關係ヲ規定シタルモノニアラスシテ私人間ノ法律關係ニ關スルコトヲ定メタルモノナリ私人即チ人ノ能力ニ關スル問題ハ何レノ國法ニヨリテ決スヘキヤニ付テハ二個ノ主義アリ一ハ即チ各人ノ本國法ヲ適用スヘシトナスモノニシテ例ヘハ日本人カ佛國ニ在レハ其成年ナルカ未成年ナルカハ日本ノ法律ニ依リテ決スヘシト云フナリ他ハ即チ各人ノ住所地ノ法律ニ依リテ決スヘシト云フモノニシテ例ヘハ日本人タル妻カ夫ト共ニ英國ニ住所ヲ有スルトキハ妻ノ能力問題ハ其本國法タル日本ノ法律ニ依ラスシテ英國ノ法律ニ依ルヘシト云フナリ前說ハ歐羅巴大陸學者ノ主張スル所ニシテ後說ハ英米ノ學者ノ採用スル所ナリ（法例第三條參照）

第三節　親族關係

第一款　婚姻及ヒ離婚

婚姻ハ是レニ因リテ正當ナル一家ヲ組織シ一切ノ親族權ヲ生スル本源ナルヲ以テ人生ノ行爲中最モ重要ナルモノナリ而シテ婚姻ハ人世ノ自然ノ性情ニ基クモノナルヲ以テ土地慣習ヲ異ニスルニ從ツテ此ニ關スル法則モ亦區々トシテ各國法ノ差異殊ニ多シ此ノ如キ場合ニ婚姻ニ關スル問題ハ何レノ國法ニ依リテ定ムヘキモノナリヤニ付テハ此ヲ實質上ノ要件ト形式上ノ要件トニ分ツ

實質上ノ要件ニ付テハ本國法ニ依ルヘシトノ說ト住所地法ニ依ルヘシトノ說ト行爲地法ニ依ルヘシトノ說トアリ而シテ本國法說ヲ採ル者最モ多シ故ニ原則トシテハ本國法ニ依ルヘク本國ノ不明ナルトキ若クハ本國法ナキトキハ住所地法ニ依ル更ニ住所ノ不明ナルトキ又ハ住所ナキ者ニハ居所ノ法律ヲ適用スヘキモノトセリ而シテ能力ヲ本國法ニ從ハシムル法律上ノ理由ハ能力ニ關スル規定ハ固ト當事者保護ノ趣旨ニ出テタルモノニシテ人ノ能力ナルモノハ其本國ノ地

勢、風俗、人情等ニヨリテ發達ニ遲速アルカ故ニ其保護ノ目的ヲ達センニハ本國ノ法律ニ依ラシムルノ外ナシト謂フニ在リ（法例第十三條參照）

婚姻ノ形式上ノ要件ニ付テハ一般ニ行爲地法ニ依ルモノトス蓋シ方式ノ事ハ本國ノ密接ノ關係ナク却テ行爲地ト重大ノ關係ヲ有シ且當事者ノ之ニ從フヲ便宜トスル所ナレハナリ（同上）

婚姻ヨリ生スル法律上ノ效果ニ付テハ夫ノ本國法ニ依ルヘシトノ說多キヲ居ム是レ一家統一上ノ便宜ヨリ出タルモノニシテ例ヘハ夫婦間ノ權利義務ノ如キハ一ニ夫ノ本國法ニ從フヘキモノトス（法例第十四條第十五條參照）

離婚ニ付テハ本國法ニ依ルヘシトノ說ト住所地法ニ依ルヘシトノ說ト訴訟地法（裁判所所在地法）ニ依ルヘシトノ說トアリ我法例ノ如キハ離婚ノ原因タル事實ノ發生セル當時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ルノ說ヲ採ル例ヘハ日本人タル夫婦アリ夫カ强盜ヲナシ後淸國ニ歸化シタリトセハ淸國法ニ夫ノ强盜カ離婚請求ノ原因タルヲ認メサルニ拘ハラス妻ハ其原因タル事實發生ノ當時ニ於ケル夫ノ本國法即チ日本ノ法律ニ依リテ離婚ノ請求ヲ爲スノ權利ヲ有スルモノナリ（法例第十六條參照）

第二款　親子

子カ嫡出子タルヤ否ヤハ其子ノ出生ノ當時父ノ屬シタル本國ノ法律ニヨリテ決ス否認訴權ノ如キハ即チ然リ私生子ニ付テ生スル問題ハ私生子ヲ認知シテ親子間ニ於ケル權利義務ヲ明ニスルニ在リ私生子認知ノ要件ニ付テハ之ヲ雙方ノ方面ヨリ見、認知ヲ爲スコトハ認知者ノ本國法ニ依リ認知セラルル子ノ能力ニ關シテハ其子ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス（法例第十七條第十八條參照）

養子緣組ニ付テハ養親トナル要件ト養子トナル要件トニ分チテ各々其本國法ニ依リテ定ムヘキモノトシ養子緣組ノ效力即チ養親子ノ分限カ確定シタル以後ノ法律關係ハ養親ノ本國法ニヨリテ支配セラルヘキモノトス獨リ一身上ノ權利關係ノミニ止ラス財產上ノコトニ付テモ亦然リ（法例第十九條參照）

第三款　扶養義務

親子又ハ其他ノ親族間ニ於ケル扶養ノ義務ニ付テ問題ヲ生スルトキハ扶養ノ請求ヲ受クル者ノ本國法ニ依リテ定ムヘキモノトス蓋シ此ノ事タル扶養ノ請求ヲ受クル者ニ最モ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナレハナリ（法例第二十一條參照）

第四節　物權

物權ニ關シテハ何レノ國法ヲ適用スヘキカ此事ニ付テハ動產、不動產共ニ其所在地法ニ從フヘシトノ說ト動產、不動產共ニ本國法又ハ住所地法ニ依ルヘシトノ說ト動產ト不動產トヲ分チ不動產ニ付テハ所在地法ニヨリ動產ニ付テハ其所有者ノ本國法又ハ住所地法ニヨリテ決スヘシトノ三說ニ岐ル而シテ不動產カ其所在地法ニ依ルヘシトノ學說ニ付テハ一般ニ異論ヲ挾ム者ナシ其理由トスル所ハ不動產ハ其所在地ト密接ノ關係ヲ有シ所在國ノ安寧秩序ニ關スト云フニ在リ然ルニ動產ハ常ニ其所在地ヲ變更シ不動產ト揆ヲ一ニスルコト能ハサルヲ以テ其所有者ノ本國法又ハ住所地法ニ依ルヘシト主張スル者多シ我カ法例第十條ハ動產及不動產ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

前項ニ掲ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

ト規定セリ故ニ所有權、占有權、用益權、地役權等ニ關スルコト其他物上擔保ニ關スルコト皆此原則ヲ適用スルコトヲ得ヘシ

第五節　債權

契約ニ關スル法律ハ專ラ個人ノ意思ヲ本據トシテ定メタルカ故ニ苟クモ一國ノ公ノ秩序、善良ノ風俗ニ反セサル限リハ凡テ個人ノ自由意思ヲ以テ法律ノ規定ニ從フコトヲ得故ニ或國ノ人カ外國ニ在ル場合ニモ能力ノ點ヲ除クノ外ハ何レノ國ノ法律ニ從フノ契約ヲナスモ毫モ妨クル所ナク一ニ當事者ノ意思如何ニ任ス故ニ契約ノ成立及效力ヲ定ムルニ付テ明カニ當事者ノ意思ヲ認ムルトキハ何レノ國ノ法律ニ於テモ當事者ノ依ラント欲スル國ノ法律ニ從テ決スヘキモノトス然ルニ當事者カ明カニ其意思表示ヲナササル場合ニシテ他ノ事情ヨリスルモ之ヲ知ルコト能ハサル場合ニハ如何ニシテ決スヘキカ此事ニ付テハ行爲地法ニ依ルヘシトノ說ト債權者ノ本國法ニ依ルヘシトノ說ト債務者ノ本國法ニ依ルヘシトノ說ト債務者ノ本國法ニ依ルヘシトノ說ト訴訟地方ニ依ルヘシトノ說トアリ債權者ノ本國法ニ依ルヘシトノ說ハ契約ニハ債權者ニ重キヲ置クヘシトノ理由ニ出テ第三說ハ契約ニハ債務者ニ重キヲ置クヘシトノ理由ヲ本トシ第四說ヲ採ル者ハ契約ハ履行ヲ目的トスルカ故ニ履行地法ヲ重ンスヘシト云ヒ第五說タル訴訟地法ニ依ルヘシトノ說ハ裁判所ノ所在地カ其事件ニ最モ大ナル關係ヲ有スルトノ理由ニ出ツルモノナリ然リト雖モ當事者ノ最モ知リ易キ法律ハ行爲地法ニシテ且ツ當事者ハ行爲地ニ最モ大ナル關係ヲ有スルトノ理由ニヨリ行爲地法說最モ多數ヲ占ム從ツテ契約ノ效力ノ如キモ苟モ自國ノ公ノ安寧秩序ニ反セサル限リハ行爲地法ニ依ルコトヲ認ムヘキモノナリ契約ノ方式ニ付テハ場所ハ行爲ヲ支配ストノ原則ニ從ヒ凡テ行爲地法ニ依ル（法例第七條第八條參照）

法律ヲ異ニスル地ヲ隔ツル者ノ間ノ契約ニ付テハ我カ法例第九條ニ於テ左ノ如ク規定ス

法律ヲ異ニスル地ニ在ル者ニ對シテ爲シタル意思表示ニ付テハ其通知ヲ發シタル地ヲ行爲地ト看做ス

契約ノ成立及效力ニ付テハ申込ノ通知ヲ發シタル地ヲ行爲地ト看做ス若シ其申込ヲ受ケタル者カ承諾ヲ爲シタル當時申込ノ發信地ヲ知ラサリシトキハ申込者ノ住所地ヲ行爲地ト看做ス

事務管理不當利得、不法行爲ニ付テハ其權利ノ原因タル事實發生地ノ法律ニ依ル即チ一般ノ契約カ行爲地ノ法律ニ從フト同一ノ理由ニ出テタルナリ（法例第十一條參照）

第六節　相續

相續ノ準據法ニ關シテハ相續財產ノ所在地法ニ從フヘシト主張スルモノアルモ被相續人ノ本國法ニ依ルヘシトノ說多數ナリ我法例モ此主義ニヨリ相續ニ關スル一切ノ問題ヲ擧ケテ被相續人ノ本國法ニ委ネタリ蓋シ若シ被相續人ノ本國法ニ依ラサルトキハ時ニ被相續人ノ意思ニ反スルノ虞アルノミナラス相續ノコトハ被相續人ノ本國ノ公ノ秩序ニ關スルモノナレバナリ（法例第二十五條參照）

第七節　商事

第一款　手形

手形能力ノ管轄法ニ付テモ亦能力ハ本國法ニ從フト云フ一般ノ原則ヲ絕對ニ之ニ及ホスヘキモノト爲ストキハ頻繁ノ取引ニ付キ一々相手方ノ本國ト其能力ノ有無トヲ查按セサルヘカラサルカ如キ不便アリ迅速流通ヲ旨トスル手形ノ效用ヲ殺クノ憂ナシトセス是ニ於テ或ル國ノ法律ニ於テハ手形ノ能力ニ付テ特ニ例外ヲ認メ其本國法ニ於テ手形能力ナキトキト雖モ行爲地ノ法律ヲ適用シテ能力アルトキハ之ヲ能力者ト看做セリ例ヘハ獨逸ノ手形法第八十四條ノ規定ノ如キ是レナリ我商法施行法第百二十五條モ之レト同一趣旨ノ規定ヲナセリ英米兩國ニ於テハ手形能力ニ關シ行爲地法主義ヲ採リ本國法ニ依レハ無能力ナリト雖モ行爲地法ニ依リ有能力ナルトキハ之ヲ有能力者トセリ尤モ絕對的ニ行爲地法主義ヲ貫クモノニアラスシテ行爲地法カ有能力者ト認メ居ル場合ニハ本國法ノ如何ニ拘ラス有能力者ト爲スモ本國法カ有能力者ト爲シ行爲地法カ無能力者ト